

## Ⅱ. 評定尺度調査の分析結果

### 【評定尺度調査の分析にあたって】

今回用いた評定尺度は、「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の4段階評価である。本報告書においては、データの理解のしやすさや分析のしやすさを考慮し、便宜的に4段階のカテゴリーに4～1の点数を振り、その平均値を算出することによって、データの代表値とした。ただし評定尺度の各カテゴリーに振られた「数字」を「数値」として加減乗除の演算をすることは、厳密に言えば統計処理として適切でない。3が2よりもあてはまる程度が大きいことは言えても、4と3の間と3と2の間が等距離(つまり1の間隔)だという保証はどこにもないからである。しかし4つのカテゴリーごとの相対度数(パーセント)を見て、そこから何らかの傾向を把握することは必ずしも容易ではないため、平均値を回答の傾向を推察するための目安の1つとして用いていくことにしたい。

また、ここでの平均値は何らかの単位を持つものではないので、データ同士の相対比較でしかその傾向をつかみにくいという性格を持っている。仮にある項目の平均値が、他の項目より低かったとしても、大部分の回答者がその項目に対して肯定的な評価をしていれば、その項目の評価は低いと簡単に断言できるものではないからである。つまり絶対的な評価が把握しにくいと言える。そこで、「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した対象者の割合を同時に提示した。これによって、その評価項目に対して肯定的な評価をしている学生がどれくらいの割合で存在するかを推測する目安となろう。

さらに回答者の属性ごとの回答者数を提示しておく。本来ならば、グラフ等のデータごとに回答者数を示すべきであるが、データの構造上、全てのデータに回答者数を掲載すると非常に煩雑になるため、ここに一括して掲載することにした(次頁表2-1)。以下、本章においては、常に次頁の回答者数を念頭においてデータを見る必要がある。特に回答者数の少ない層は誤差も大きく出る可能性があるため、注意が必要である。たとえば、学部の職業別「農業等」、大学院の年齢階層別「20～29歳」等の場合である。なお、学部の年齢階層別の「19歳以下」および大学院の職業別の「農業等」「他大学の学生」は、極端に回答者数が少ないため、本報告書の分析からはずした。

表 2 - 1 回答者数一覧

【学部】

全体	3836	(単位:人)	
メディア		年齢階層	
テレビ科目(TV)	1,927	19歳以下	16
ラジオ科目(R)	1,909	20～29歳	314
職業		30～39歳	614
公務員等	283	40～49歳	790
教員	216	50～59歳	709
会社員	620	60～69歳	934
個人営業・自営業	204	70歳以上	440
農業等	36	コース	
看護師等	381	基礎科目	383
家事専業	379	生活と福祉	338
パート・アルバイト	376	心理と教育	371
他大学等の学生	53	社会と産業	782
無職	1,024	人間と文化	974
その他	233	自然と環境	613
		夏季集中	375

【大学院】

全体	1184	(単位:人)	
メディア		年齢階層	
テレビ科目(TV)	414	19歳以下	0
ラジオ科目(R)	770	20～29歳	36
職業		30～39歳	163
公務員等	162	40～49歳	298
教員	183	50～59歳	318
会社員	248	60～69歳	262
個人営業・自営業	61	70歳以上	99
農業等	12	プログラム	
看護師等	71	生活健康科学	335
家事専業	53	人間発達科学	188
パート・アルバイト	62	臨床心理学	41
他大学等の学生	6	社会経営科学	251
無職	216	文化情報学	258
その他	96	自然環境科学	111

※職業及び年齢には無回答があるため、職業及び年齢階層の回答者数をそれぞれ合計しても、全体の回答者数とは一致しない。

## Ⅱ－1. 学部の分析結果

### Ⅱ－1－1. 項目平均から見た全体的傾向

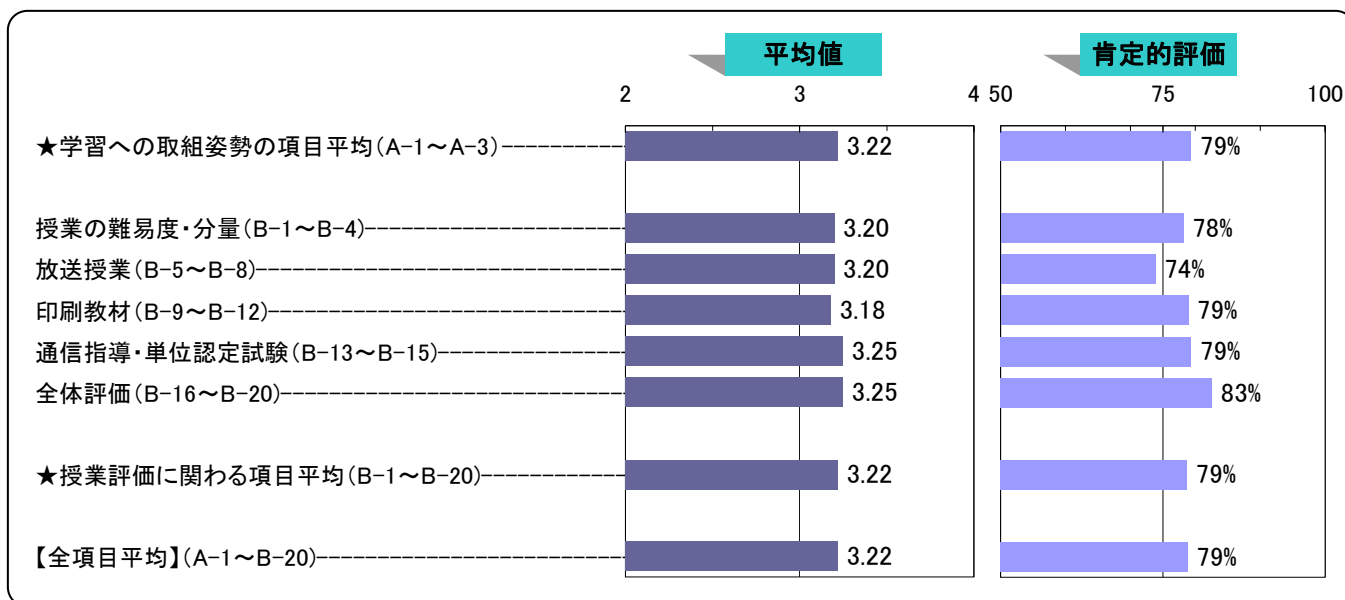
学部の回答者全体について、評価項目の内容ごとにその平均を算出したのが図 2－1 である。まずこれによって評価の全体的傾向を把握しておくこととする。

今回の調査における項目平均は、いずれもまずまずの高さの評価と言える。

『学習への取組姿勢の項目平均』は平均値 3.22、肯定的評価（「あてはまる」＋「ややあてはまる」）79%、同様に『授業評価に関わる項目平均』も平均値 3.22、肯定的評価 79%とまずまずの高い値を示している。比較的熱心に学習に取り組んだと同時に、授業に対する評価も比較的高いということが言える。

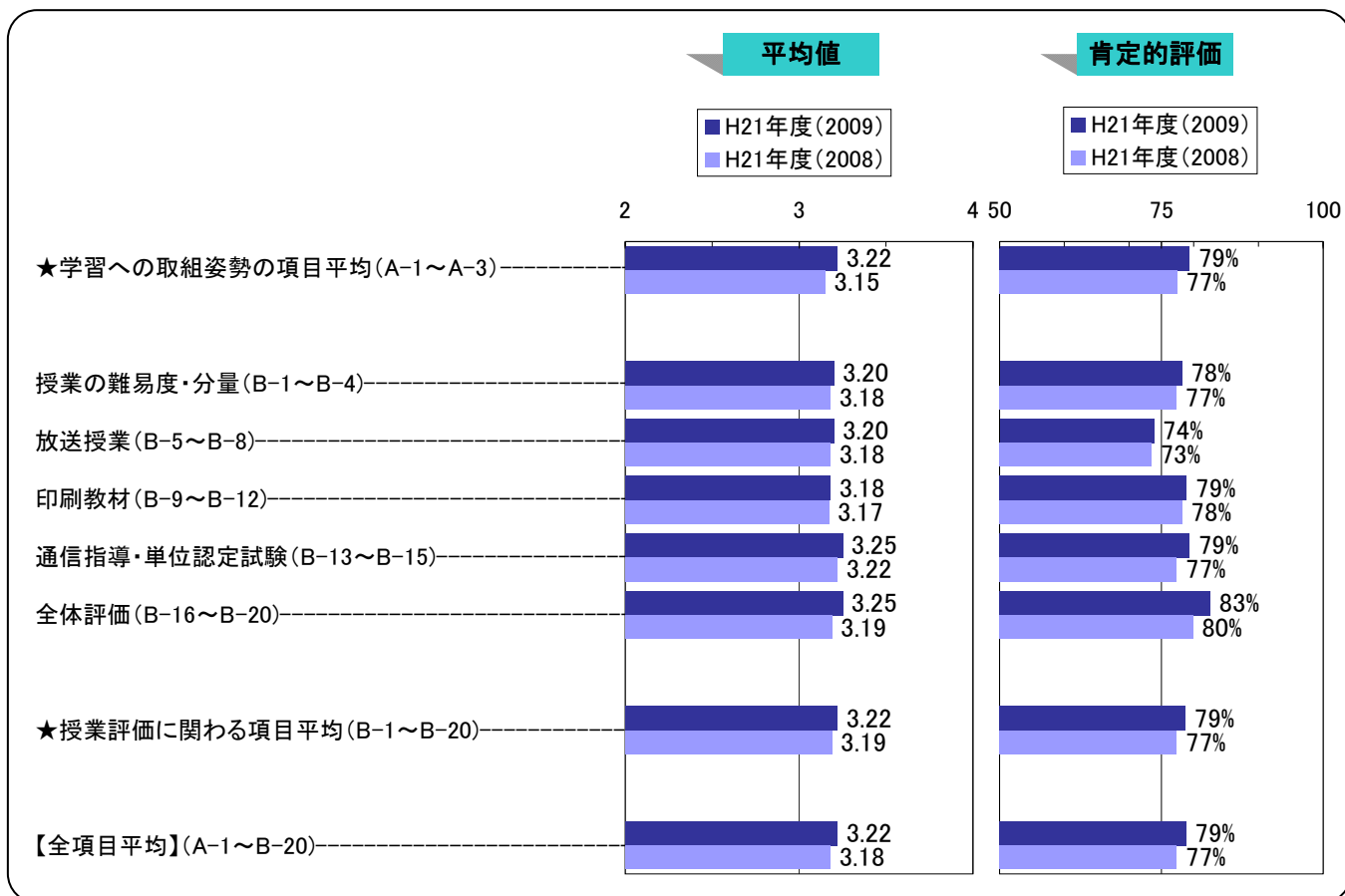
『授業評価に関わる項目平均』をさらに内容ごとにとみると、『全体評価』と『通信指導・単位認定試験』が他の項目平均より若干高めになっており、特に『全体評価』は肯定的評価 83%と高い。逆に『放送授業』は肯定的評価をしている人が、他の項目平均よりやや少なくなっている。

図 2－1 【学部】項目平均による全体的傾向



評価項目平均を科目の開設年度で比較してみると（図2-2）、2009年度新規開設科目は、2008年度新規開設科目に比べ、いずれの内容でも評価が上がっている。特に『全体評価』の値が最も上がっている。2009年度新規開設科目は、2008年度新規開設科目に比べ授業内容改善の効果が出てきていると言えよう。（なお、今回の調査では調査項目の一部修正があったため、評価項目内容ごとの平均においては、2007年度以前の新規開設科目との比較はできない）

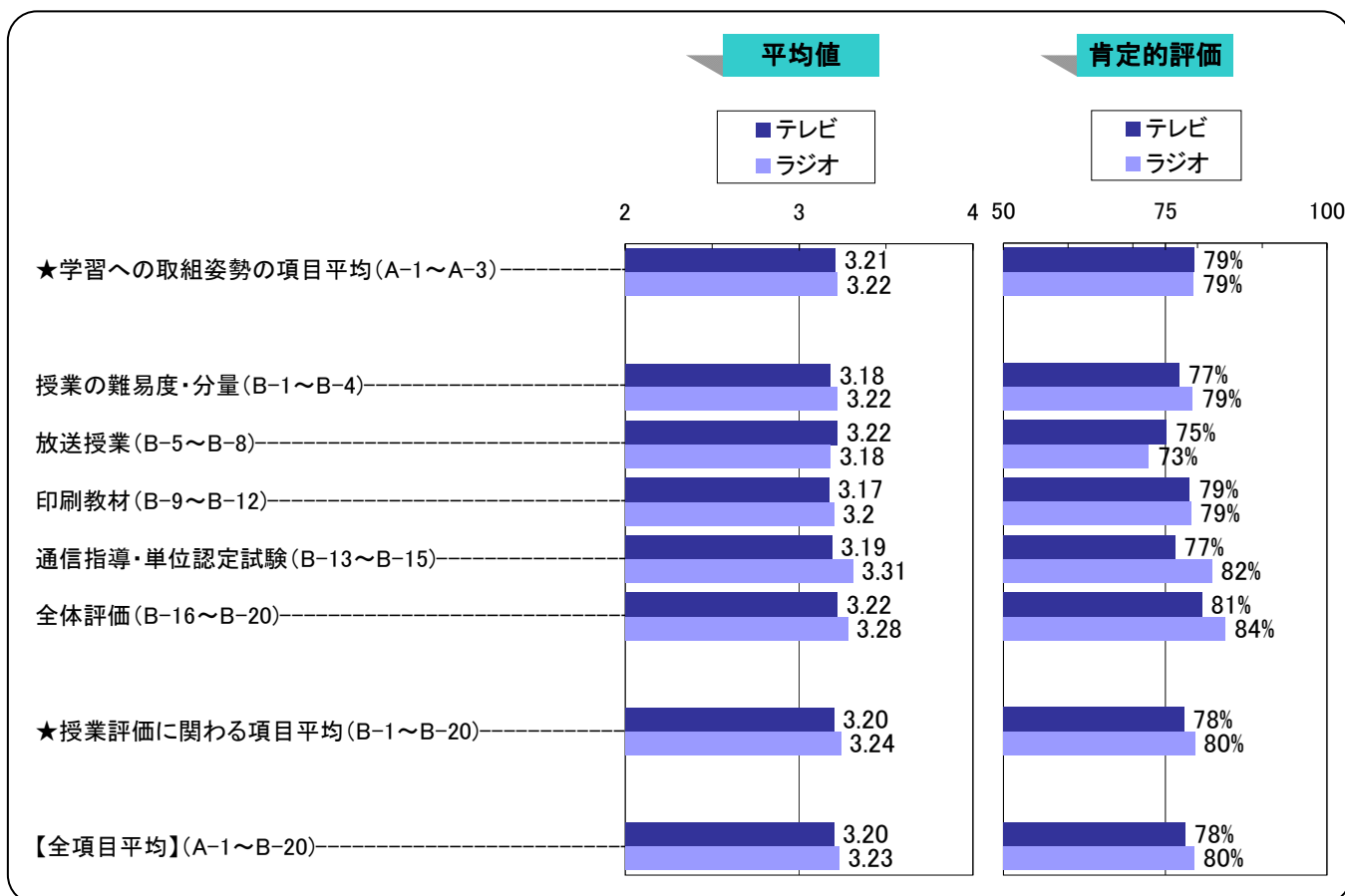
図2-2 【学部】項目平均による全体的傾向（開設年度比較）



メディア別に 2009 年度新規開設科目の評価項目の平均を見ると(図 2-3)、『学習への取組姿勢の項目平均』は、テレビ科目とラジオ科目で差は見られない。

一方、『授業評価に関わる項目平均』はラジオ科目の方が、値が高くなっている。特に『通信指導・単位認定試験』と『全体評価』でラジオ科目の評価が高くなっている。さらに過去の調査で評価が低かったラジオ科目の『放送授業』も、テレビ科目と差がないレベルまで評価が上がってきており、改善の効果が現れてきていると言えよう。

図 2-3 【学部】項目平均によるメディア別全体的傾向



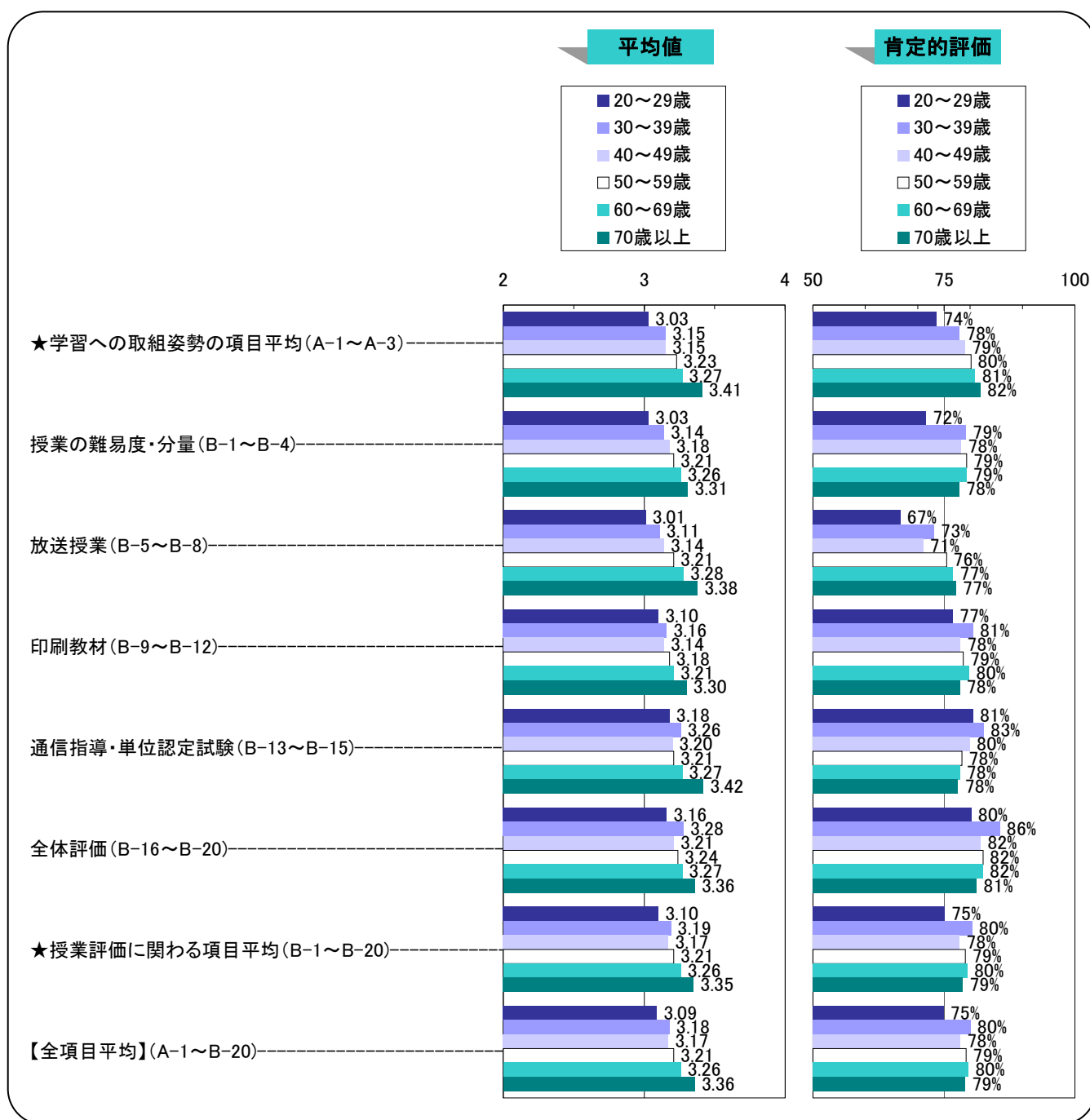
次にメディア別の項目平均を科目の開設年度で比較してみると（図2-4）、テレビ科目は2008年度と2009年度の差がほとんどなく、あまり改善の効果が現れていないのに対し、ラジオ科目は、いずれの項目平均でも2009年度の方が高い値となっている。このことから先に見た両年度間の改善の効果は、主にラジオ科目の改善の効果が大きいことが分かる。

図2-4 【学部】項目平均によるメディア別全体的傾向（開設年度比較）



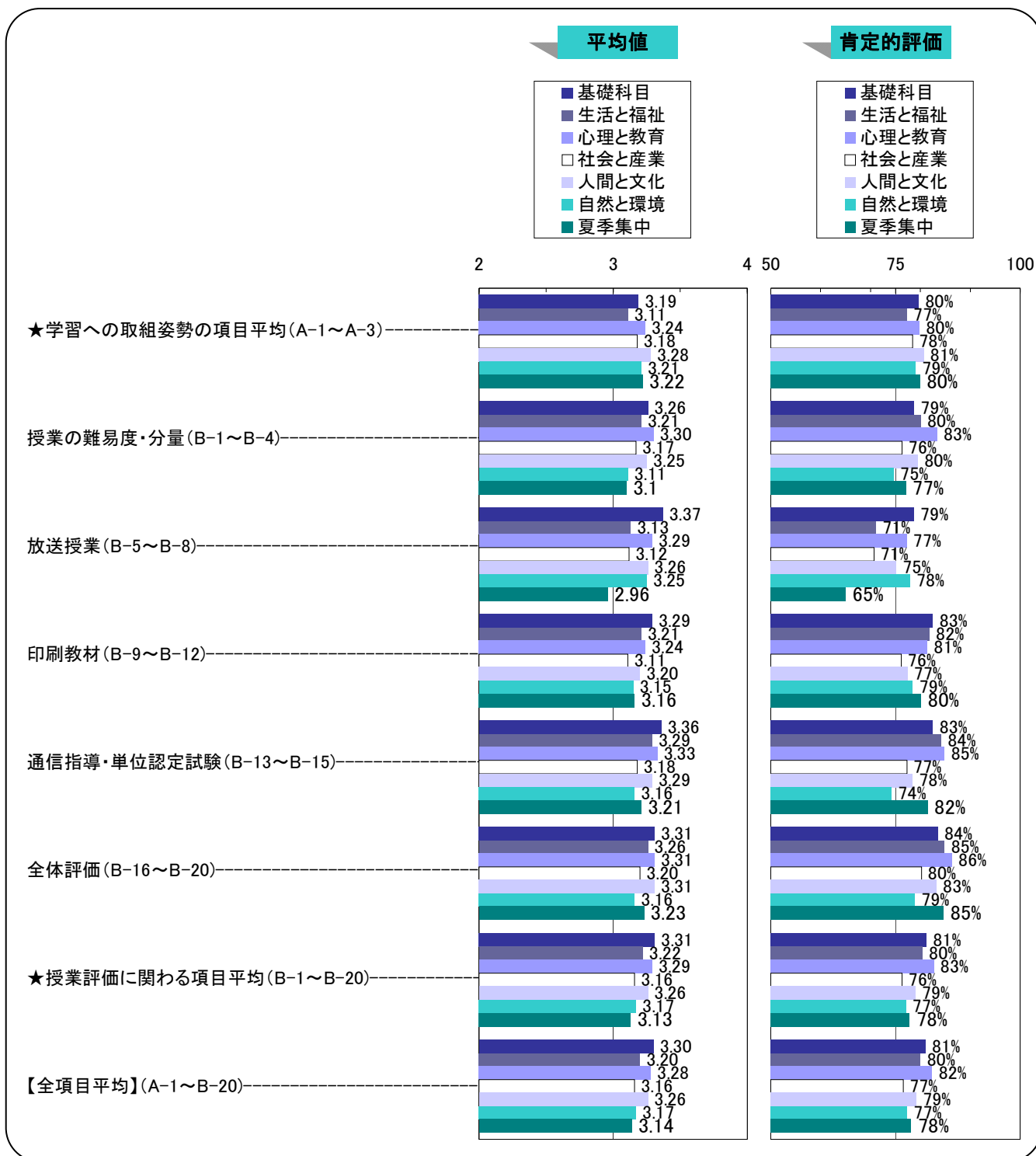
回答者の年齢階層別に 2009 年度新規開設科目の項目平均を見ると（図 2-5）、いずれの項目平均も年配層ほど評価が高くなる傾向にある。なお、取組姿勢では、平均値、肯定的評価とも年配層ほど高い評価となっているが、授業評価の項目平均では、平均値は年配層ほど評価が高いが、肯定的評価では年齢階層の差は少ない（これは評価がある程度高く、多くの人が「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答しているが、「あてはまる」の割合で年齢階層別の差が出ているためと思われる）。

図 2-5 【学部】 項目平均による年齢階層別全体的傾向



科目の所属コース別に項目平均を見ると（図2-6）、『学習への取組姿勢の項目平均』ではコース間の差は少ない。一方、『授業評価に関わる項目平均』では、「基礎科目」「生活と福祉」「心理と教育」「人間と文化」の評価がやや高く、「社会と産業」「自然と環境」「夏季集中」の評価がやや低い。また『放送授業』ではコース間の差が大きく、「生活と福祉」「社会と産業」「夏季集中」の評価が低く、改善が求められる。

図2-6 【学部】項目平均による所属コース別全体的傾向

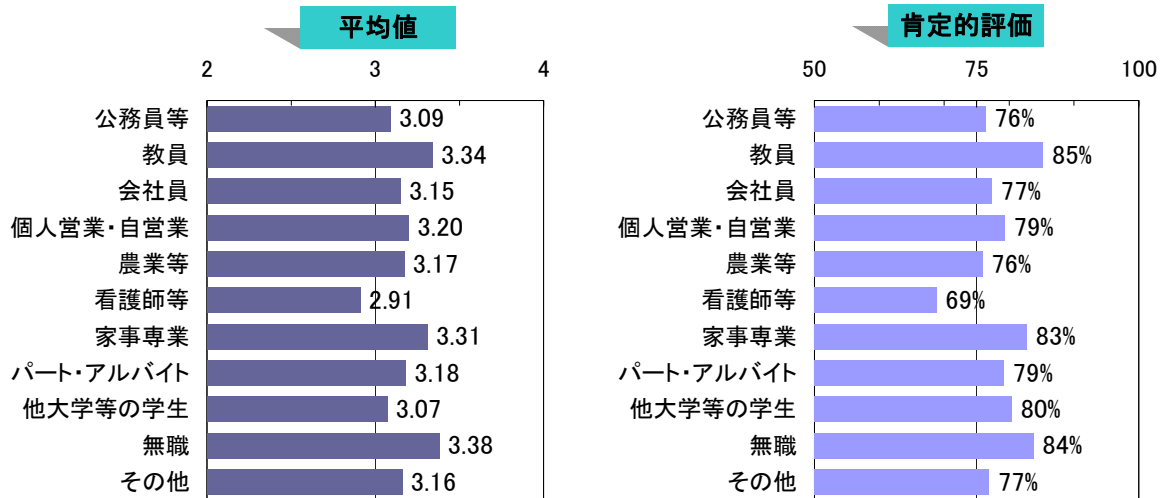




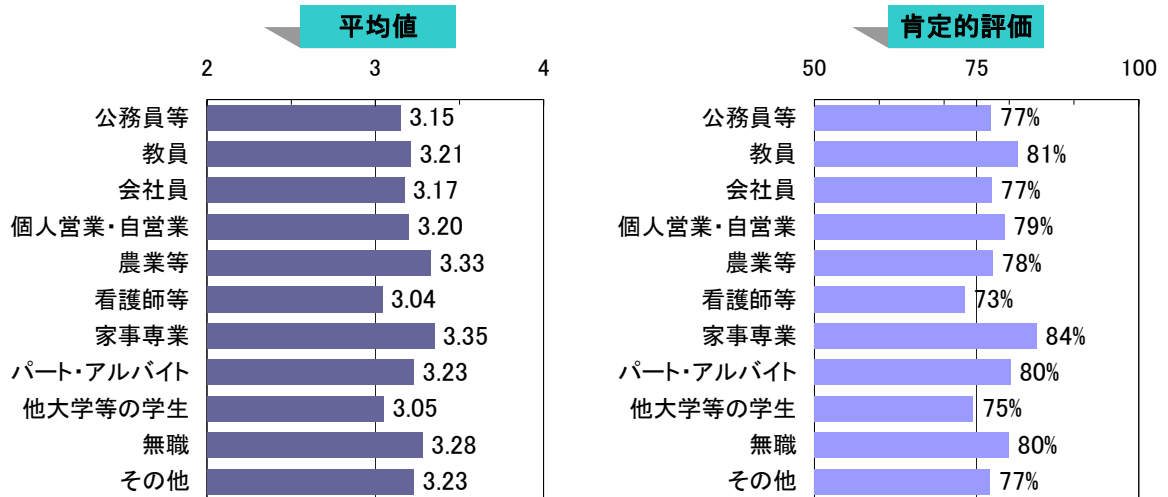
回答者の職業別に見ると（次頁図 2 - 7）、『学習への取組姿勢の項目平均』は、教員、家事専業、無職の人で高い値となっているが、逆に看護師等は低い値となっている。『授業評価に関わる項目平均』もほぼ同様の結果となっており、取組姿勢に対応した結果となっている。

図 2 - 7 【学部】項目平均による職業別全体的傾向

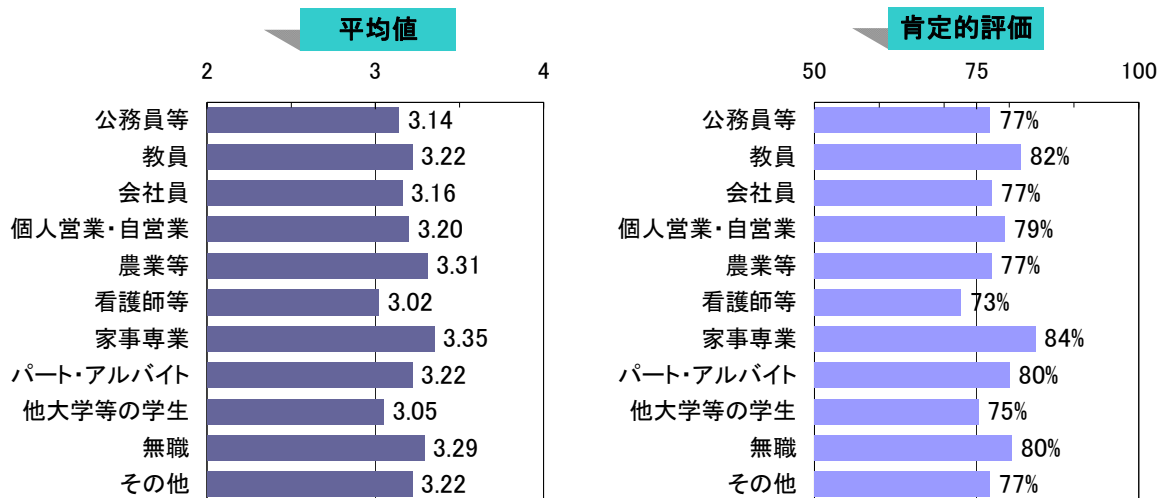
★学習への取組姿勢の項目平均(A-1～A-3)



★授業評価に関わる項目平均(B-1～B-20)



【全項目平均】(A-1～B-20)

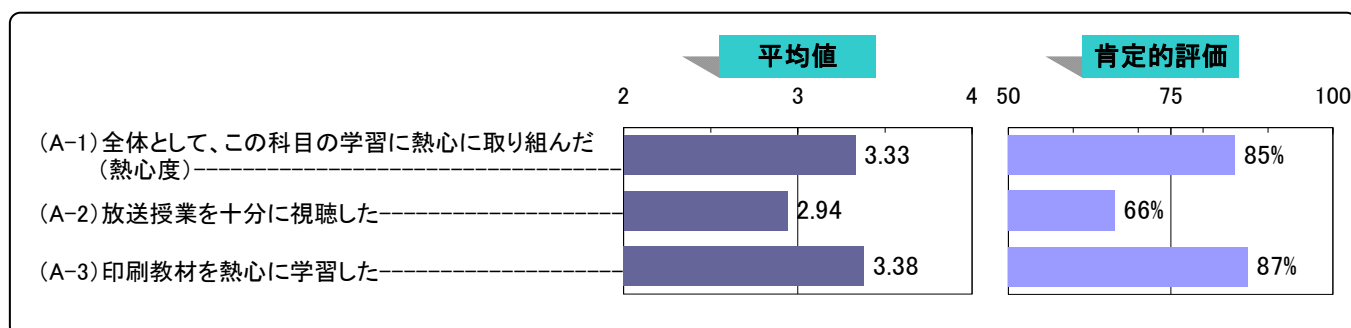


## Ⅱ-1-2. 学習への取組姿勢

ここからはそれぞれ評価項目ごとに調査結果を見ていく。

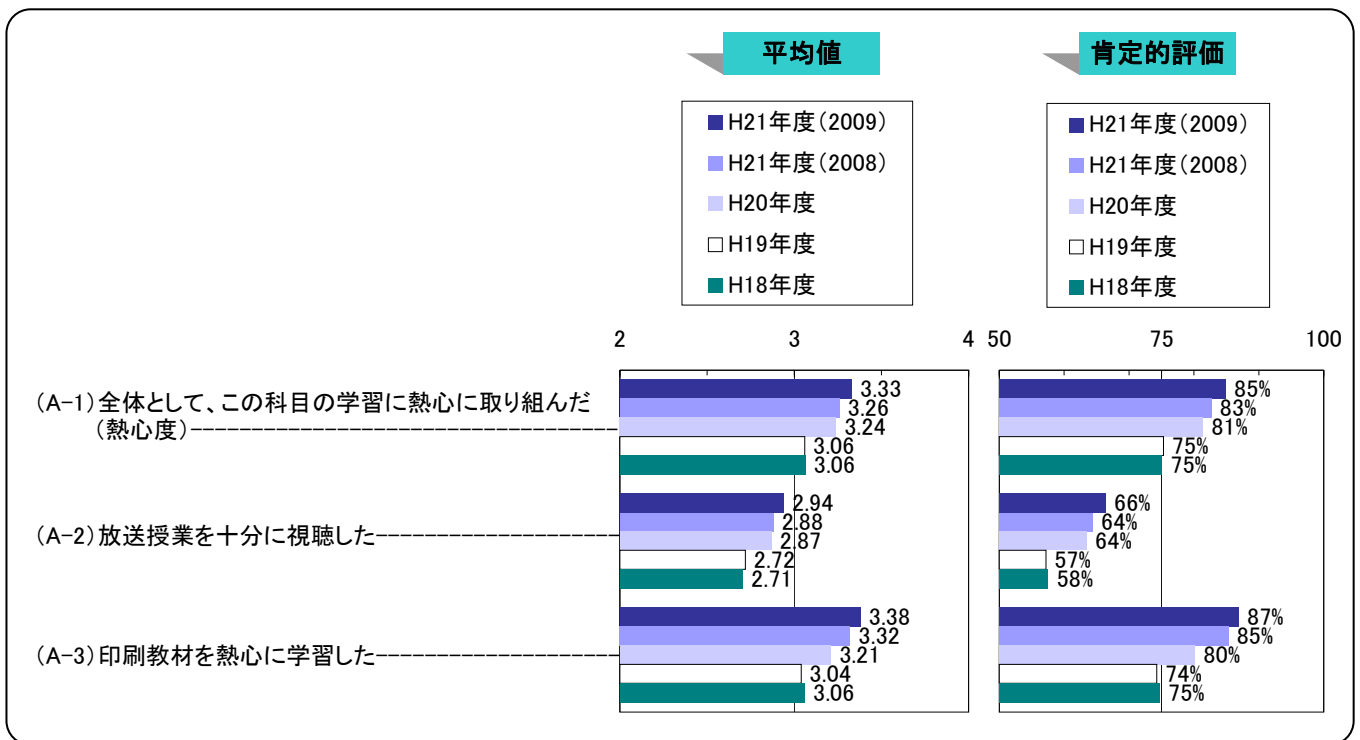
学習への取組姿勢（図2-8）では、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」は、平均値 3.33、肯定的評価 85%と熱心に学習されている。同様に (A-3)「印刷教材を熱心に学習した」も平均値 3.38、肯定的評価 87%と高い。しかしこれらに比べると、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は、平均値 2.94、肯定的評価 66%と低く、学習は印刷教材中心という傾向が見られる。

図2-8 【学部】回答者全体の取組姿勢



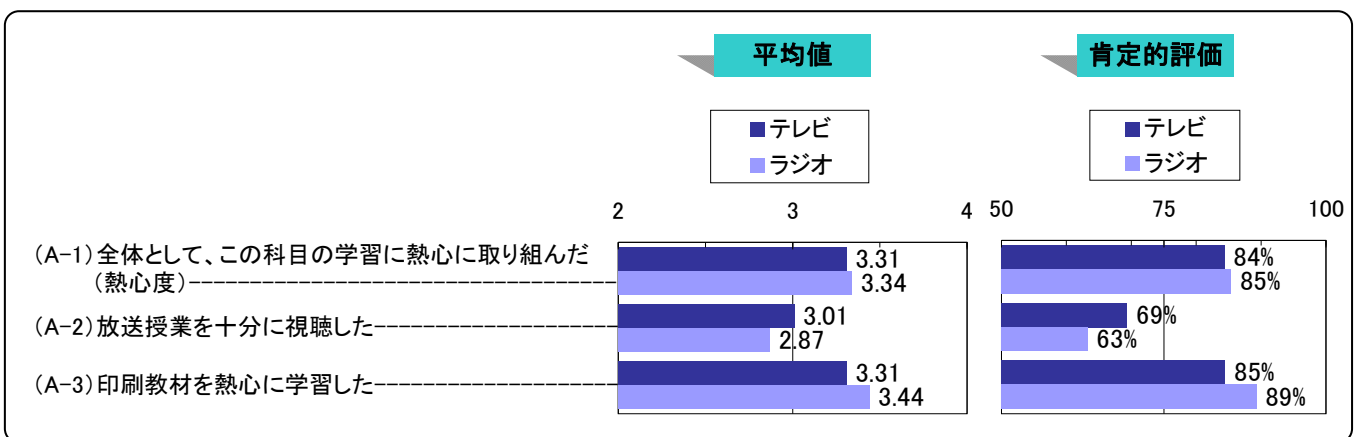
取組姿勢を時系列で見ると（次頁図2-9）、年ごとに取組姿勢が良くなっていることが分かる。これは単に学生の意識が高まっただけでなく、授業内容や教材が改善され、分かりやすく興味や関心がもてる科目が増えていることが大きく関係していると考えられる（取組姿勢と授業評価の関係については後述）。そのため取組姿勢があまり良くない放送授業についても、さらなる授業内容の改善に注力することによって取組姿勢も向上するものと考えられる。また、インターネットなどでの番組提供を増やすことによって、時間に制約されない視聴環境を作っていくことも必要であろう。

図 2 - 9 【学部】回答者全体の取組姿勢（時系列）



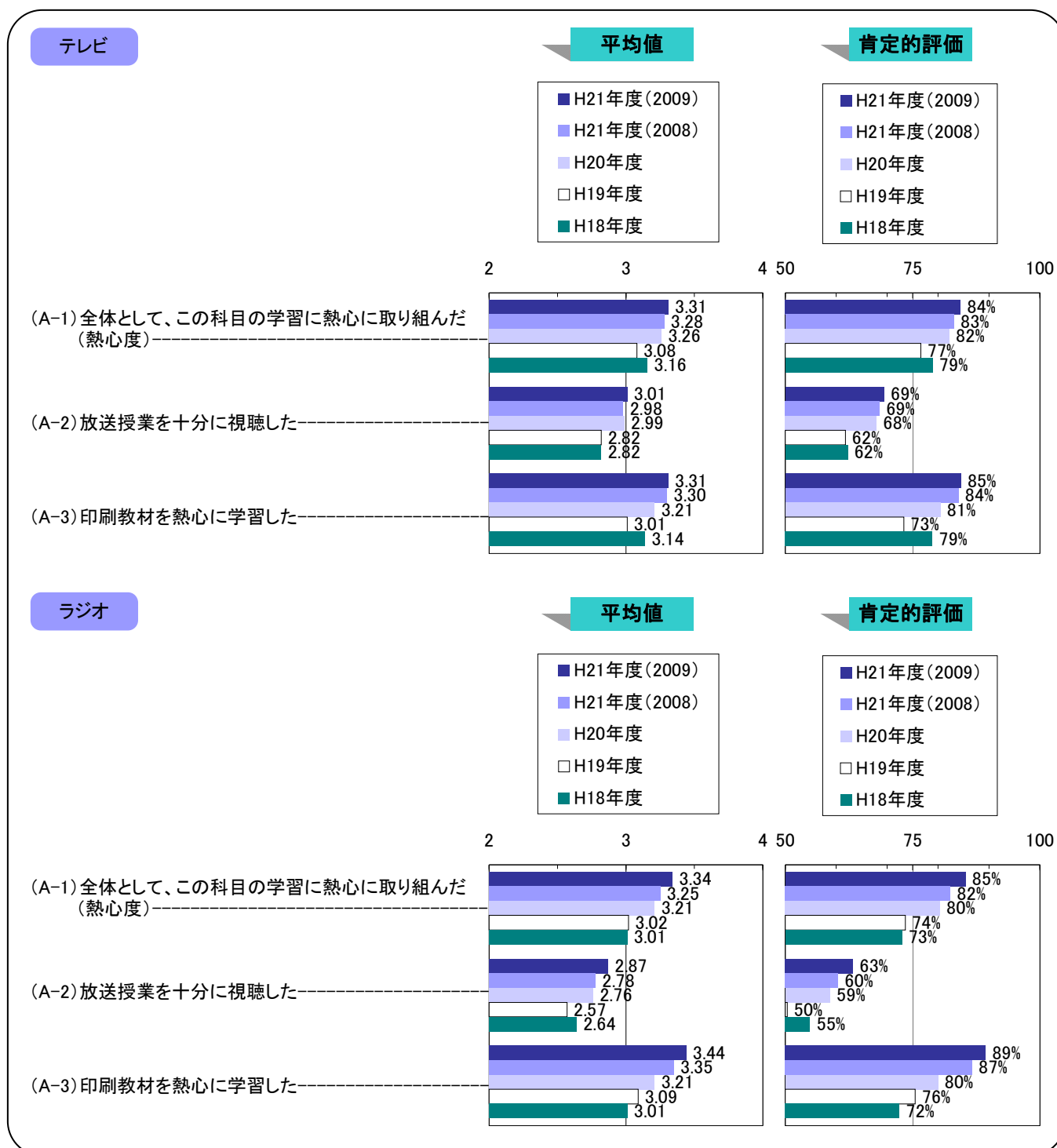
次にメディア別に取り組姿勢を見ると（図 2 - 1 0）、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」は、テレビ科目とラジオ科目で大きな差はない。しかし (A-2)「放送授業を十分に視聴した」という学生は、テレビ科目の方が多く、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」という人は、ラジオ科目の方が多くなっている。ラジオ科目は、特に印刷教材を中心に学習している学生が多いことが分かる。

図 2 - 1 0 【学部】メディア別の取組姿勢



メディア別の取組姿勢を時系列で見ると（図 2-1-1）、テレビ科目、ラジオ科目とも年々取組姿勢が良くなっている。特にラジオ科目の（A-1）「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」と（A-3）「印刷教材を熱心に学習した」の改善度合いが最も大きい。一方、テレビ科目の（A-2）「放送授業を十分に視聴した」は、平成 20 年度調査（2007 年新規開設科目）以降、ほとんど改善されていない。

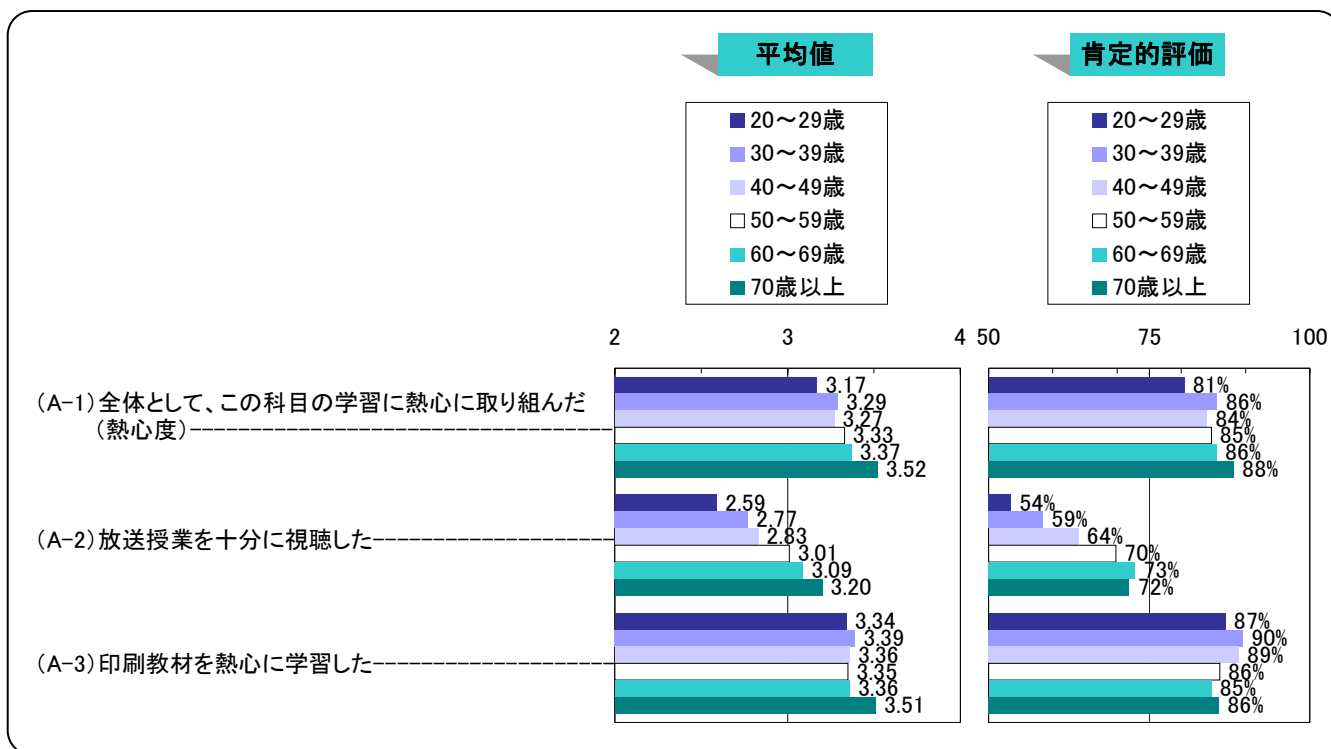
図 2-1-1 【学部】メディア別の取組姿勢（時系列）



年齢階層別に取り組姿勢を見ると（図2-12）、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」はどの年齢階層も多くなっているが、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は年配層ほど多くなっている。放送授業については、50歳未満の視聴が少なく、若い年代での視聴を増やす工夫が必要であろう。

(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」はやや年配層の方が多い。

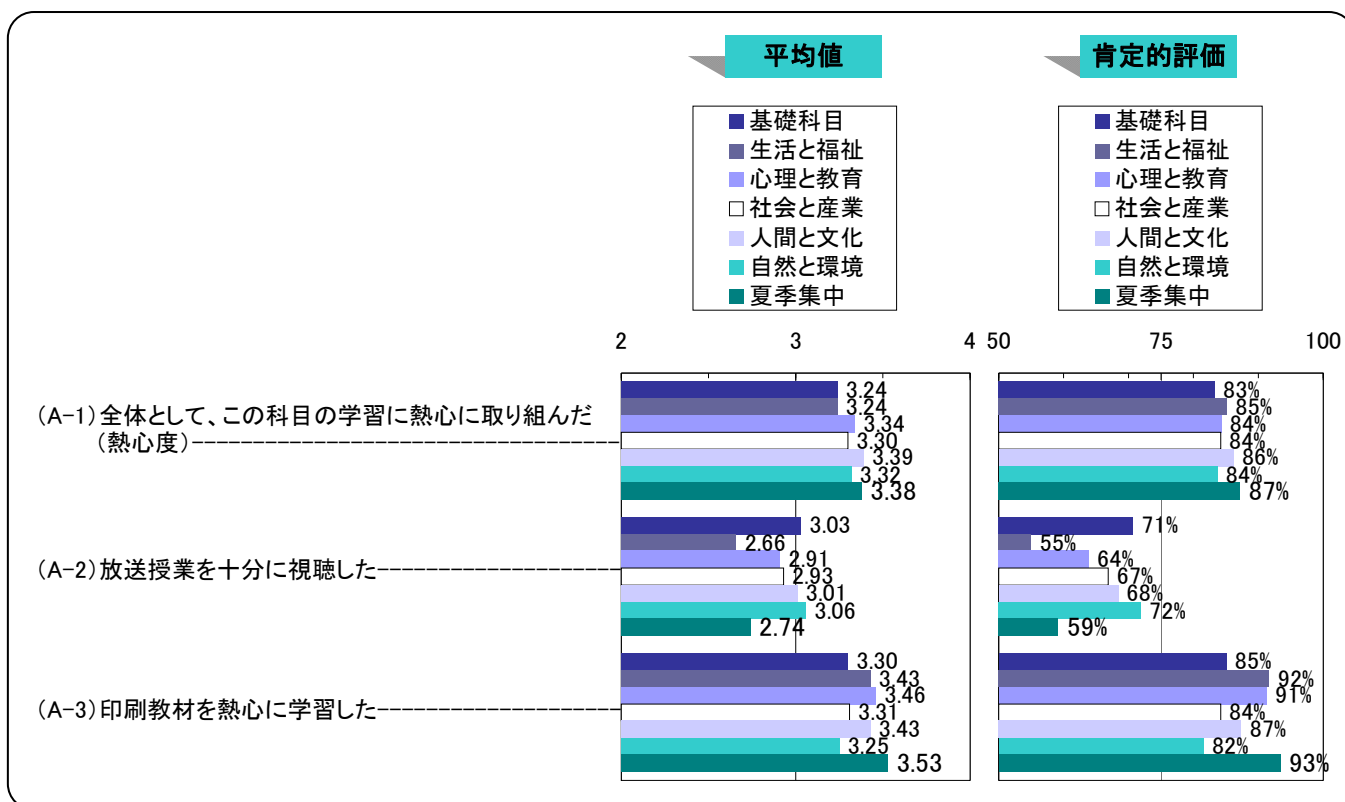
図2-12 【学部】年齢階層別に取り組姿勢



所属専攻別に取り組姿勢を見ると（図2-13）、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は、「基礎科目」「自然と環境」でやや多くなっているが、他の科目は少ない。特に「生活と福祉」「夏季集中」の視聴度合いがよくない。そのかわり「夏季集中」は(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」が非常に多く、印刷教材中心の学習者が多い。

(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」は、コースによる差は少なく、いずれのコースも高い値となっている。

図2-13 【学部】所属コース別の取組姿勢



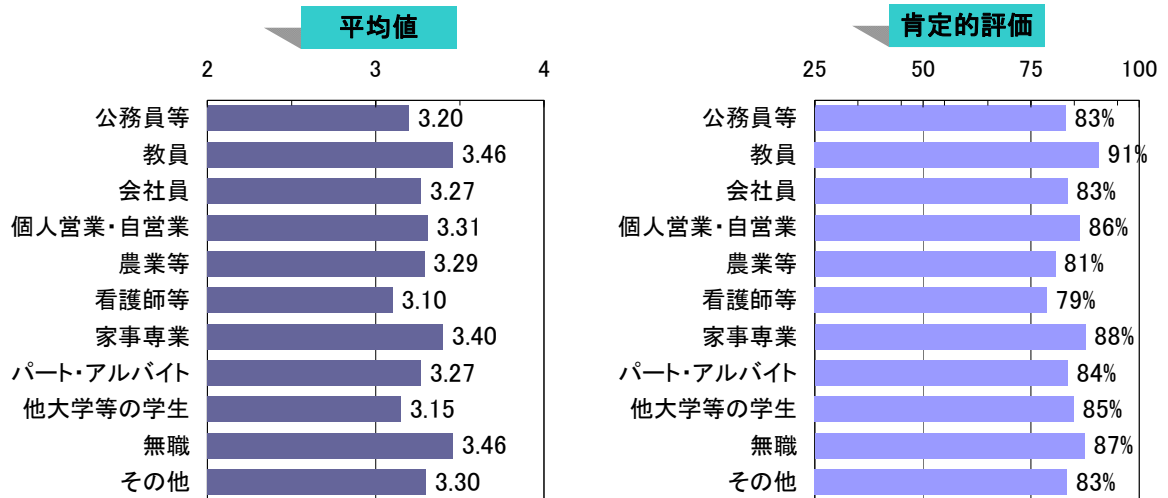
職業別で見ると（次頁図2-14）、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」および(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」は、どの職業も高い値を示している。

しかし(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は、看護師等が非常に少なく、教員、家事専業、無職以外の人あまり視聴していない。

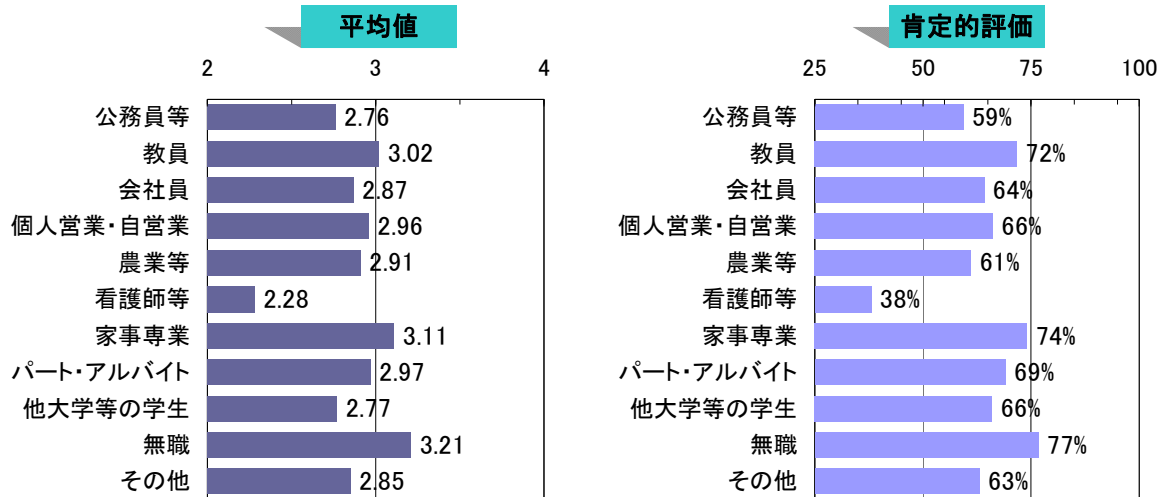
学生の取組姿勢は、本人の意識の高さや関心度、仕事や日常生活の時間的制約の程度、さらに科目（授業や印刷教材）の出来栄などによって左右されていると考えられる。

図 2 - 1 4 【学部】職業別の取組姿勢

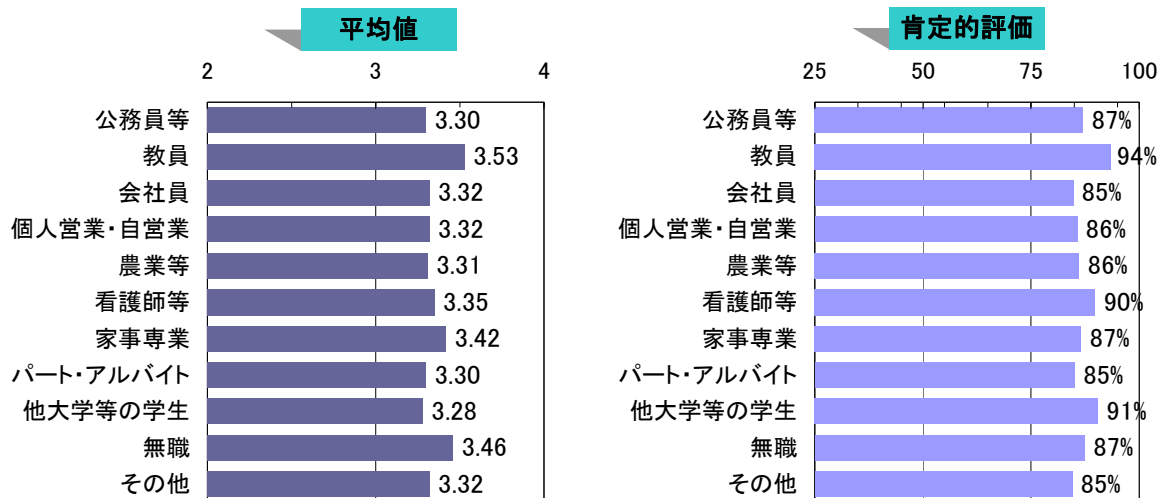
(A-1) 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)



(A-2) 放送授業を十分に視聴した



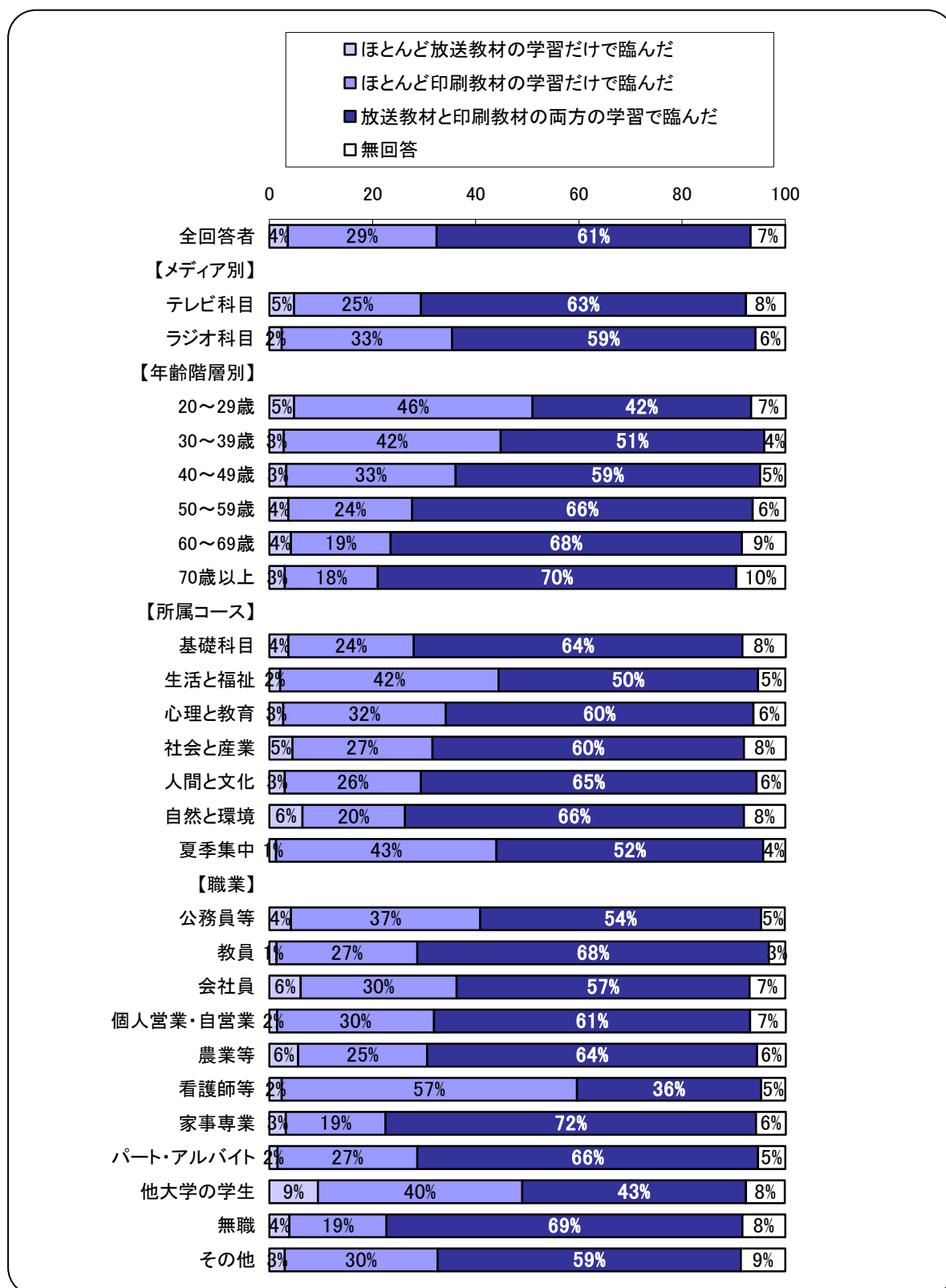
(A-3) 印刷教材を熱心に学習した





単位認定のための学習方法（図2-15）は、全体では「放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ」が61%を占め、また「ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ」も29%を占める。「放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ」は、年齢階層別では年配層ほど多くなっているが、職業別の看護師等と他大学等の学生では少なくなっている。

図2-15 【学部】 単位認定のための学習方法



## Ⅱ－1－3. 学部の授業評価

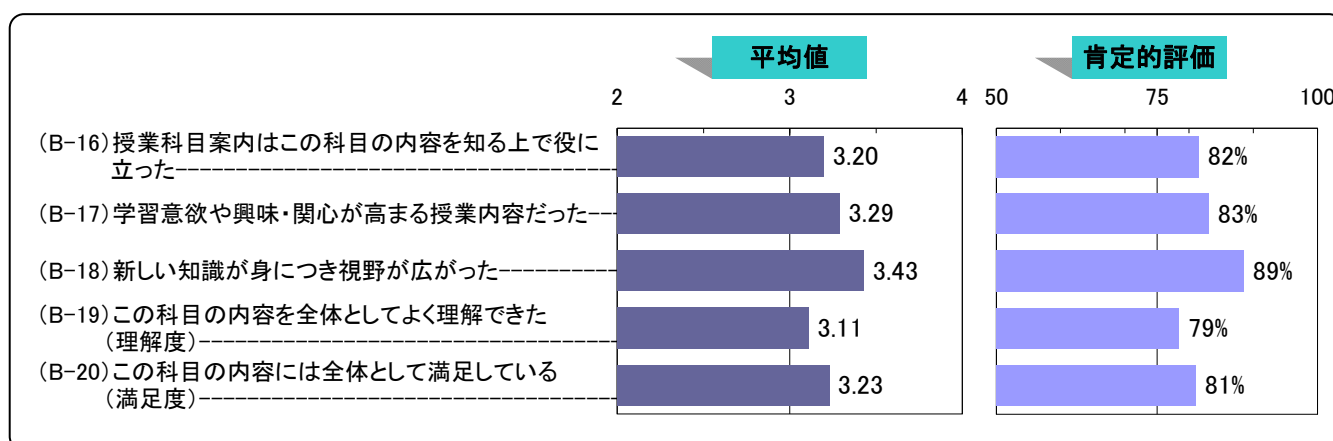
### (1) 全体評価

ここからは学部の授業評価について、評価項目ごとに見ていくこととする。

まず全体評価の各項目を見ると（図2－16）、(B-18)「新しい知識が身につく視野が広がった」は平均値 3.43、肯定的評価 89%とかなり高い評価を得ている。また (B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」も平均値 3.29、肯定的評価 83%と高くなっている。

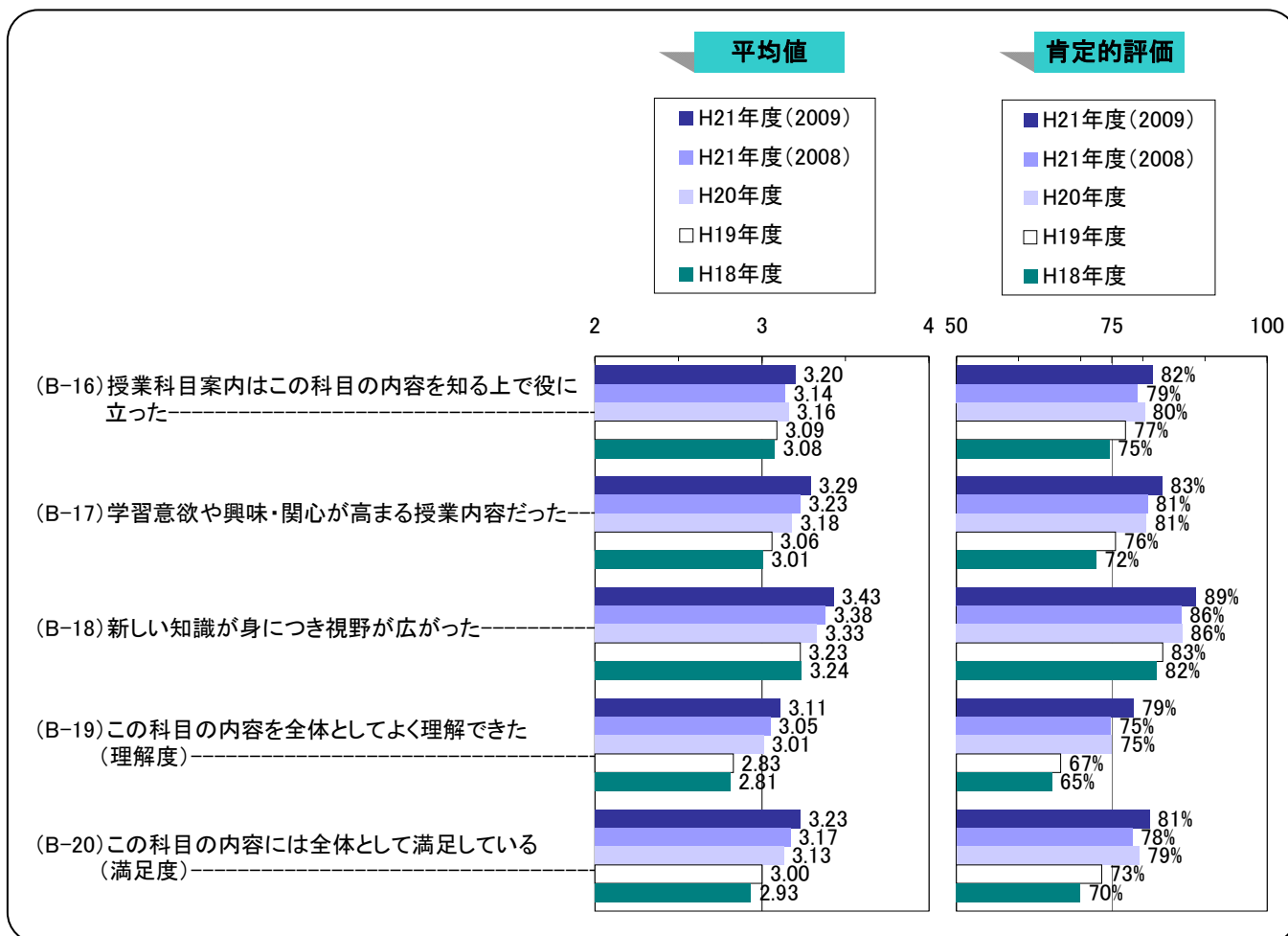
さらに(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」は平均値 3.11、肯定的評価 79%、(B-20)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」も平均値 3.23、肯定的評価 81%と、比較的高い評価と言える。ただ満足度に比べると理解度がやや低いため、興味や関心の高まる授業だけでなく、分かりやすい授業をさらに心がけるべきであろう。

図 2－16 【学部】 回答者全体の全体評価



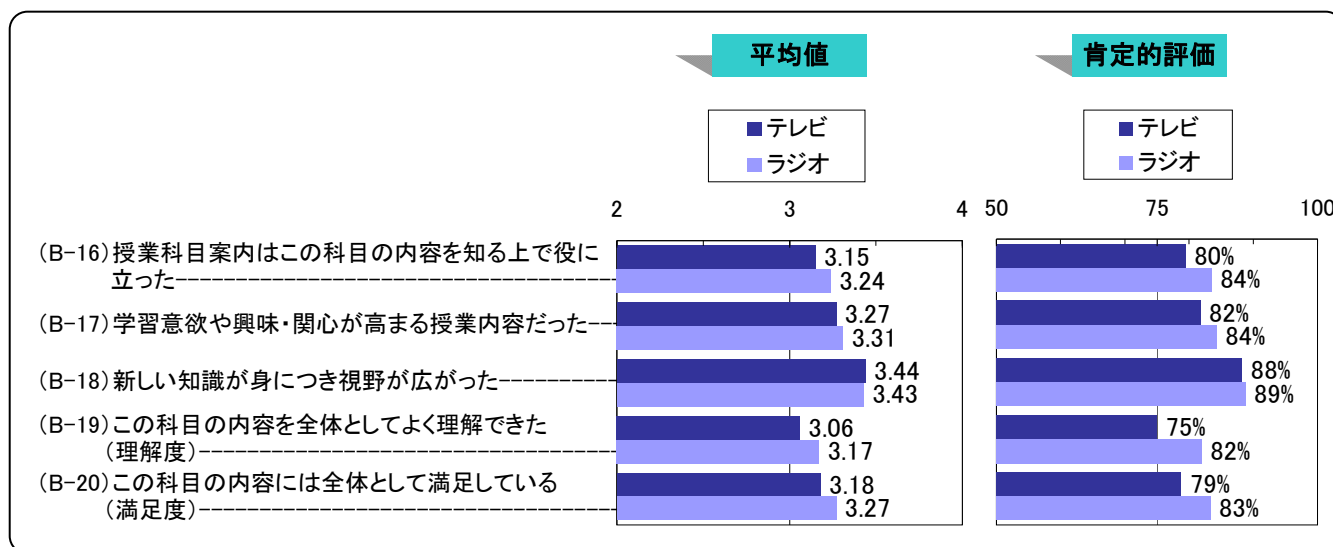
全体評価を時系列で見ると（図2-17）、いずれも年々評価が上がっており、授業改善の効果が出ていると言えよう。また、科目の総合評価とも言うべき理解度と満足度も年々向上しているが、今後、さらに向上させていく必要があるだろう。

図2-17 【学部】回答者全体の全体評価（時系列）



メディア別に全体評価を見ると（図 2-18）、(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」と (B-20)「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」は、テレビ科目よりラジオ科目の方が高くなっている。テレビ科目は映像という特性を生かし、さらに理解度を高める工夫が求められる。

図 2-18 【学部】メディア別の全体評価



メディア別の全体評価を時系列で見ると（次頁図 2-19）、テレビ科目はいずれの評価も年々高くなってはいるが、その変化はわずかである。(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」などは、ほとんど変化がないと言ってもよい。

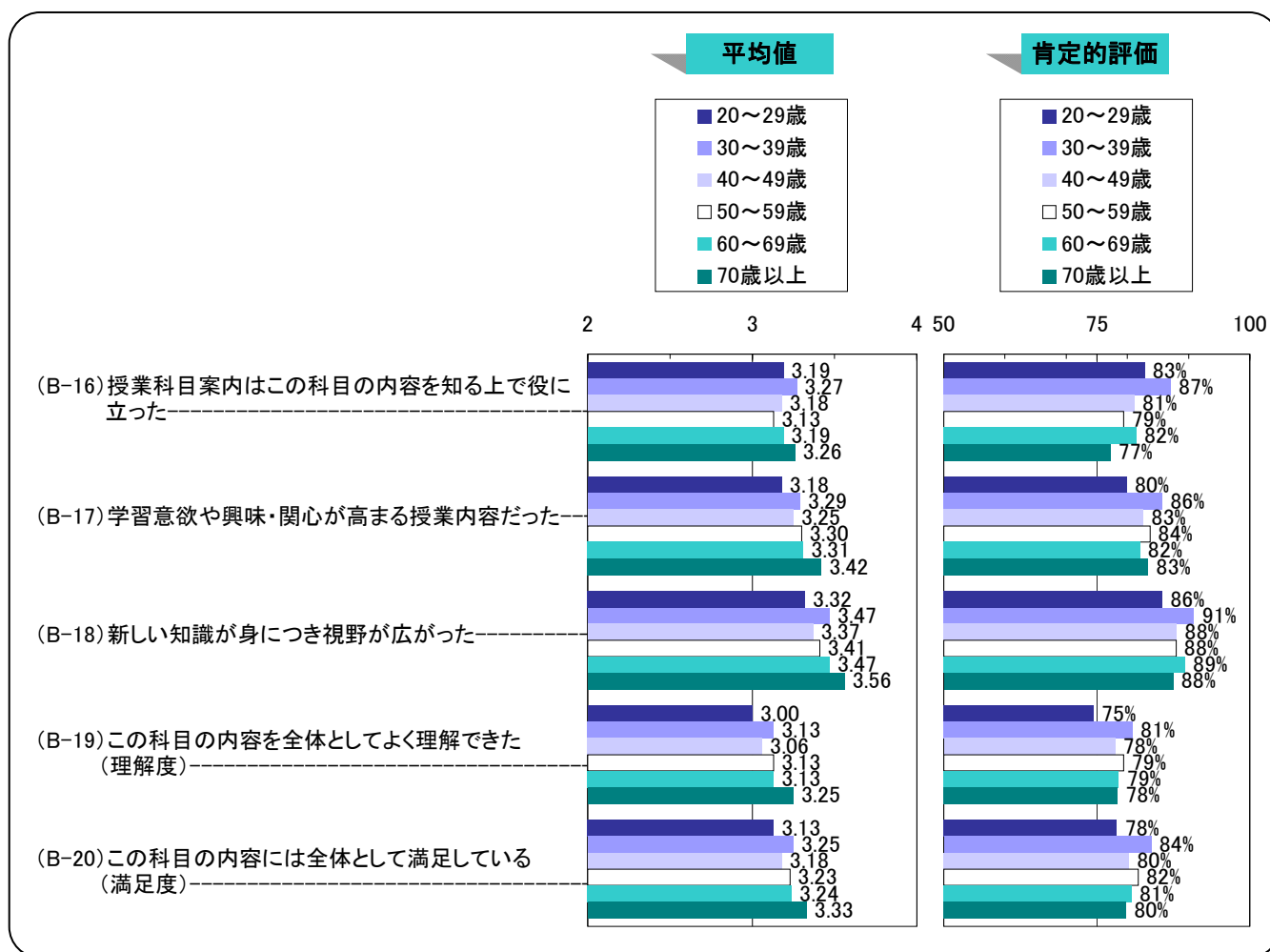
一方、ラジオ科目はいずれの評価項目も年々確実に高くなっている。もともとラジオ科目は全体評価が低く、平成 18 年度時点では、いずれの評価もテレビ科目より低くなっている。しかし今年度調査（2009 年度新規開設科目）では、理解度、満足度において逆転し、テレビ科目より高い評価を得ている。テレビ科目においてもさらなる工夫が求められるところである。

図2-19 【学部】メディア別の全体評価（時系列）



年齢階層別に全体評価を見ると（図2-20）、(B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、(B-18)「新しい知識が身につく視野が広がった」、(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」、(B-20)「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」は、平均値では年配層ほど評価がやや高くなっている。一方、肯定的評価では30歳代がやや高く、20歳代が相対的に評価が低い。

図2-20【学部】年齢階層別の全体評価

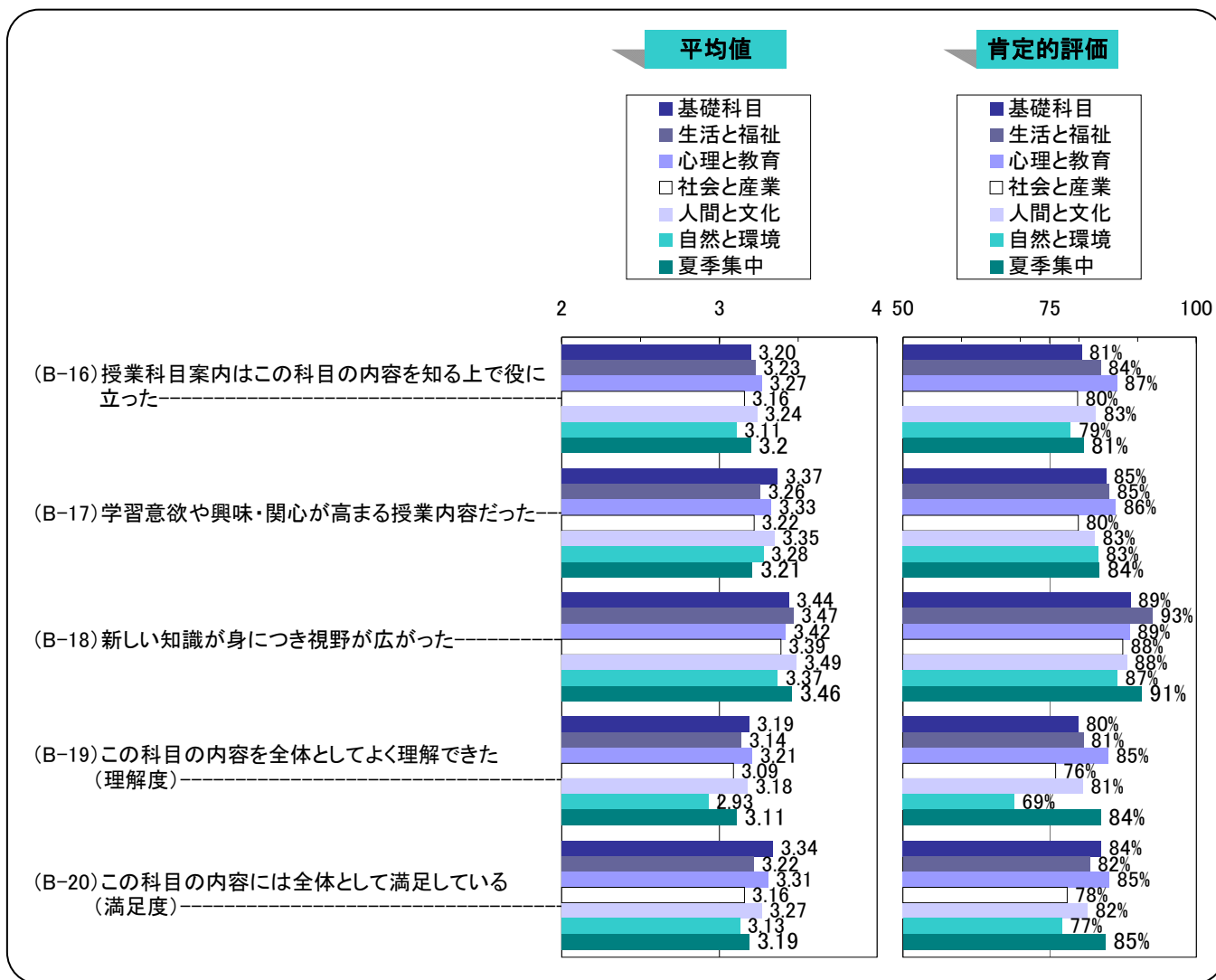


所属コース別に全体評価を見ると（図 2-21）、(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」は、「自然と環境」が低く、理解度の向上に努めるべきであろう。

(B-20)「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」は、「基礎科目」「心理と教育」「夏季集中」の評価が高い。

(B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」と (B-18)「新しい知識が身につく視野が広がった」は、いずれのコースも評価が高くなっている。

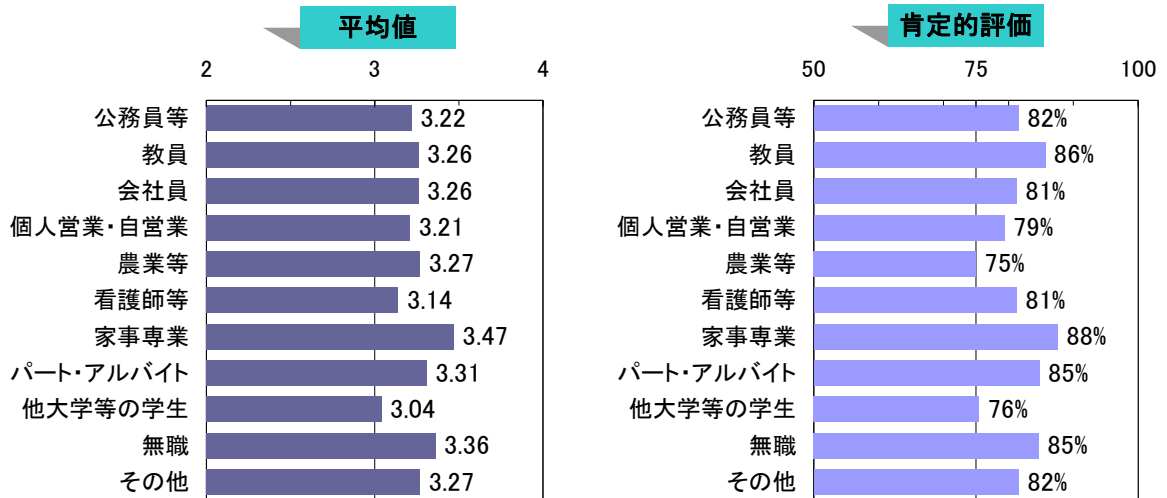
図 2-21 【学部】所属コース別の全体評価



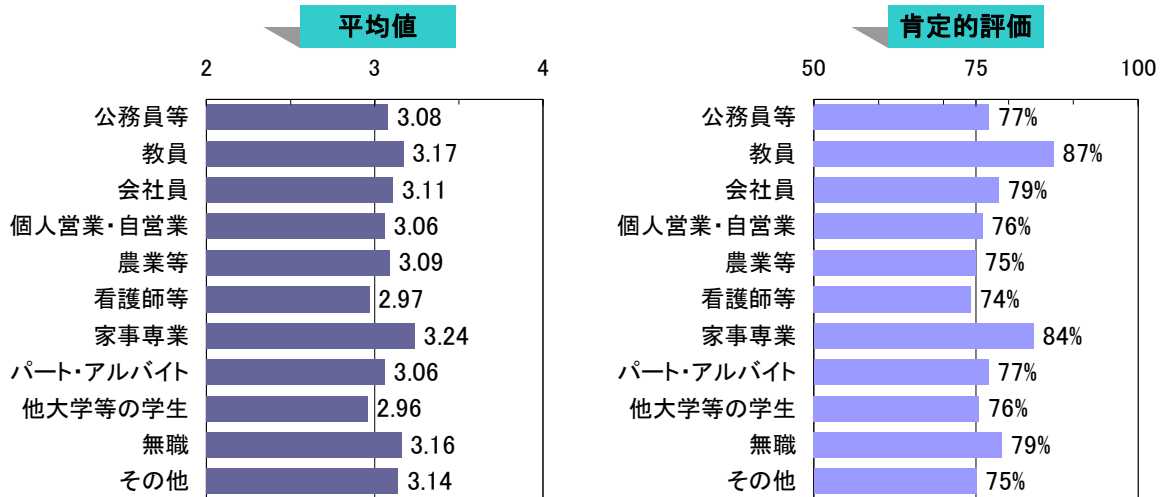
職業別に全体評価を見ると（次頁図 2-22）、(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」は、教員、家事専攻の評価が高く、(B-20)「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」も、教員、家事専攻、農業等で評価が高くなっている。取組姿勢のよくない看護師等や他大学等の学生も理解度と満足度は比較的高くなっている。

図 2 - 2 2 【学部】職業別の全体評価

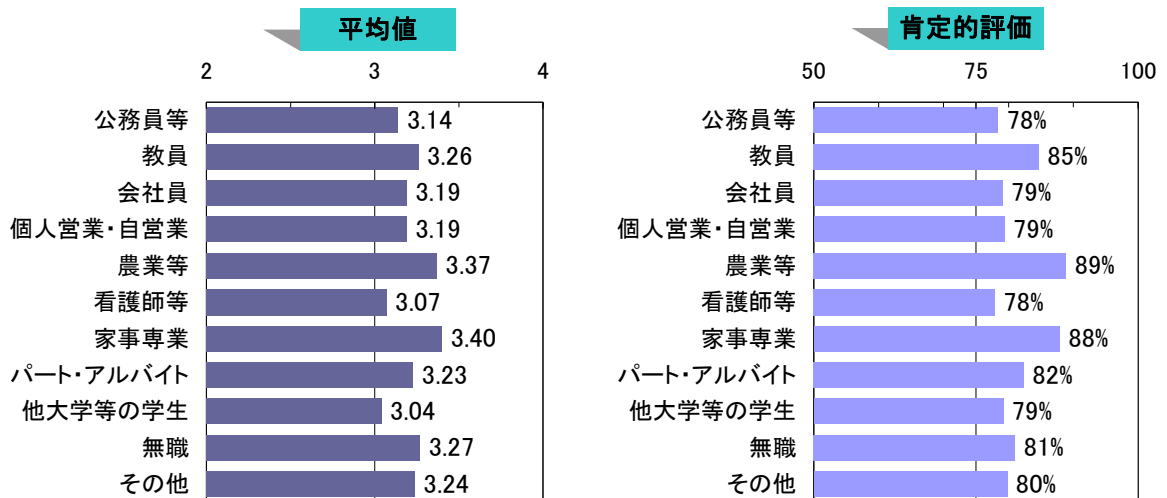
(B-17) 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった



(B-19) この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)



(B-20) この科目の内容には全体として満足している(満足度)



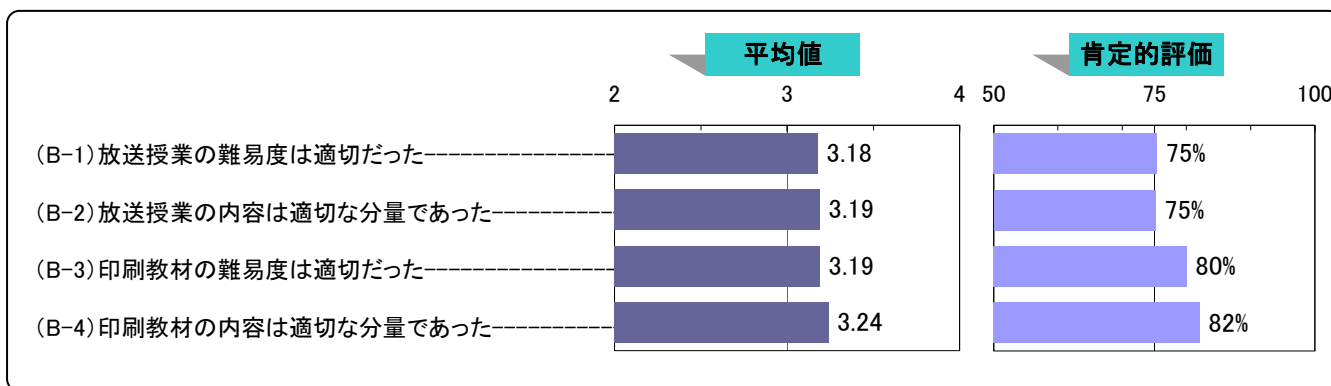


## (2) 授業の難易度・分量

次に授業の難易度・分量について、評価項目ごとに見ていく。

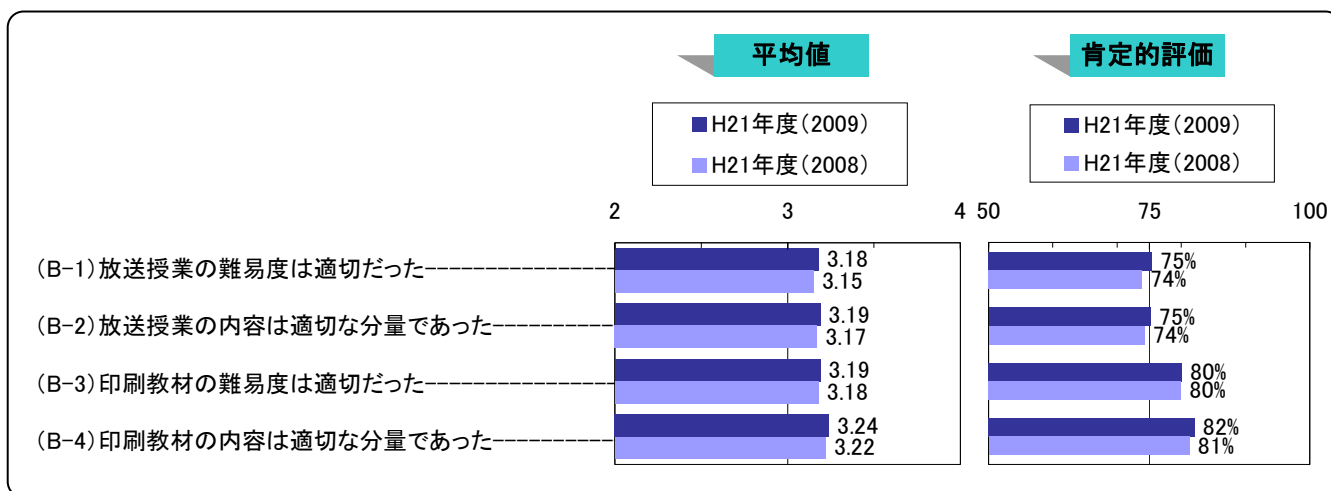
難易度・分量については(図2-23)、放送授業・印刷教材とも比較的高い評価となっている。特に印刷教材については、難易度・分量とも肯定的評価の割合が高い。今後は放送授業の難易度と分量についてさらに改善すべきであろう。

図2-23 【学部】回答者全体の授業難易度・分量の評価



授業の難易度・分量を開設年度で比較すると(図2-24)、ほとんど変化はないものの、2009年度新規開設科目は、2008年度新規開設科目に比べ、いずれの評価項目においても、若干評価が上がっている。

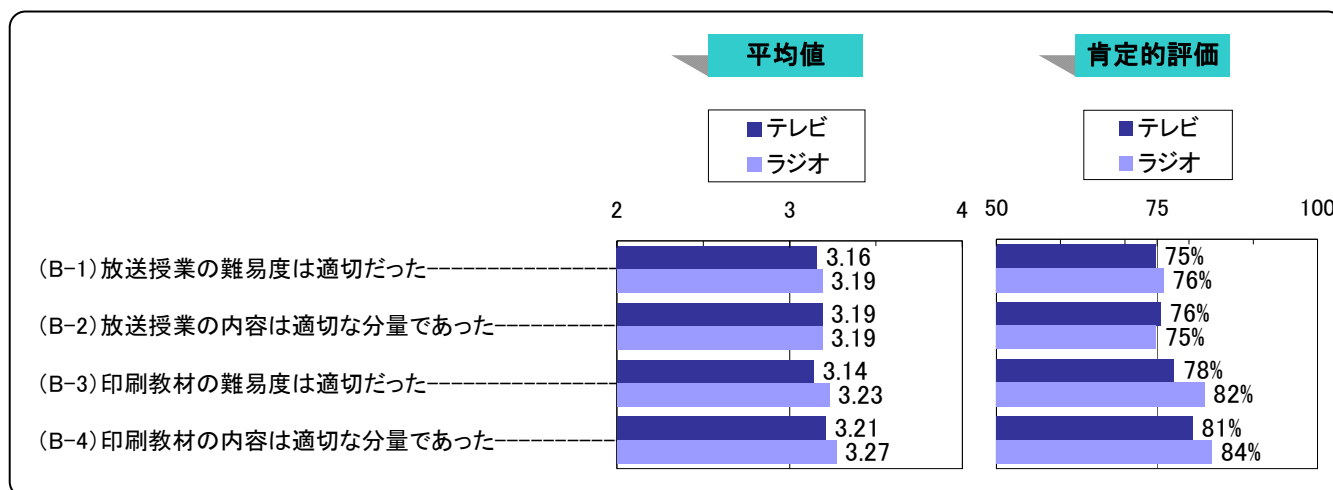
図2-24 【学部】回答者全体の授業難易度・分量の評価(開設年度比較)



メディア別に授業の難易度・分量を見ると（図2-25）、放送授業は難易度・分量ともほとんど差がない。

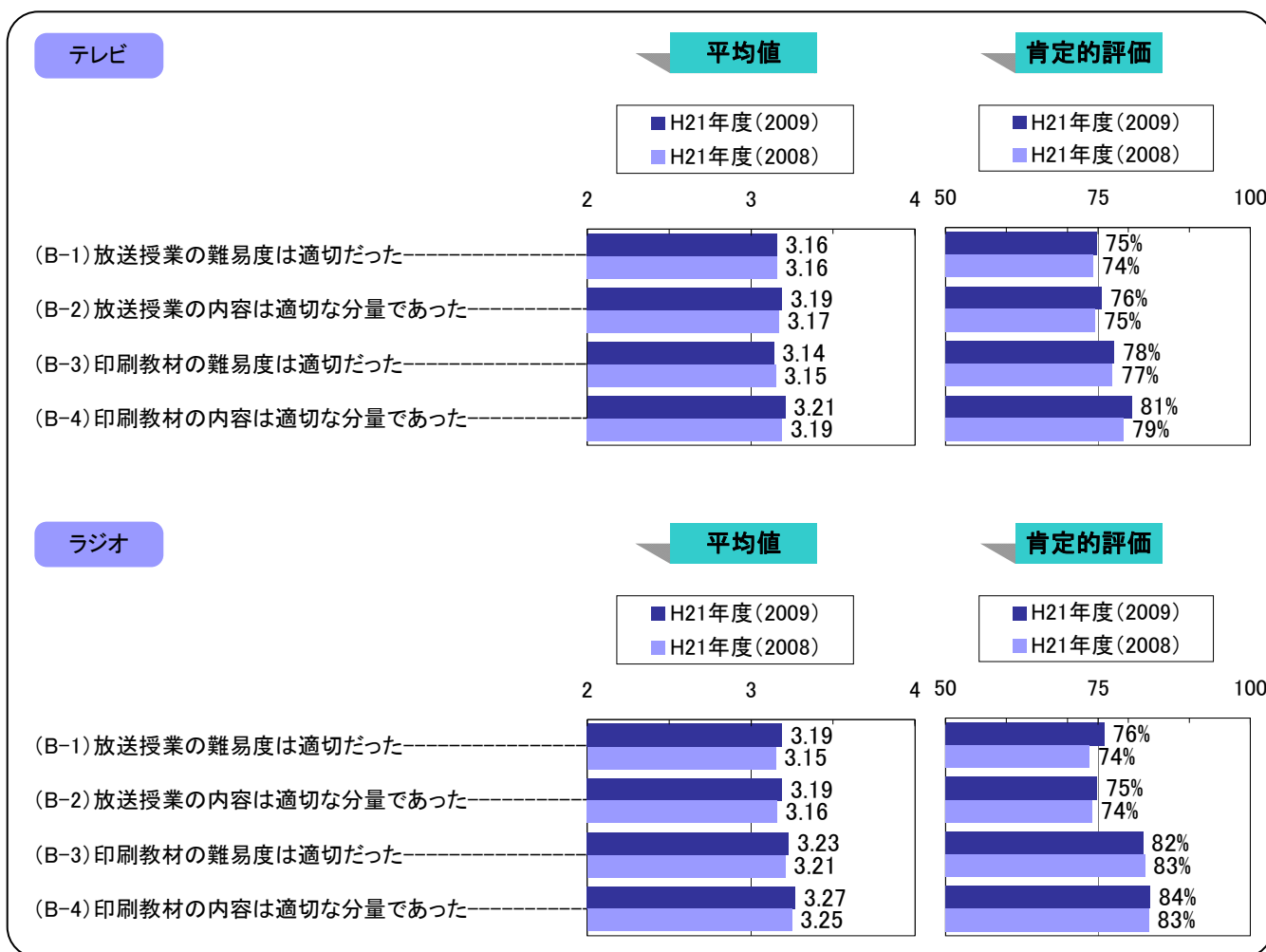
一方、印刷教材については、難易度・分量ともラジオ科目の方が、やや評価が高くなっている。テレビ科目についても、印刷教材の分かりやすさや分量を工夫する必要がある。

図2-25 【学部】メディア別の授業難易度・分量の評価



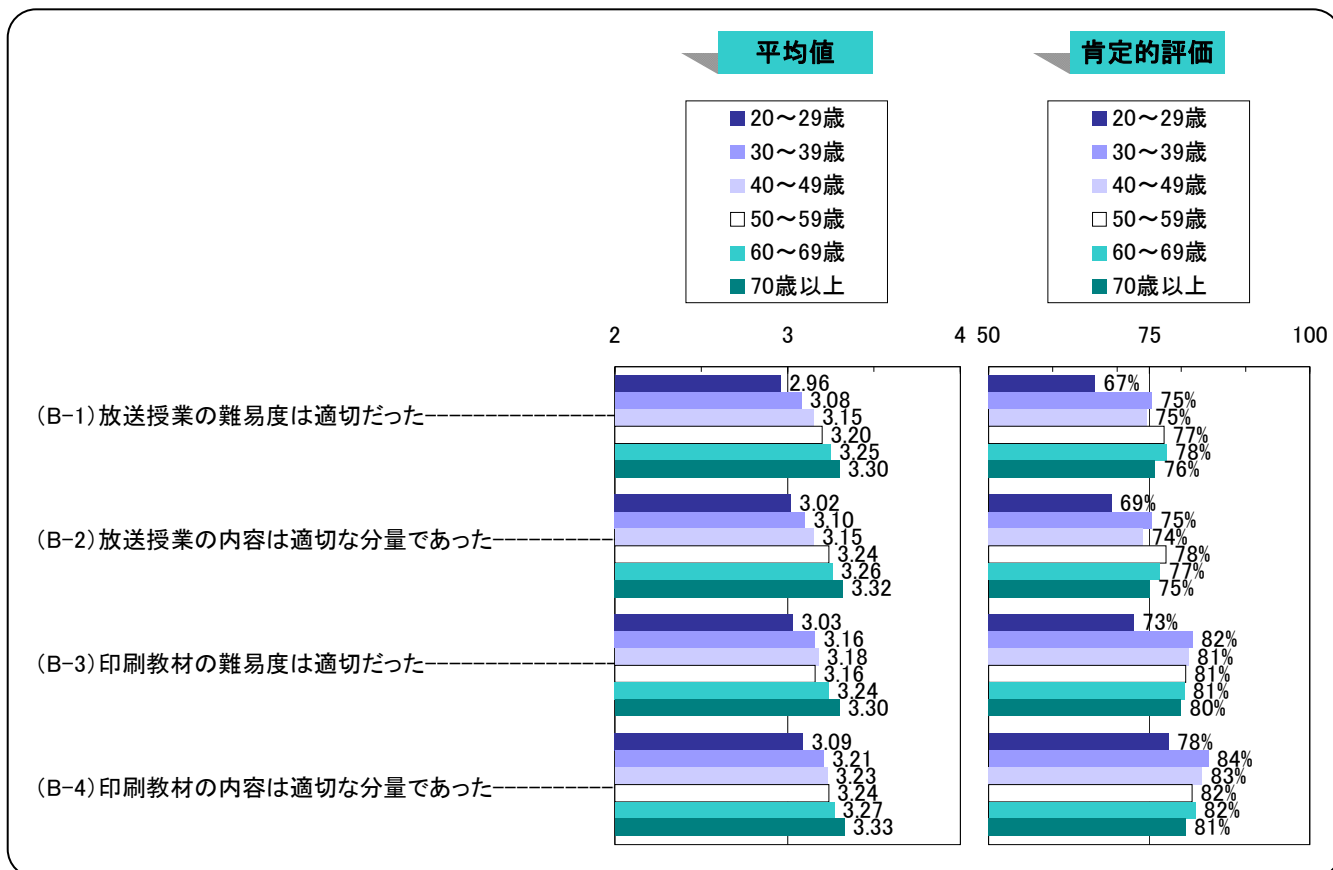
メディア別の授業の難易度・分量を開設年度で比較すると(図2-26)、テレビ科目、ラジオ科目とも大きな変化は見られないが、2009年度新規開設科目は、2008年度新規開設科目に比べ、若干評価が向上している。特にラジオ科目の方が評価が上がっており、(B-1)「放送授業の難易度は適切だった」、(B-2)「放送授業の内容は適切な分量であった」など、放送授業での改善が見られる。

図2-26【学部】メディア別の授業難易度・分量の評価(開設年度比較)



年齢階層別に授業の難易度・分量を見ると（図 2 - 2 7）、放送授業・印刷教材の難易度・分量とも、平均値では年配層ほど評価が高くなっている。肯定的評価では 20 歳代の評価が低い、30 歳代以上ではあまり大きな差は見られない。

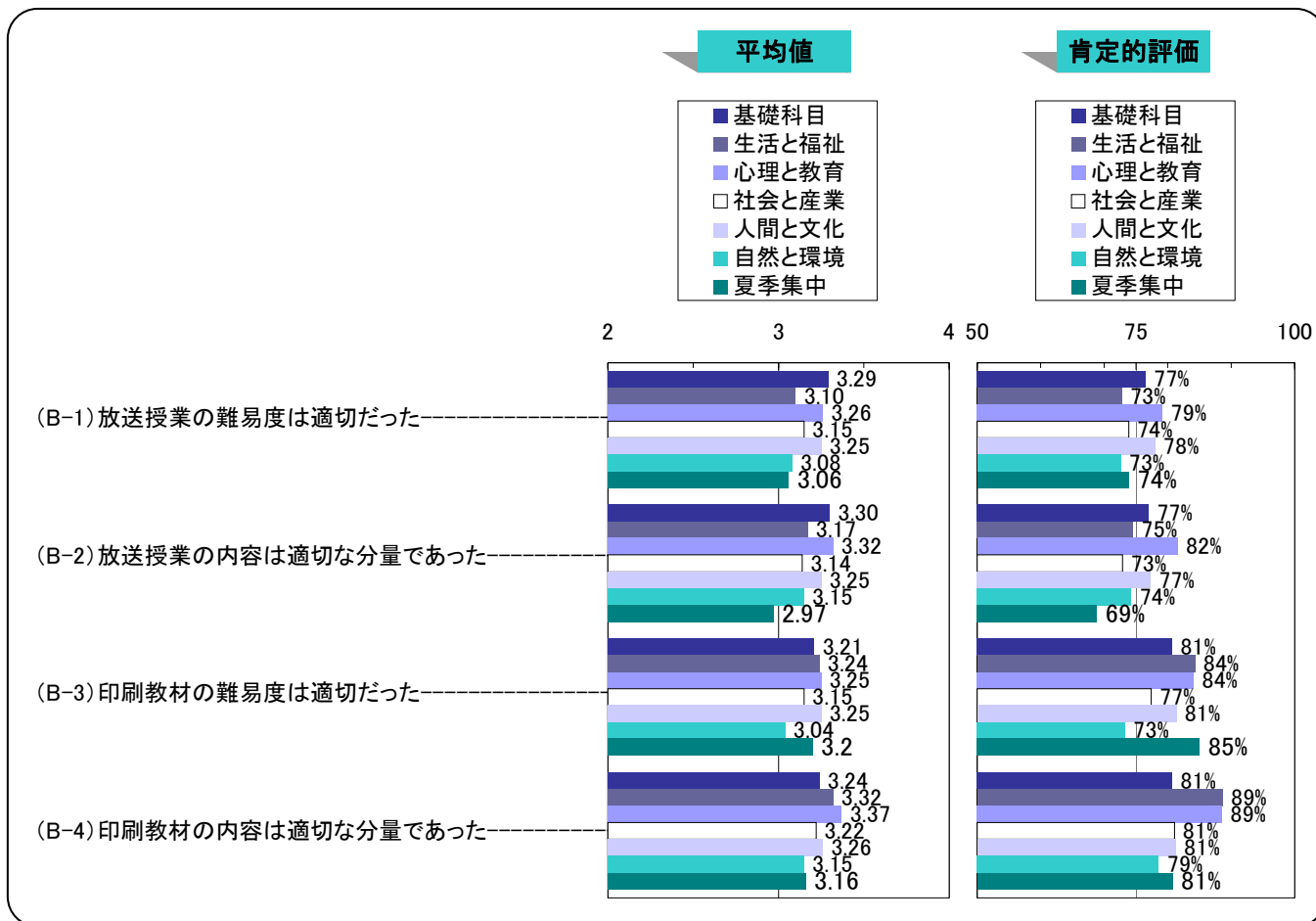
図 2 - 2 7 【学部】 年齢階層別の授業難易度・分量の評価



所属コース別に授業の難易度・分量を見ると（図2-28）、放送授業の難易度と分量は、「基礎科目」「心理と教育」「人間と文化」で評価が高くなっている。

一方、印刷教材の難易度は、「自然と環境」「社会と産業」の評価が低く、他のコースは評価が高い。印刷教材の分量は「生活と福祉」「心理と教育」の評価が高くなっている。

図2-28 【学部】所属コース別の授業難易度・分量の評価

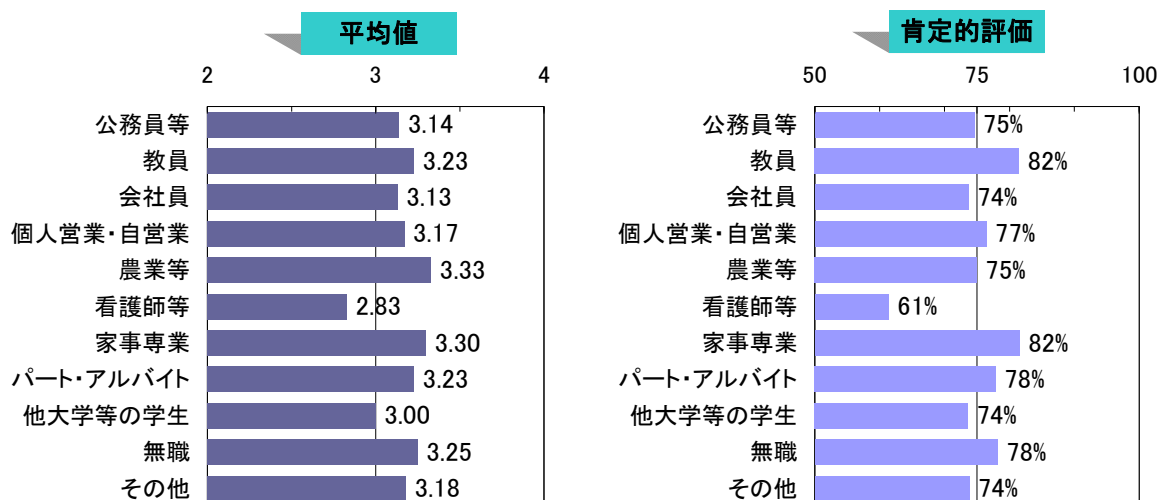


職業別に授業の難易度を見ると（図2-29）、放送授業の難易度は、取組姿勢のよくない看護師等で評価が低くなっているが、逆に教員や家事専門の評価は高い。印刷教材の難易度は、教員、農業等、家事専門の評価が高くなっている。

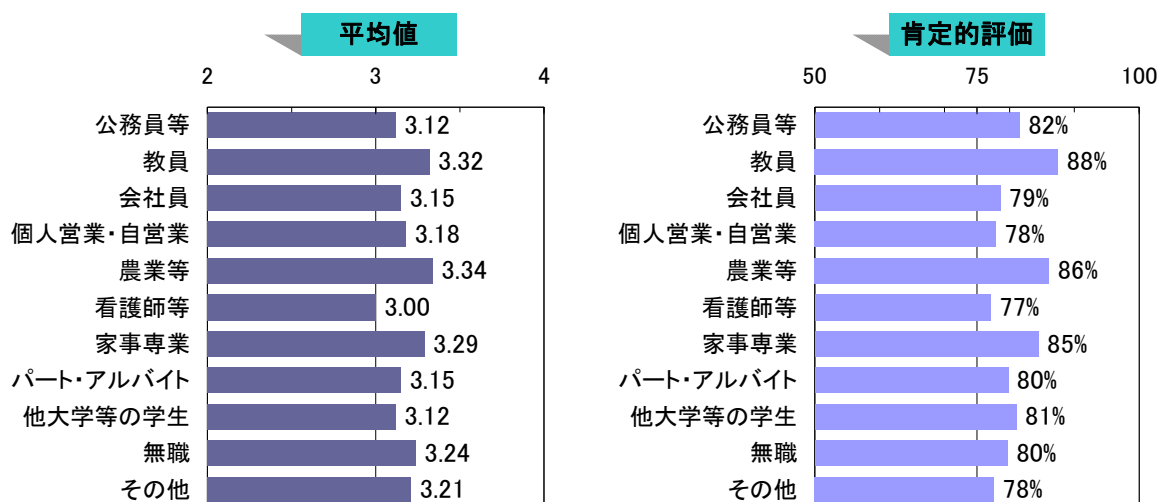
授業の難易度は、科目の内容的な難易度、授業方法、さらに学生の取組姿勢、学習意欲などに関連していると考えられるが、これらが相互に影響しつつ、難易度の評価が形成されていると見るのが妥当であろう。したがって、授業方法を工夫することによって、難易度の評価をあげる効果は高いと考えられ、今後も改善に注力すべきであろう。

図 2 - 2 9 【学部】職業別の授業難易度・分量の評価

(B-1)放送授業の難易度は適切だった



(B-3)印刷教材の難易度は適切だった

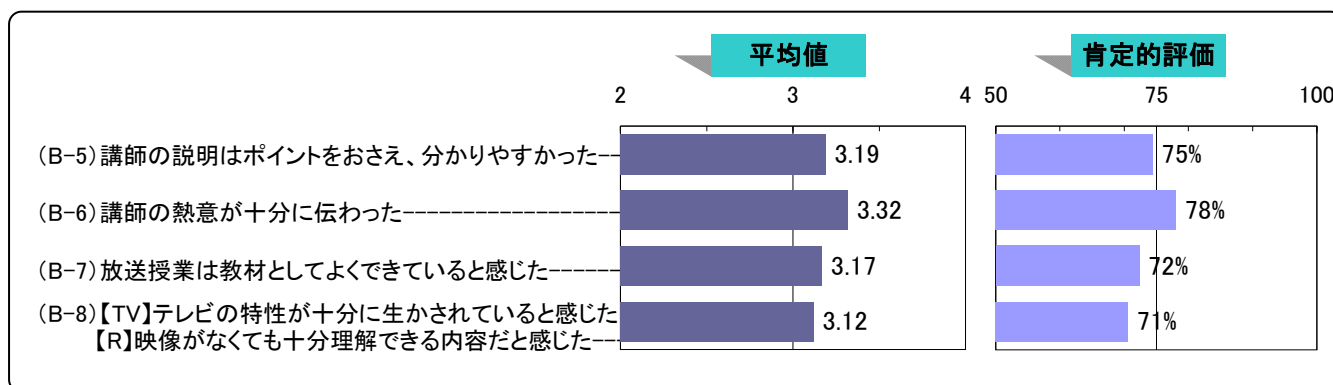


### (3) 放送授業

ここからは放送授業について、評価項目ごとに見ていく。

放送授業に関する評価項目で最も評価が高いのは（図2-30）、(B-6)「講師の熱意が十分に伝わった」であり、平均値 3.32、肯定的評価 78%となっている。しかし、放送授業の総合評価でもある (B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」は、平均値 3.17、肯定的評価 72%と特に高いわけではない。講師の説明や熱意は比較的评价が高いものの、総合評価はそれほど高くなっていない。なお、(B-8)「【TV】テレビの特性が十分に活かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」も、平均値 3.12、肯定的評価 71%にとどまっている。

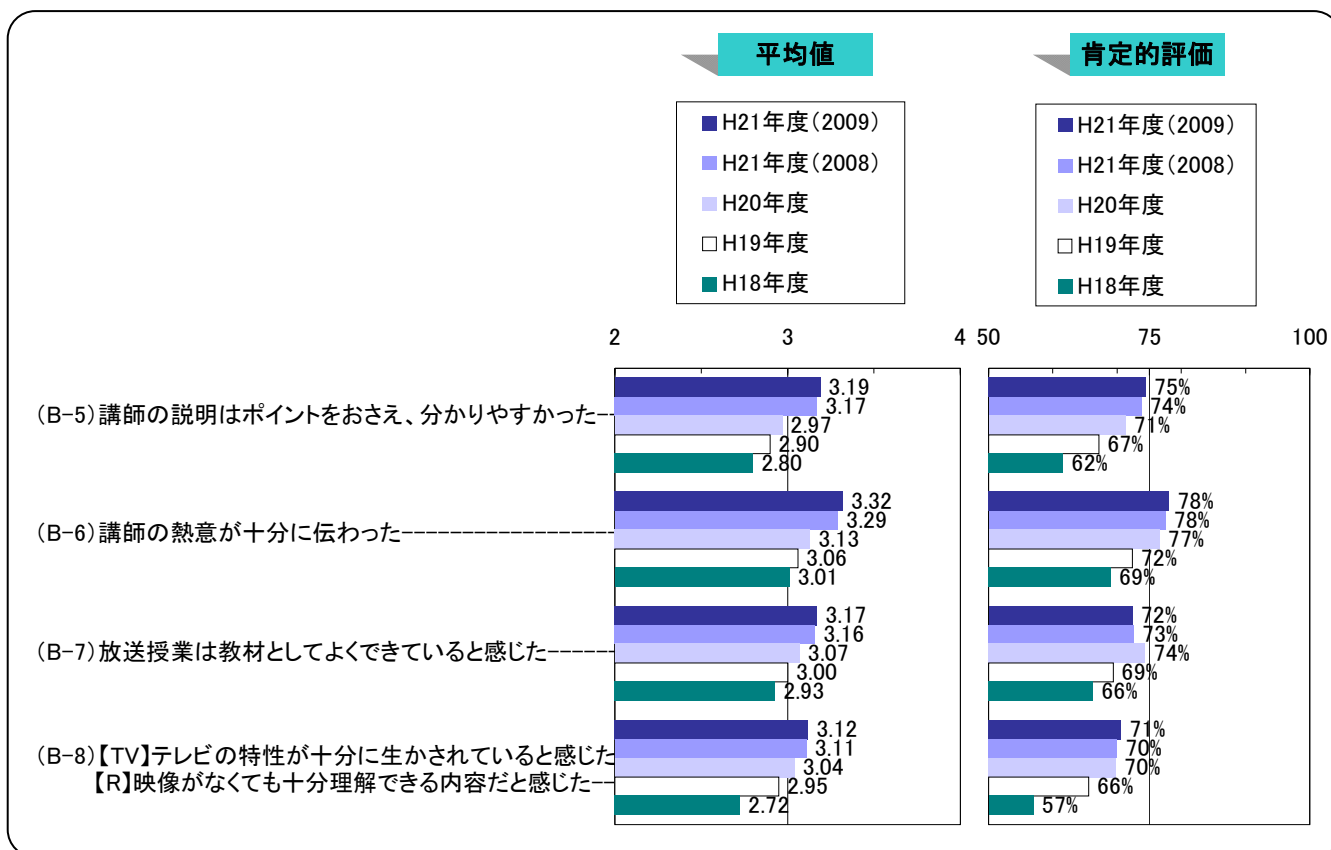
図2-30 【学部】回答者全体の放送授業の評価



放送授業の評価を時系列で見ると（図2-31）、いずれの評価項目も年々評価が向上している。特に（B-5）「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」と（B-8）「【TV】テレビの特性が十分に活かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」は、過去5年間で評価が大きく向上しており、講師の説明方法や映像の特性を生かした授業、映像がなくても理解できる説明方法などの改善効果があったものと言えよう。

ただ（B-6）「講師の熱意が十分に伝わった」、（B-7）「放送授業は教材としてよくできていると感じた」、（B-8）「【TV】テレビの特性が十分に活かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」の肯定的評価は、平成20年度調査（2007年度新規開設科目）以降、あまり伸びていないため、さらに改善を工夫する必要がある。

図2-31 【学部】回答者全体の放送授業の評価（時系列）

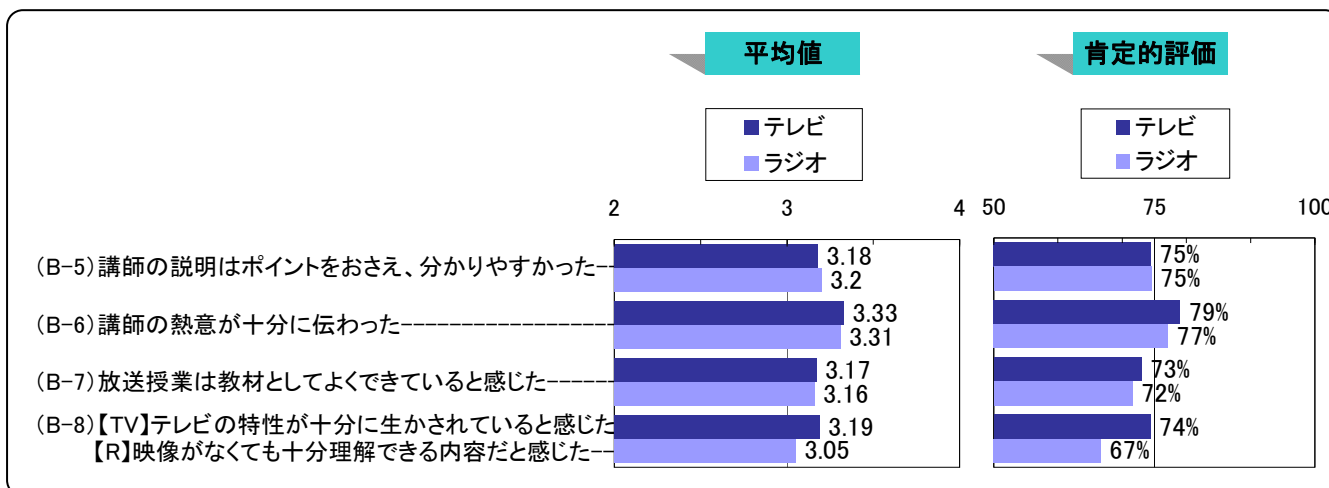




メディア別に放送授業の評価を見ると（図2-32）、(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(B-6)「講師の熱意が十分に伝わった」、(B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」の評価は、テレビ科目とラジオ科目であまり差はない。

しかしラジオ科目の(B-8)「【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」の評価が低く、さらなる工夫が求められる。

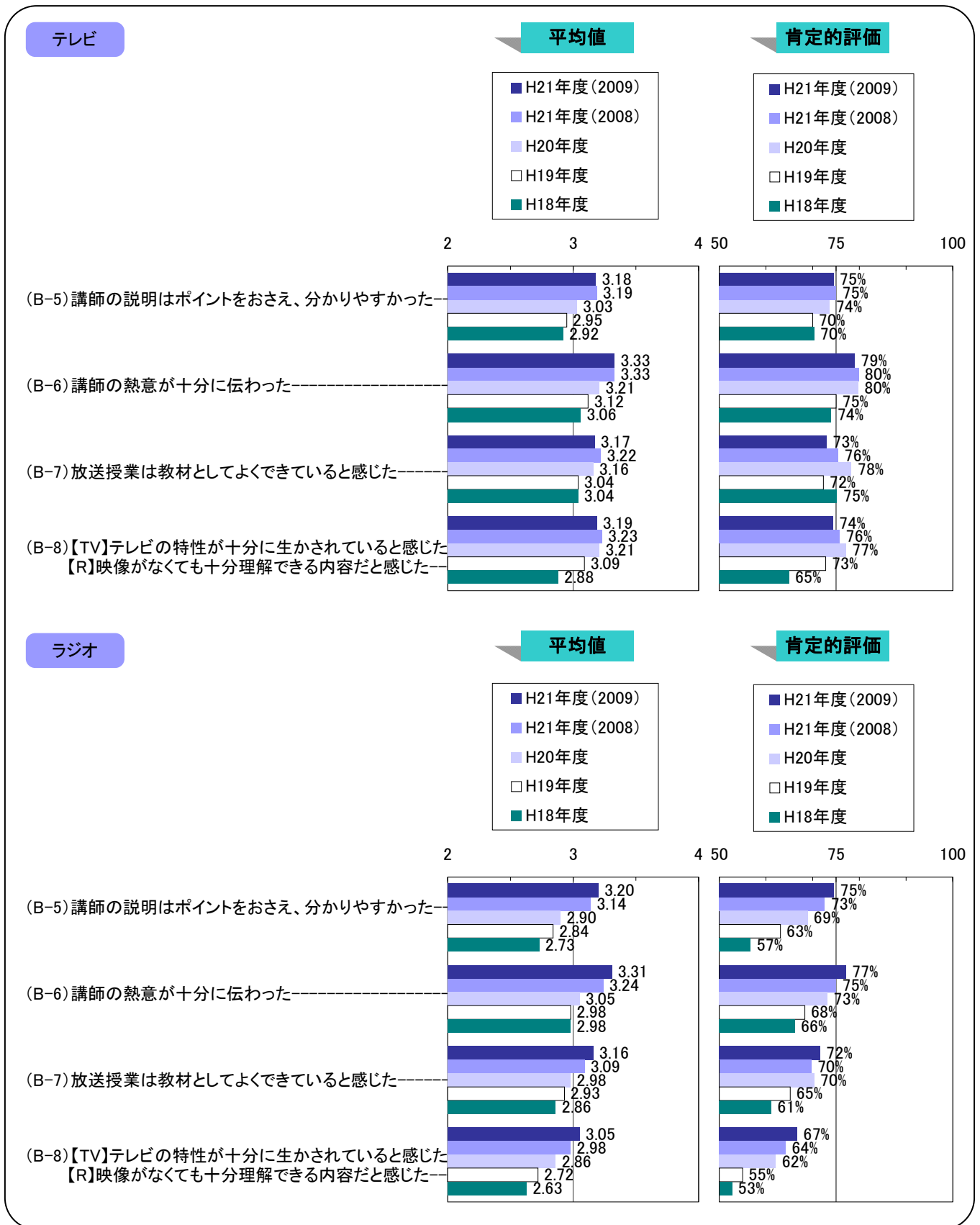
図2-32 【学部】メディア別の放送授業の評価



また、メディア別の放送授業の評価を時系列で見ると（次頁図2-33）、テレビ科目では、いずれの項目も平成20年度調査（2007年新規開設科目）までは、年々評価が上がってきっていたが、それ以降はあまり向上していない。特に(B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」という総合評価や、(B-8)「【TV】テレビの特性が十分に活かされていると感じた」は、評価が下がりつつあり、今後改善に注力する必要がある。

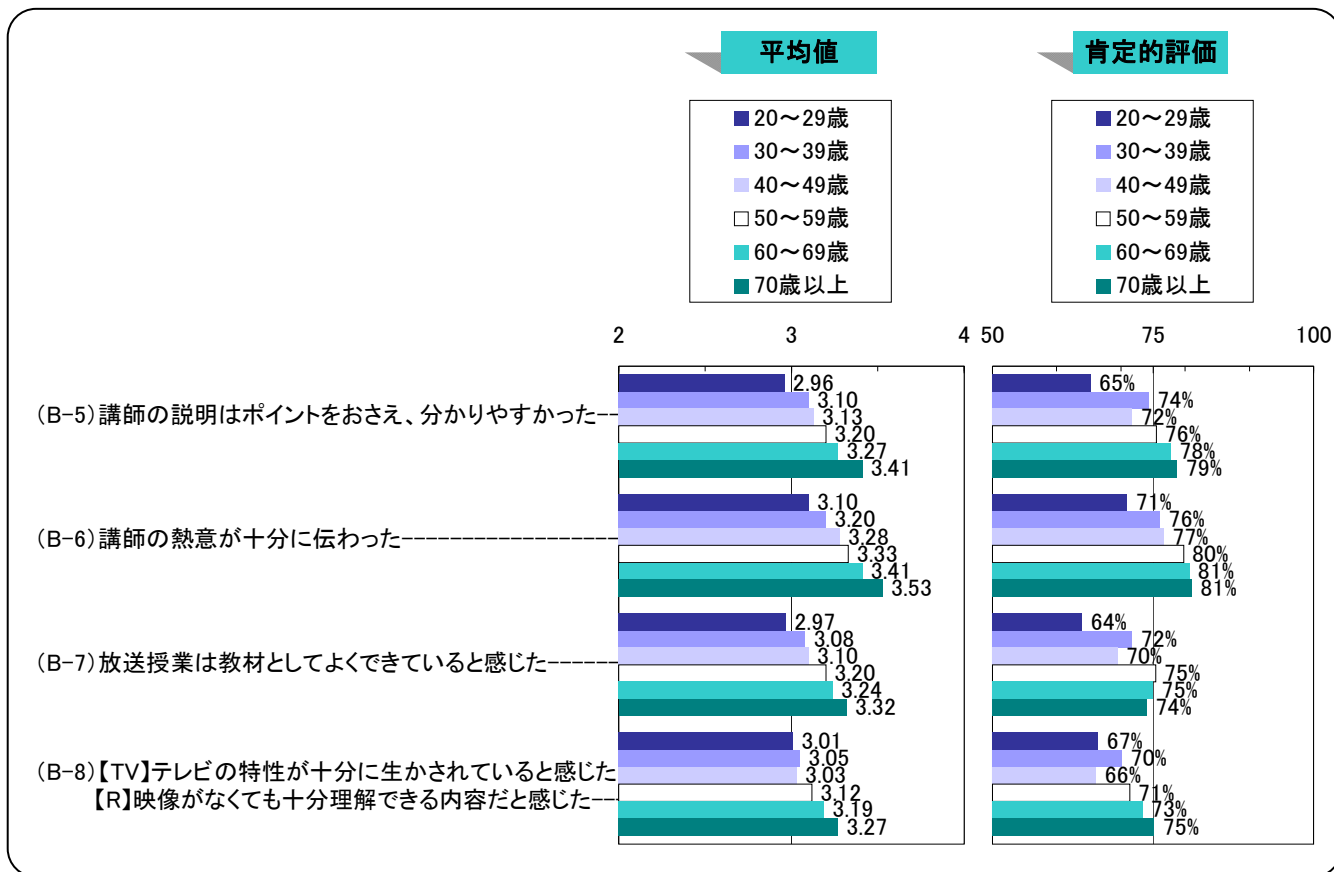
一方、ラジオ科目は、いずれの項目も年々評価が上がっている。

図 2 - 3 3 【学部】メディア別の放送授業の評価（時系列）



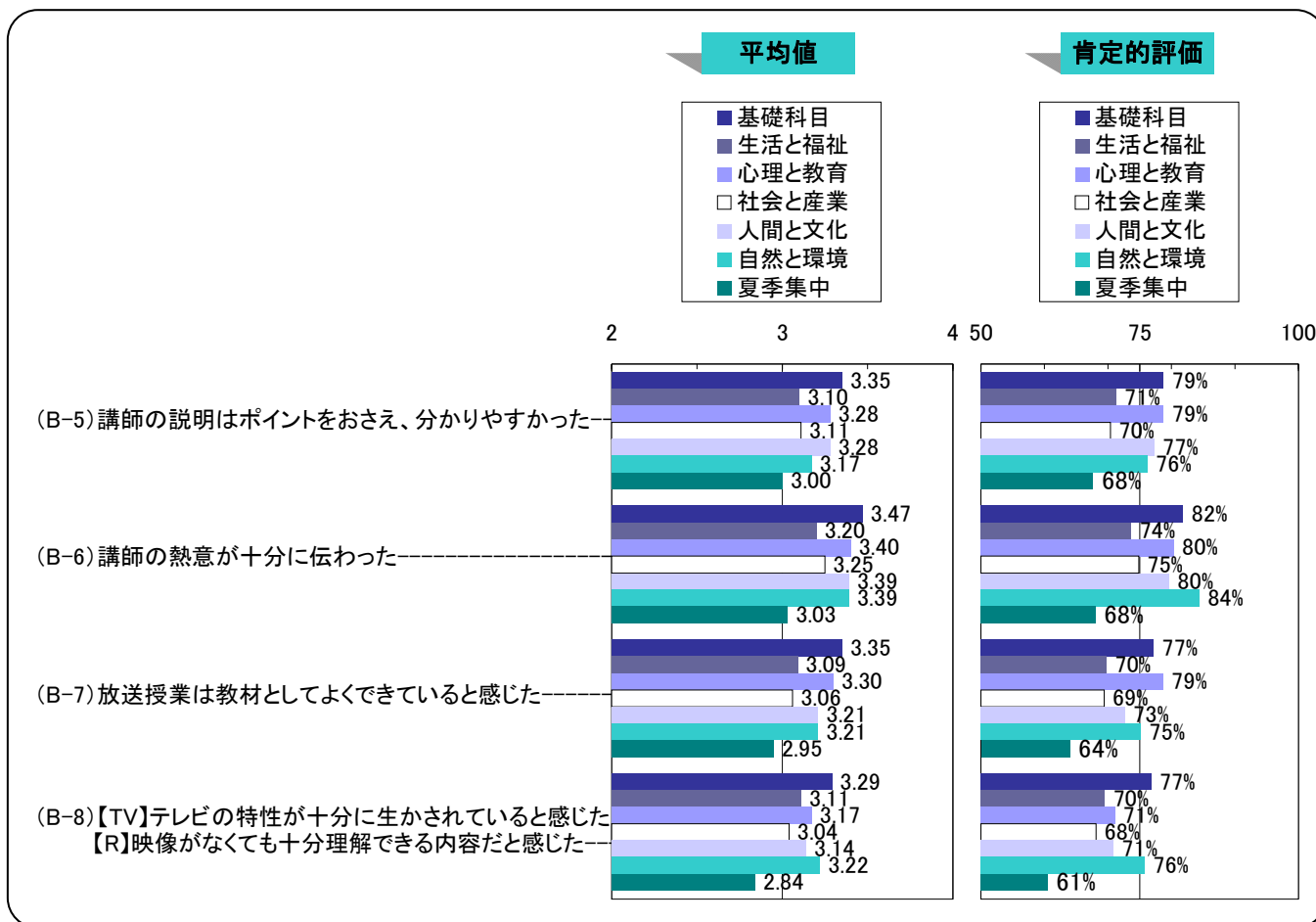
年齢階層別に放送授業の評価を見ると（図2-34）、いずれの項目も、年配層ほど評価が高くなっており、20歳代の評価は、依然として低い状態のままである。

図2-34 【学部】年齢階層別の放送授業の評価



所属コース別に放送授業の評価を見ると（図2-35）、各項目とも「基礎科目」「心理と教育」「人間と文化」「自然と環境」の評価が比較的高く、「基礎科目」の評価が低い。

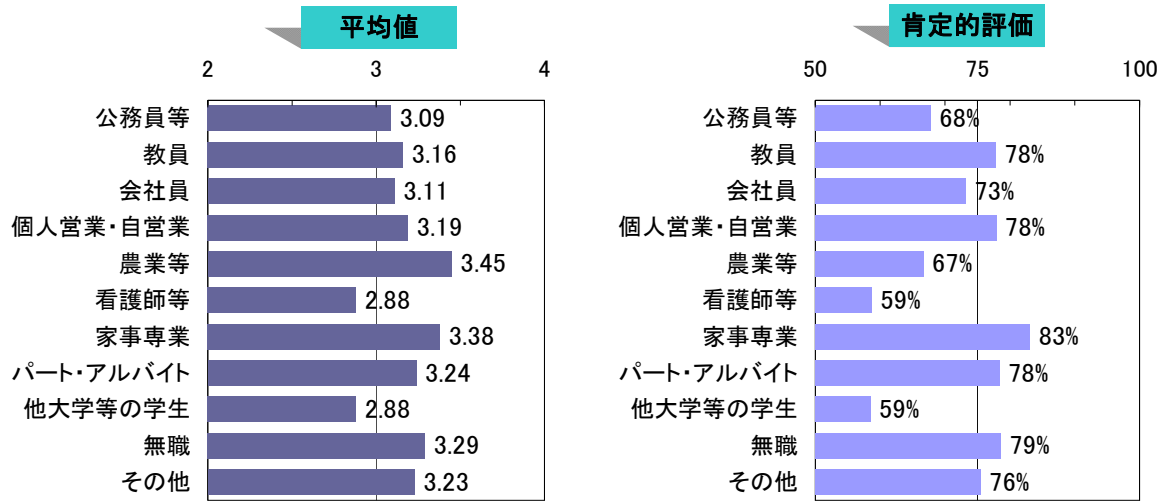
図2-35 【学部】所属コース別の放送授業の評価



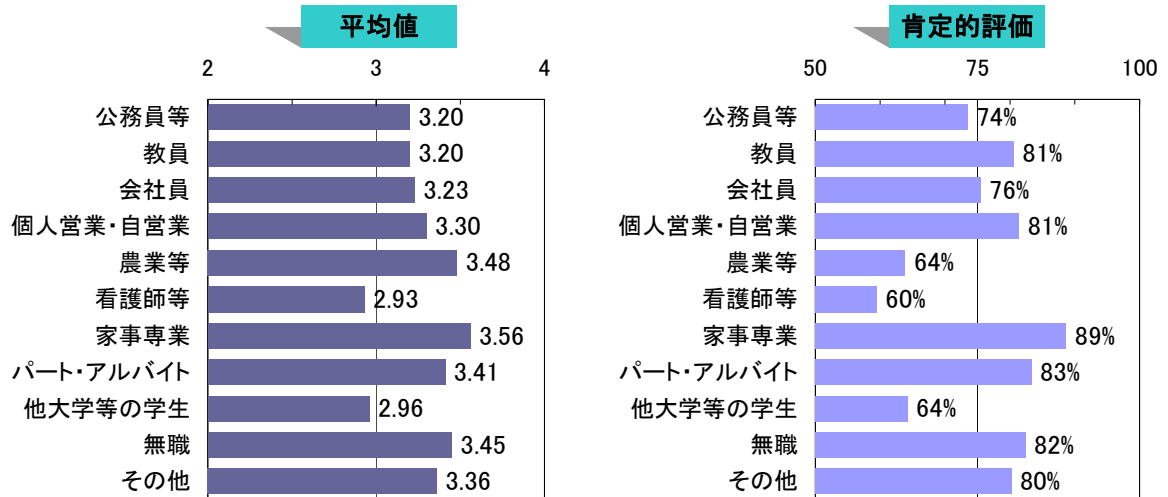
職業別に放送授業の評価を見ると（次頁図2-36）、教員、個人営業・自営業、家事専業、パート・アルバイト、無職などの評価が高く、看護師等、他大学等の学生の評価が低くなっている。

図 2 - 3 6 【学部】 職業別の放送授業の評価

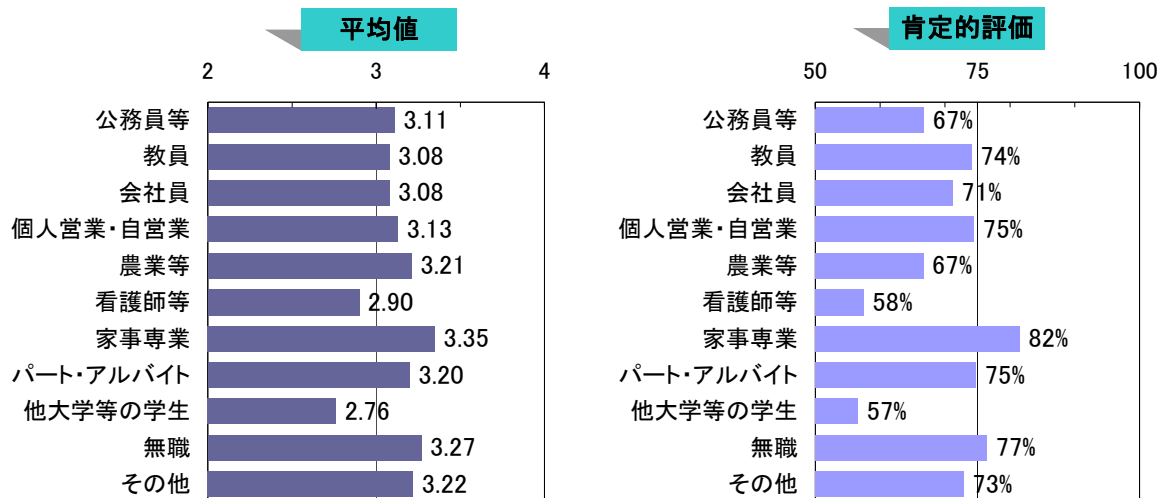
(B-5) 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった



(B-6) 講師の熱意が十分に伝わった



(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた

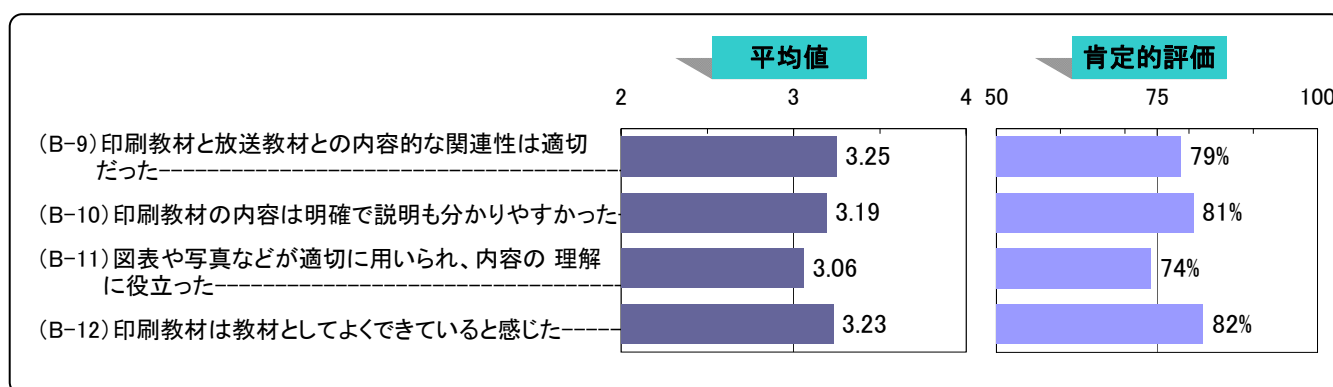


#### (4) 印刷教材

ここからは印刷教材について、評価項目ごとに見ていく。

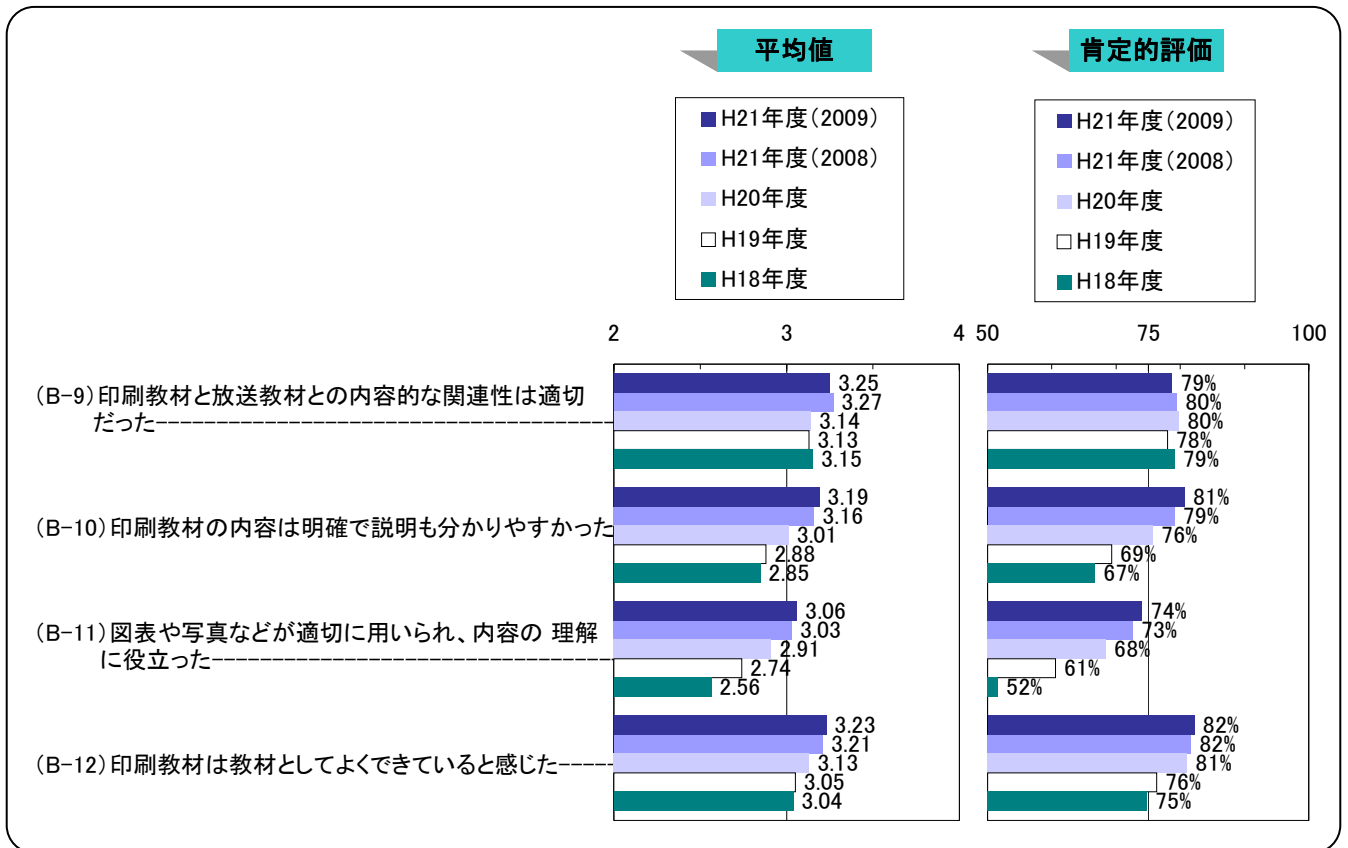
印刷教材の評価項目では(図2-37)、印刷教材の総合評価とも言うべき(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」が平均値3.23、肯定的評価82%と高い評価となっている。また(B-9)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」と(B-10)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」も高い評価であるが、(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」は他の項目に比べるとやや評価が低い。さらに図表や写真などを有効に取り入れ、理解しやすい教材を目指すべきであろう

図2-37【学部】回答者全体の印刷教材の評価



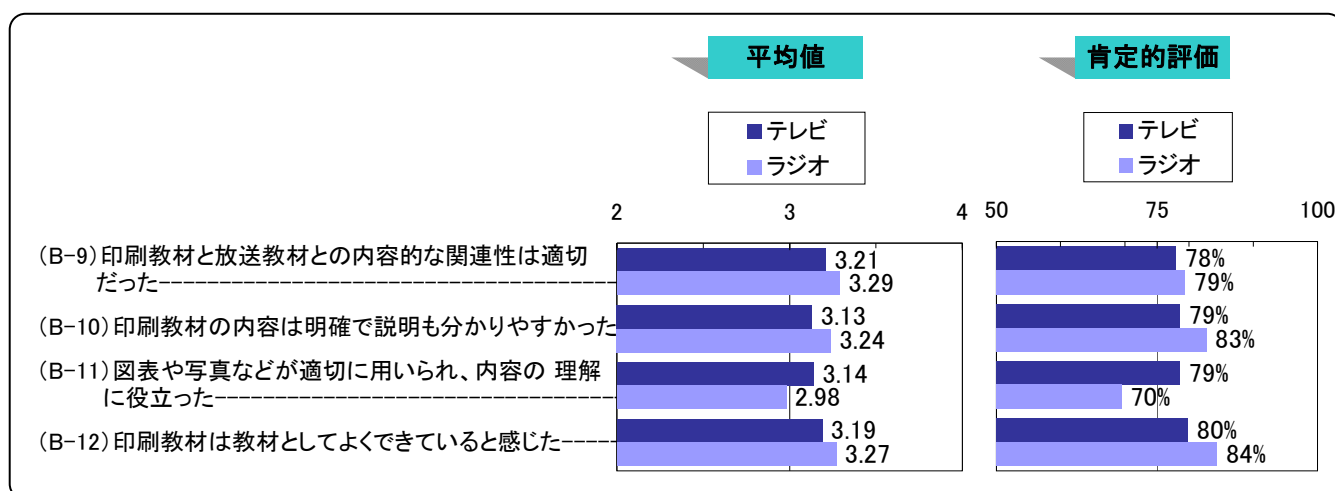
印刷教材の評価を時系列で見ると(次頁図2-38)、(B-10)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」と(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」は、年々評価が高まっており、改善の効果が現れてきている。そのため総合評価の(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」も徐々に評価が上がっている。しかし(B-9)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」は、もともと評価が高かったこともあり、評価はあまり変化していない。

図 2 - 3 8 【学部】 回答者全体の印刷教材の評価（時系列）



印刷教材の評価をメディア別に見ると（図2-39）、総合評価の（B-12）「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」および（B-9）「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」、（B-10）「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」は、テレビ科目よりラジオ科目の方が、評価が高くなっている。逆に（B-11）「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」は、ラジオ科目の評価が低くなっている。ラジオ科目は、放送授業を補完するためにも、さらに多くの図表や写真を有効活用していく必要がある。またテレビ科目は、印刷教材の分かりやすさを、さらに研究していくことが大切である。

図2-39 【学部】メディア別の印刷教材の評価



メディア別の印刷教材の評価を時系列で見ると（次頁図2-40）、テレビ科目では、（B-11）「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」の評価が年々向上しているが、総合評価の（B-12）「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」はあまり変化がなく、評価は改善されていない。（B-9）「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」と（B-10）「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」についても同様である。

一方、ラジオ科目はいずれの項目も年々評価が高まっており、改善の効果が出ていると言える。とはいえ、（B-11）「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」はまだまだ評価が低い状態にあり、さらなる改善が求められる。

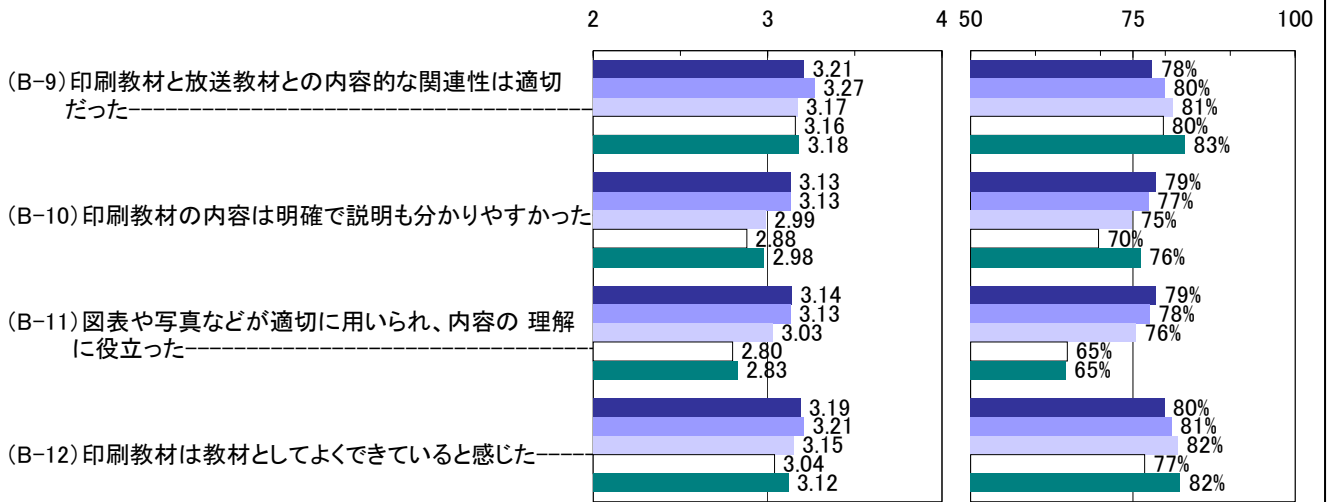
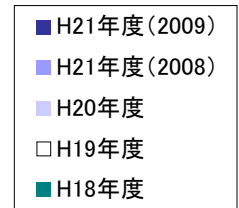
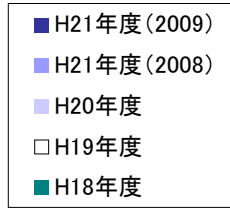


図 2 - 4 0 【学部】メディア別の印刷教材の評価（時系列）

テレビ

平均値

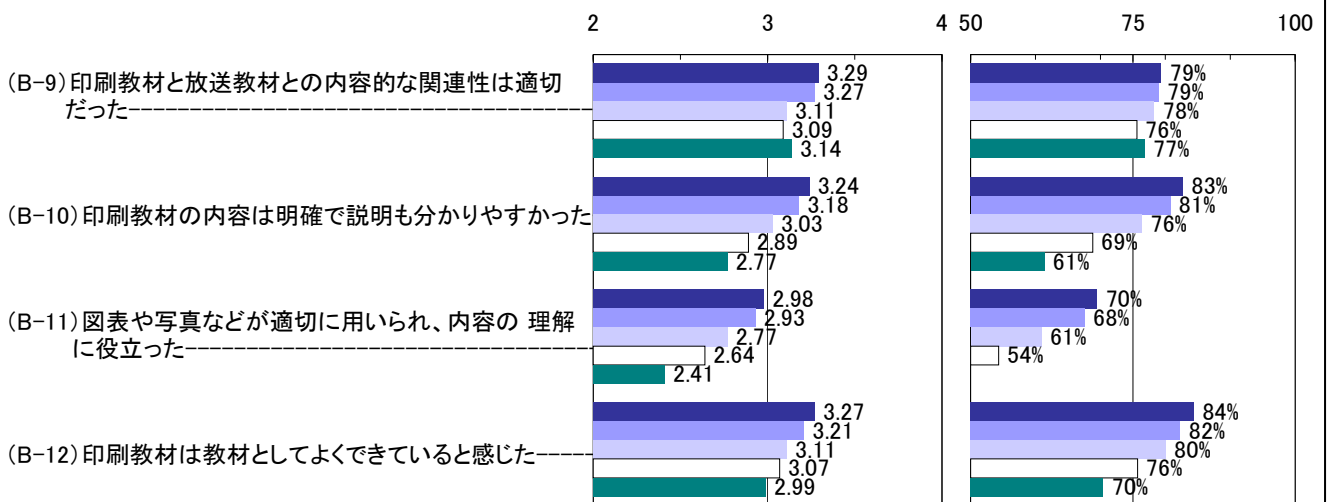
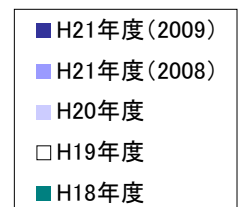
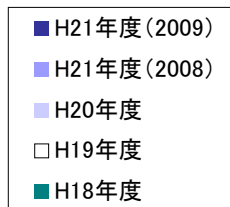
肯定的評価



ラジオ

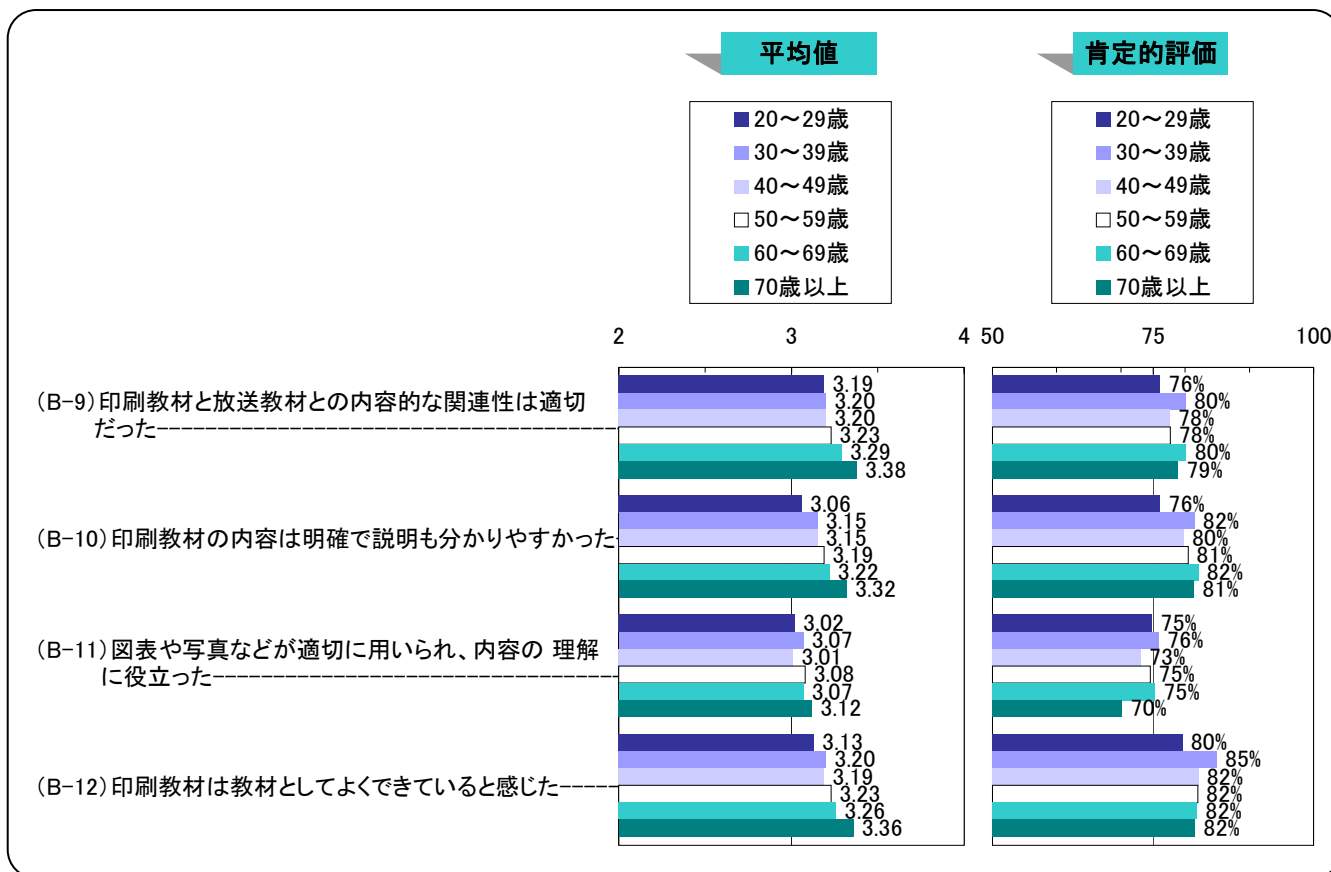
平均値

肯定的評価



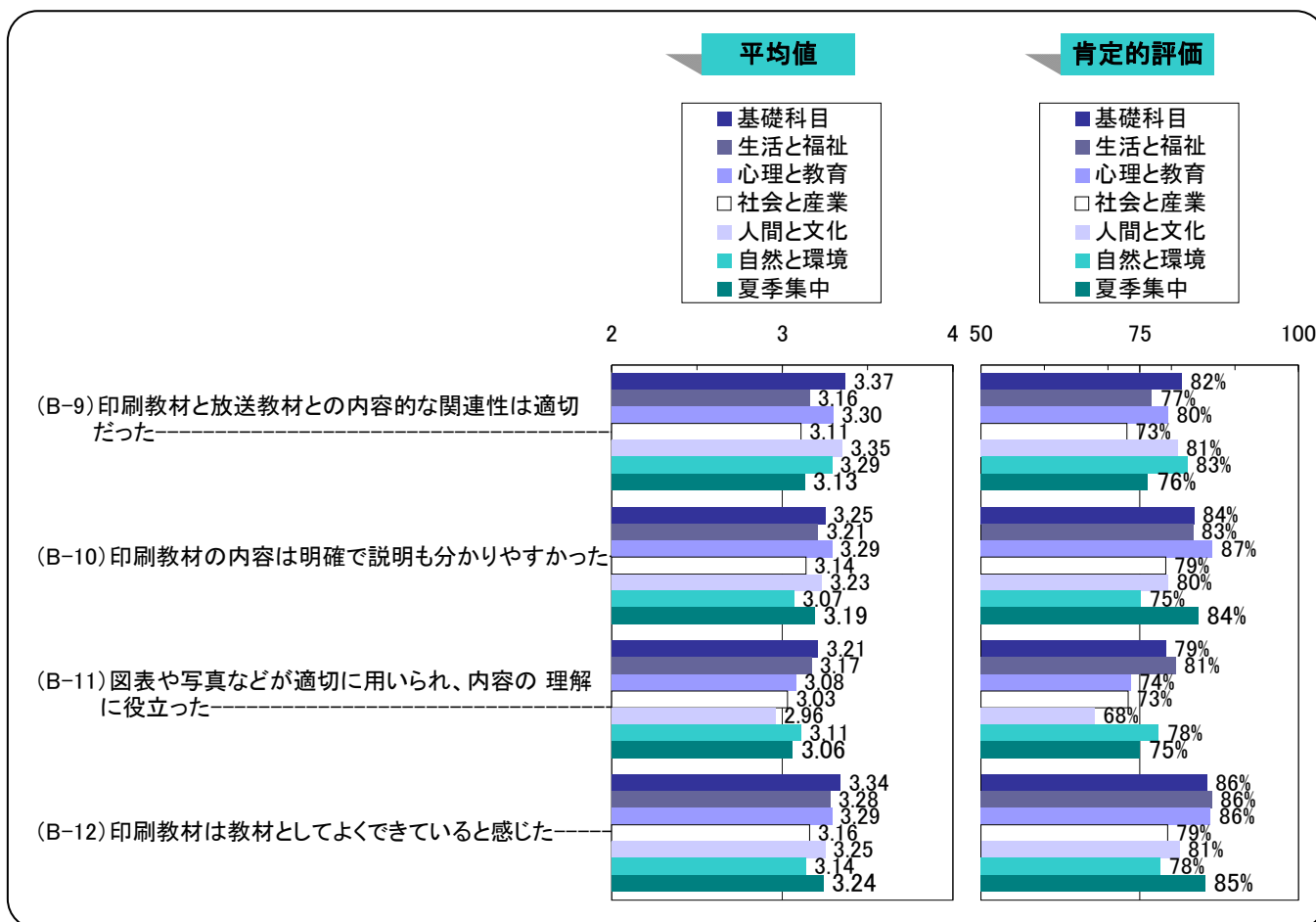
年齢階層別に印刷教材の評価を見ると（図2-41）、いずれの評価項目も、平均値では年配層ほど評価がやや高くなっている。肯定的評価では年齢階層間の差は少ない。

図2-41 【学部】年齢階層別の印刷教材の評価



所属コース別に印刷教材の評価を見ると（図2-42）、総合評価の（B-12）「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」は、「基礎科目」「生活と福祉」「心理と教育」「夏季集中」などの評価が高く、「自然と環境」「社会と産業」が他のコースに比べやや低い。「人間と文化」は、（B-11）「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」の評価が低く、改善が求められる。

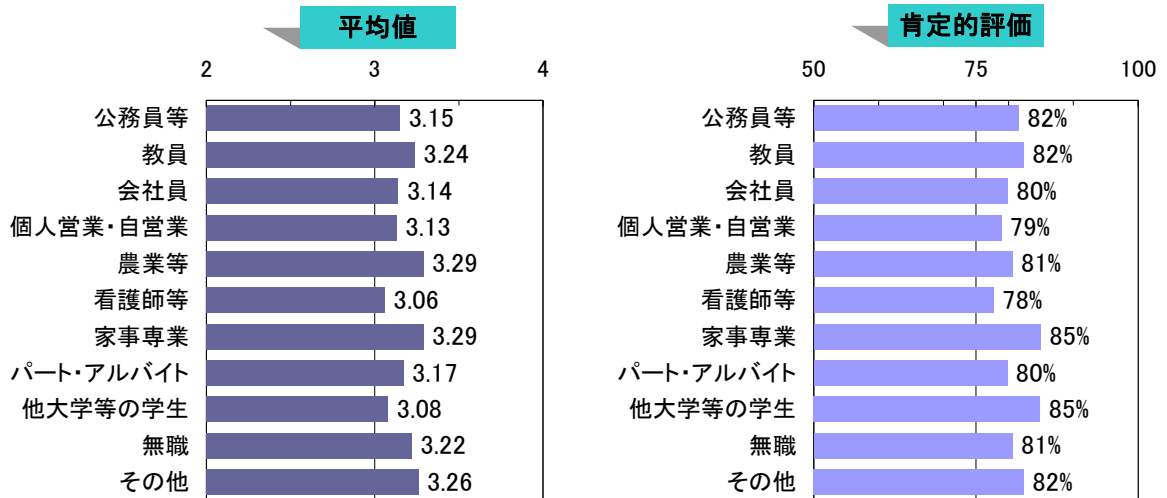
図2-42 【学部】所属コース別の印刷教材の評価



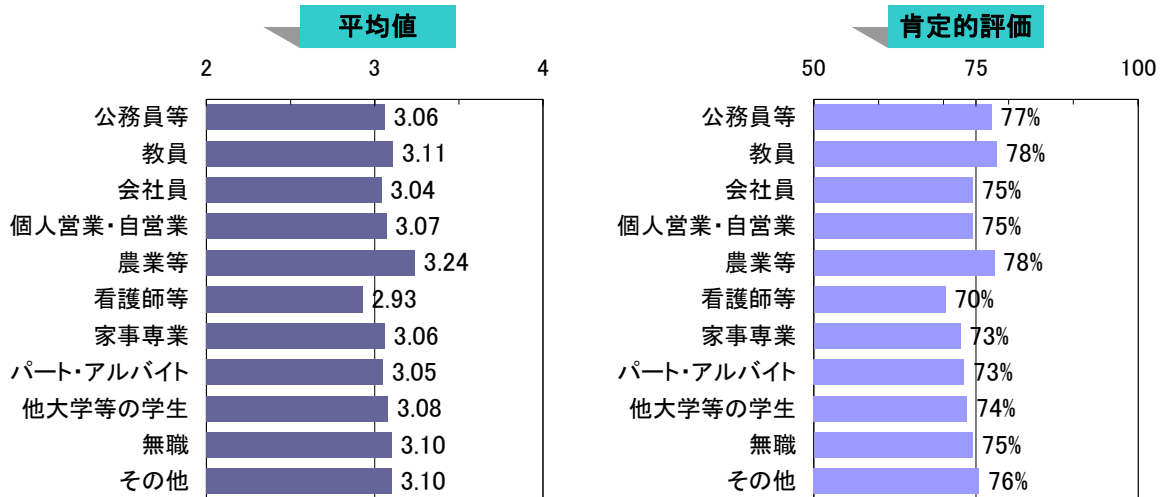
職業別に印刷教材の評価を見ると（次頁図2-43）、印刷教材の評価に関しては職業間の評価差が比較的小さい。総合評価の（B-12）「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」は、どの職業でも評価が高いが、特に家事専門の評価が高くなっている。

図 2 - 4 3 【学部】職業別の印刷教材の評価

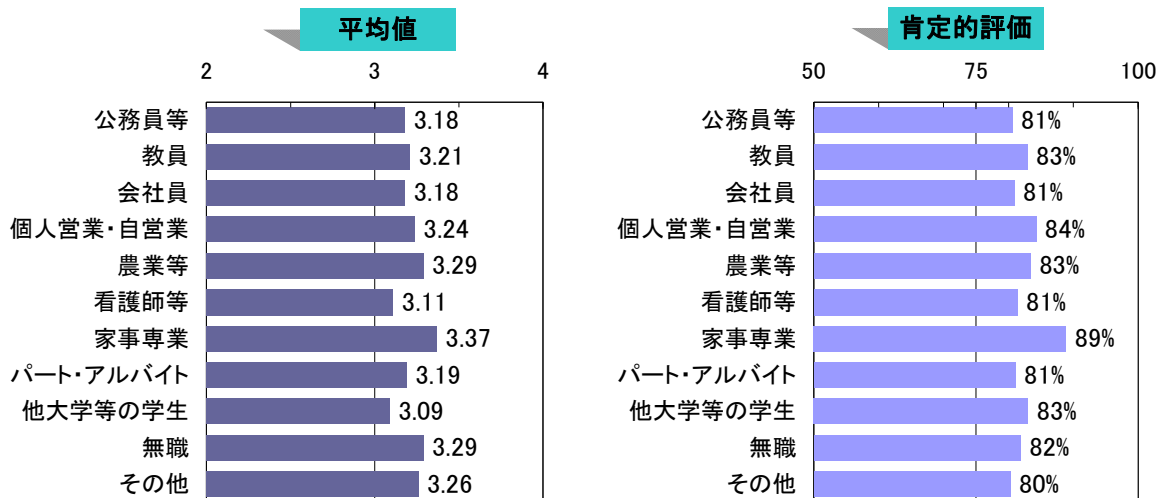
(B-10)印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった



(B-11)図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った



(B-12)印刷教材は教材としてよくできていると感じた



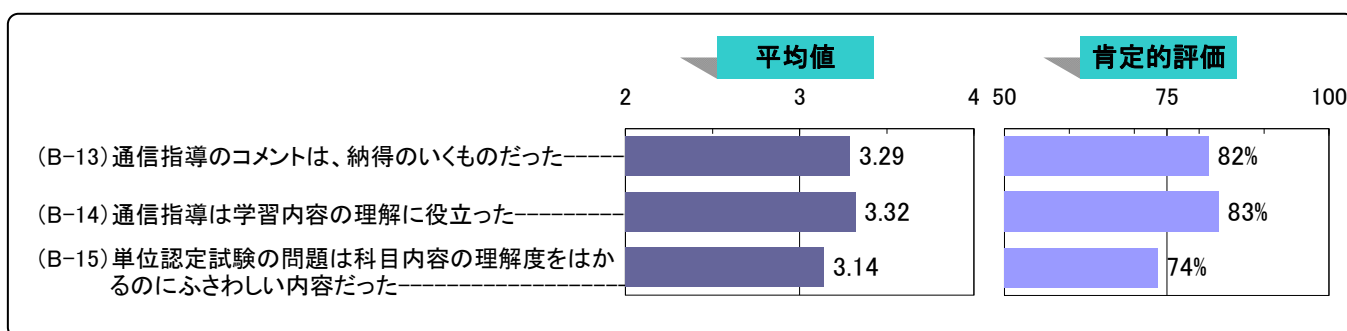
## (5) 通信指導・単位認定試験

最後に通信指導・単位認定試験の評価について、項目ごとに見ていく。

通信指導については(図2-44)、(B-13)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」が平均値 3.29、肯定的評価 82%、(B-14)「通信指導は学習内容の理解に役立った」が平均値 3.32、肯定的評価 83%と、いずれも高い評価を得ている。

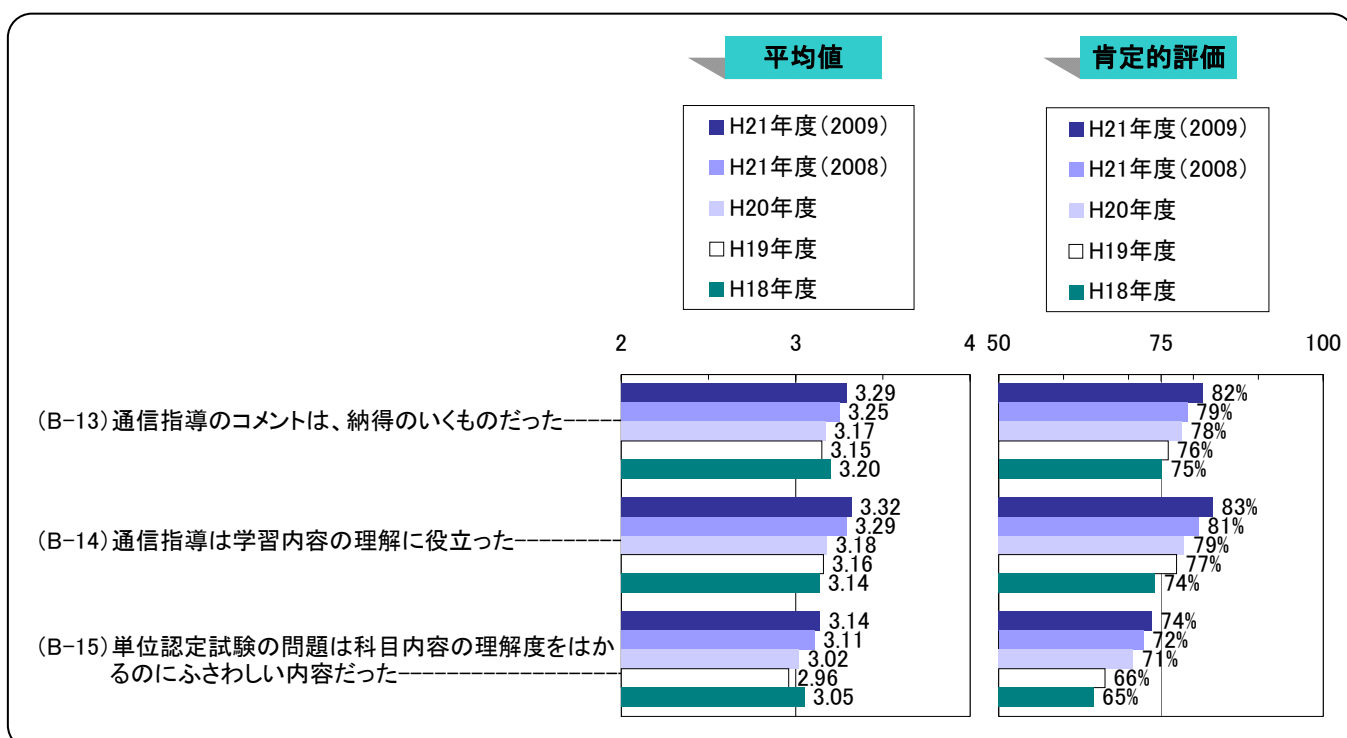
単位認定試験についても、(B-15)「単位認定試験の問題は科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった」が平均値 3.14、肯定的評価 74%と比較的評価が高くなっている。

図2-44 【学部】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価



通信指導・単位認定試験の評価を時系列で見ると(図2-45)、いずれの評価項目も年々評価が上がっており、改善の効果が現れている。

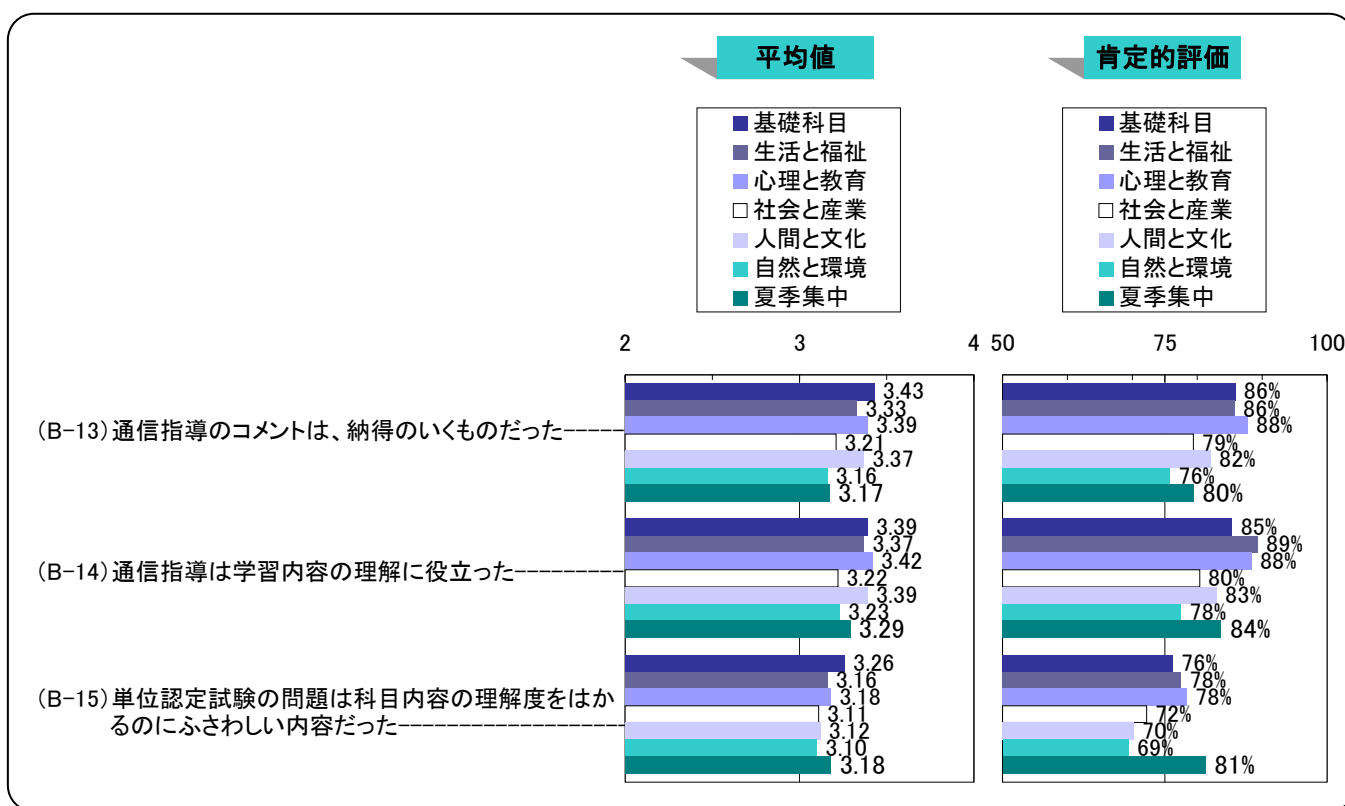
図2-45 【学部】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価(時系列)



所属コース別に通信指導・単位認定試験の評価を見ると（図2-46）、通指指導の（B-13）「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」と（B-14）「通信指導は学習内容の理解に役立った」については、「基礎科目」「生活と福祉」「心理と教育」「人間と文化」などの評価が高く、「社会と産業」「自然と環境」は他のコースより低くなっている。

単位認定試験の（B-15）「単位認定試験の問題は科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった」については、評価差は少ないものの、「基礎科目」や「夏季集中」の評価が他のコースより高い。「自然と環境」「人間と文化」「社会と産業」の評価は低く、単位認定試験について改善が求められる。

図2-46 【学部】所属コース別の通信指導・単位認定試験の評価



## Ⅱ-1-4. 参考

ここでは評価項目間の相関を見ることによって、より深く授業改善の糸口を探っていくことにする。分析には主にピアソンの単相関係数（以下、相関係数）を用いた。相関係数は 1.0 から -1.0 までの値をとり、二つの変数間の変化のいわば「足並み」を示す指標である。それらが共変する場合（つまり片方の値が高ければもう一方も高く、低ければ低いという場合）は 1.0 に近づき、逆の変化をする場合は -1.0 に近づく。両者の変化に関係性がない場合は 0 に近づく。ただし、相関係数による分析では、変数間の共変関係は分かっても、因果関係（つまりどちらが原因となる変数で、どちらが結果かということ）は分からないのが普通である。以下の分析ではそのことを十分留意していただきたい。ただ、総合的な評価は個別の評価を考慮し、総合してなされるであろうことは想像に難くない。そのことを前提として、総合評価と個別評価との関係を見ていくことにしよう。

表 2-2 は、放送授業の各評価項目と (A-2)「放送授業を十分に視聴した」(放送授業への取組姿勢) 及び (B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」(放送授業の総合評価) の相関係数である。

表 2-2 【学部】放送授業と各項目との単相関係数

	(A2)放送授業を十分に視聴した	(B7)放送授業は教材としてよくできていると感じた
(A2)放送授業を十分に視聴した	1.000	0.375
(B1)放送授業の難易度は適切だった	0.382	0.605
(B2)放送授業の内容は適切な分量であった	0.404	0.633
(B5)講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0.380	0.762
(B6)講師の熱意が十分に伝わった	0.421	0.694
(B7)放送授業は教材としてよくできていると感じた	0.375	1.000
(B8)【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.366	0.688

これを見ると、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」(放送授業への取組姿勢) と (B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」(放送授業の総合評価) の相関係数は 0.375 と、相関は見られるものの、弱い相関となっている。つまり放送授業の視聴度合いと放送授業の評価は、決して強くはないが、やや関連性があると言ってよい。

また (A-2)「放送授業を十分に視聴した」(放送授業への取組姿勢) は、放送授業の各評価項目である (B-2)「放送授業の内容は適切な分量であった」、(B-6)「講師の熱意が

十分に伝わった」などと相関係数 0.400 以上と相関が見られ、放送授業の取組姿勢のよい人は放送授業の評価がよく、逆に放送授業の評価がよいと取組姿勢もよくなることが推測される。

一方、(B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」(放送授業の総合評価)と放送授業の各評価項目との間では、いずれも強い相関が見られるが、特に (B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」が相関係数 0.762、(B-6)「講師の熱意が十分に伝わった」が相関係数 0.694 と、相関が強くなっている。したがって、放送授業の総合評価を高めるには、いずれの評価項目もよく改善することが重要であるが、特に講師の説明の分かりやすさや講師の熱意が大切だと言える。

次に、印刷教材の各評価項目と、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」(印刷教材への取組姿勢)及び (B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」(印刷教材の総合評価)の相関係数を見たのが表 2-3 である。

表 2-3 【学部】印刷教材と各項目との単相関係数

	(A3)印刷教材を熱心に学習した	(B12)印刷教材は教材としてよくできていると感じた
(A3)印刷教材を熱心に学習した	1.000	0.290
(B3)印刷教材の難易度は適切だった	0.304	0.607
(B4)印刷教材の内容は適切な分量であった	0.317	0.598
(B9)印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	0.258	0.575
(B10)印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0.315	0.769
(B11)図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0.238	0.688
(B12)印刷教材は教材としてよくできていると感じた	0.290	1.000

これを見ると、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」(印刷教材への取組姿勢)は、(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」(印刷教材の総合評価)および印刷教材の各評価項目との間に、あまり強い相関は見られない。

一方、(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」(印刷教材の総合評価)と印刷教材の各評価項目とでは相関が強く、特に (B-10)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」は相関係数 0.769、(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」が 0.688 と相関が強くなっている。そのため印刷教材の総合評価を高めるためには、いずれの評価項目もよく改善することが重要であるが、特に説明の分かりやすさと図表や写真を有効利用することが大切であると言える。



最後に (A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」、(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」及び(B-20)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」と各評価項目の相関係数を見たのが次頁表2-4である。

表2-4 【学部】取組姿勢・全体評価と各項目との単相関係数

		(A1)全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	(B19)この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	(B20)この科目の内容には全体として満足している(満足度)
取組姿勢	(A1)全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	1.000	0.463	0.418
	(A2)放送授業を十分に視聴した	0.572	0.275	0.261
	(A3)印刷教材を熱心に学習した	0.688	0.423	0.359
授業の難易度・分量	(B1)放送授業の難易度は適切だった	0.343	0.539	0.559
	(B2)放送授業の内容は適切な分量であった	0.336	0.513	0.557
	(B3)印刷教材の難易度は適切だった	0.308	0.580	0.596
	(B4)印刷教材の内容は適切な分量であった	0.311	0.519	0.573
放送授業	(B5)講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0.355	0.541	0.626
	(B6)講師の熱意が十分に伝わった	0.335	0.418	0.528
	(B7)放送授業は教材としてよくできていると感じた	0.319	0.500	0.609
	(B8)【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.288	0.451	0.518
印刷教材	(B9)印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	0.324	0.452	0.533
	(B10)印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0.333	0.612	0.647
	(B11)図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0.273	0.455	0.508
	(B12)印刷教材は教材としてよくできていると感じた	0.295	0.553	0.649
通信指導・単位認定試験	(B13)通信指導のコメントは、納得のいくものだった	0.267	0.438	0.507
	(B14)通信指導は学習内容の理解に役立った	0.282	0.475	0.533
	(B15)単位認定試験の問題は科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった	0.277	0.522	0.583
全体評価	(B16)授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った	0.337	0.533	0.599
	(B17)学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	0.446	0.623	0.742
	(B18)新しい知識が身につく視野が広がった	0.427	0.601	0.678
	(B19)この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	0.463	1.000	0.748
	(B20)この科目の内容には全体として満足している(満足度)	0.418	0.748	1.000

まず、全体的な熱心度(取組姿勢)と科目の理解度、満足度との関係を見ると、熱心

度は理解度と 0.463、満足度と 0.418 の相関係数であり、熱心度と理解度・満足度との間に相関が見て取れる。また理解度と満足度の相関係数は 0.748 と強い相関が見られ、理解度が高いと満足度も高いと言える。

(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」と各評価項目の相関を見ると、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」が相関係数 0.688 と最も相関が高く、次いで(A-2)「放送授業を十分に視聴した」が相関係数 0.572、さらに全体評価の(B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、(B-18)「新しい知識が身につく視野が広がった」とも相関が見られる。全体的な熱心度は、印刷教材や放送授業への取組姿勢と、授業内容が興味や関心の高まるものであり、視野が広がるものであったかどうかとも関係していると言える。

(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」と各評価項目は、いずれも相関が見られる。特に(B-10)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」、(B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、(B-18)「新しい知識が身につく視野が広がった」と強い相関が見られる。理解度は、教材の分かりやすさだけでなく、授業内容が興味や関心の高まるものであったかどうか、新しい知識が身につく視野が広がるものであったかどうかと特に関係していることが分かる。

(B-20)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」と各評価項目の相関係数を見ると、取組姿勢以外の各評価項目と相関が見られ、満足度を高める上でいずれの評価項目も影響していることが分かる。なかでも特に相関が強いのは、(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」、(B-10)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」、(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」、(B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、(B-18)「新しい知識が身につく視野が広がった」である。科目の満足度を高める上で、講師の説明や放送授業の分かりやすさ、印刷教材の難易度や分かりやすさ、興味・関心のもてる授業内容、視野が広がるような知識の習得などが特に重要なポイントと言える。

## Ⅱ－２．大学院の分析結果

### Ⅱ－２－１．項目平均から見た全体的傾向

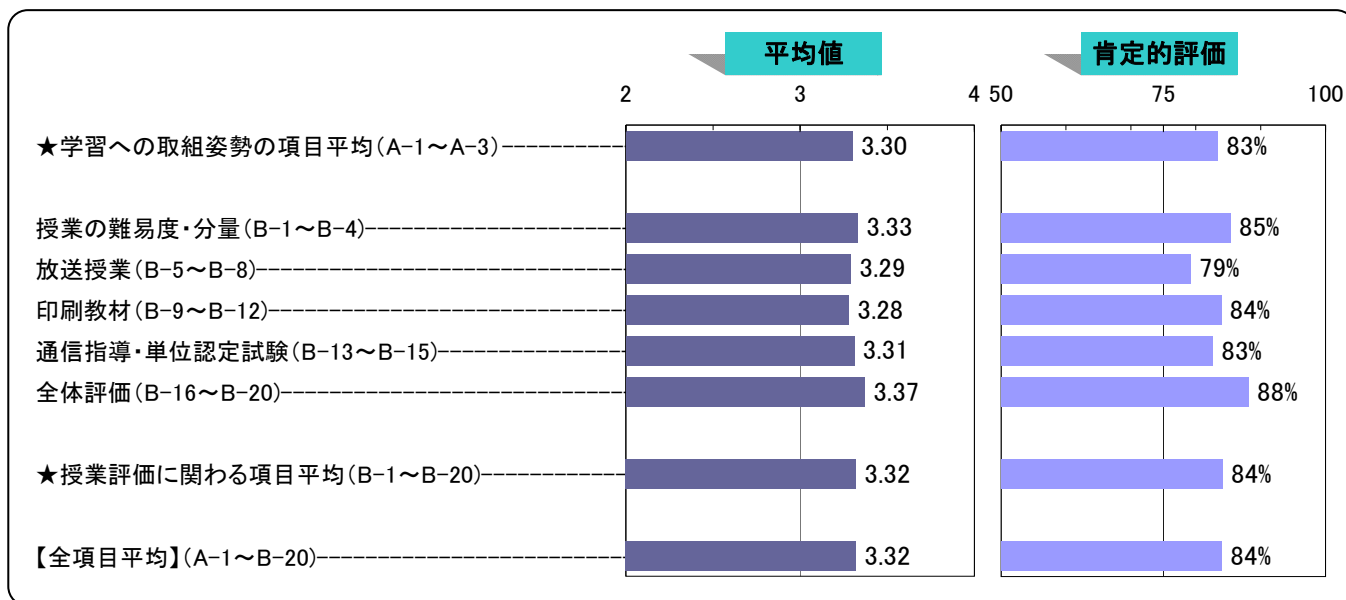
ここからは大学院科目の評価結果を見ていく。大学院の回答者全体について、評価項目の内容ごとにその平均を算出したのが図 2－47 である。まずこれによって評価の全体的傾向を把握しておくこととする。

項目平均を全体的に見ると、学部生よりも取組姿勢がよく、授業評価も高いのが特徴である。

『学習への取組姿勢の項目平均』は平均値 3.30、肯定的評価（「あてはまる」＋「ややあてはまる」）83%であり、『授業評価に関わる項目平均』も平均値 3.32、肯定的評価 84%と高い値を示している。熱心に学習に取り組んだと同時に、授業に対する評価も高いと言える。

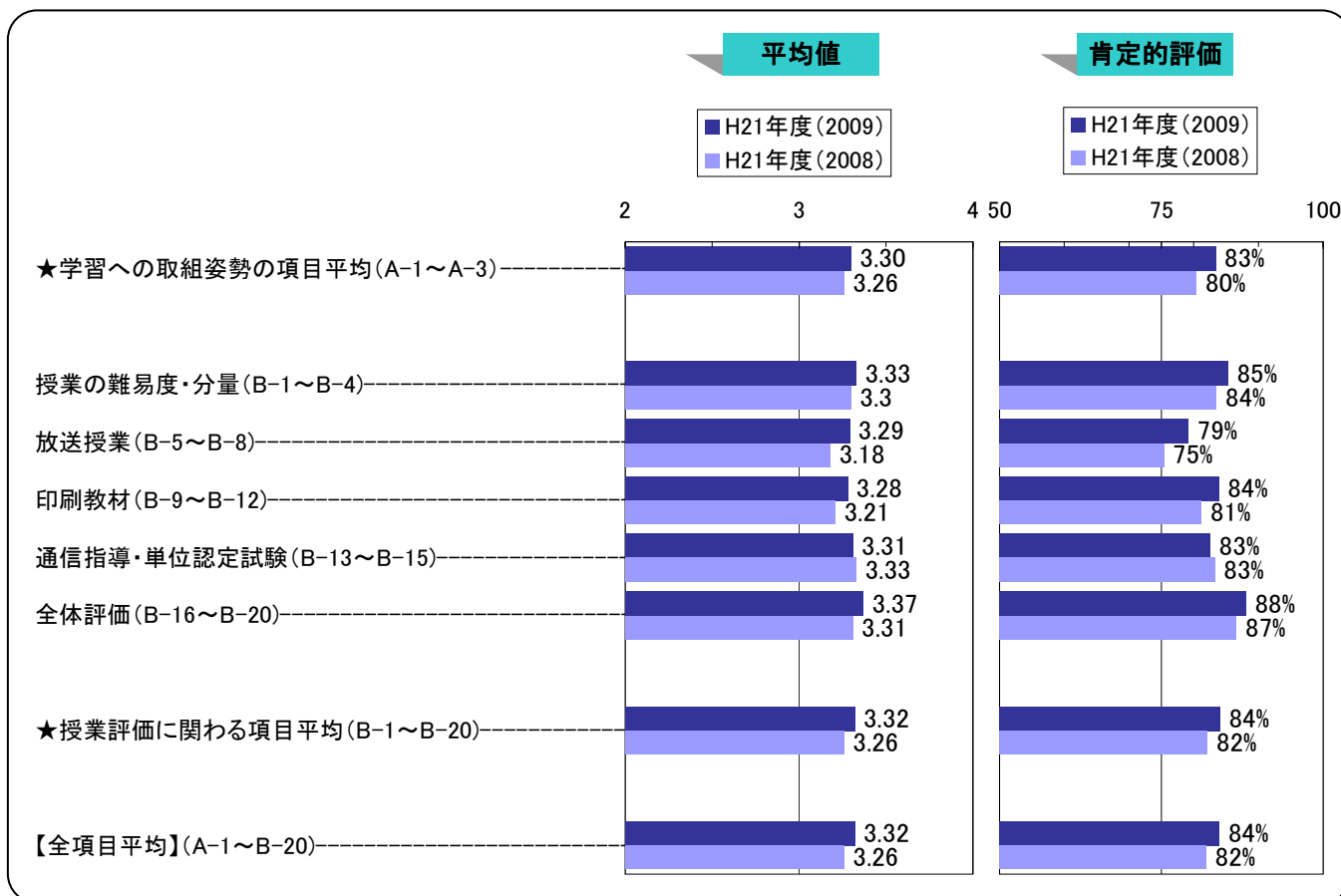
『授業評価に関わる項目平均』を内容ごとにみると、『全体評価』は平均値 3.37、肯定的評価 88%と評価が高くなっている。逆に『放送授業』は肯定的評価が、他の項目平均より少なく、改善ポイントとなっている。

図 2－47 【大学院】項目平均による全体的傾向



項目平均を科目の開設年度で比較してみると（図2-48）、『通信指導・単位認定試験』を除いて、2009年度新規開設科目は、2008年度新規開設科目に比べ、いずれの内容でも僅かずつ評価が上がっている。特に『授業評価』の平均が最も向上しており、改善の効果が見られる。

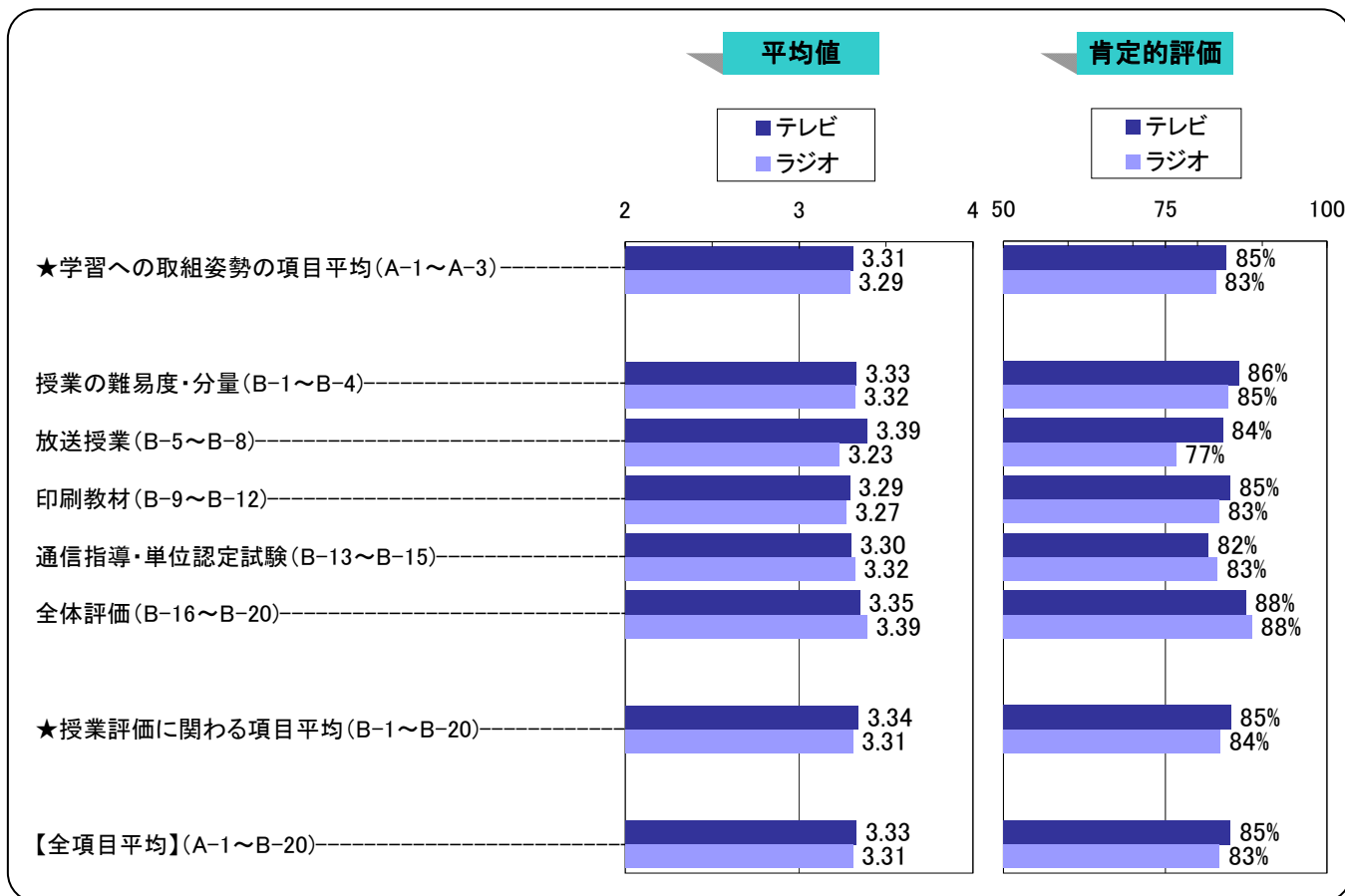
図2-48 【大学院】項目平均による全体的傾向（開設年度比較）



メディア別に 2008 年度新規開設科目の項目平均を見ると（図 2-49）、『学習への取組姿勢の項目平均』、『授業評価に関わる項目平均』ともテレビ科目の方が、若干評価が高いが、その差はほとんどない。

『授業評価に関わる項目平均』の内容ごとに見ると、『放送授業』はラジオ科目の評価がテレビ科目に比べ低くなっている。『放送授業』以外の項目平均ではほとんど差がないと言ってよい。

図 2-49 【大学院】項目平均によるメディア別全体的傾向



メディア別の項目平均を科目の開設年度で比較すると（図2-50）、テレビ科目は、『学習への取組姿勢の項目平均』、『授業の難易度・分量』、『全体評価』の肯定的評価が向上しているが、それ以外の変化は少ない。

一方、ラジオ科目では、『学習への取組姿勢の項目平均』や、評価の低い『放送授業』、『印刷教材』の評価が向上している。

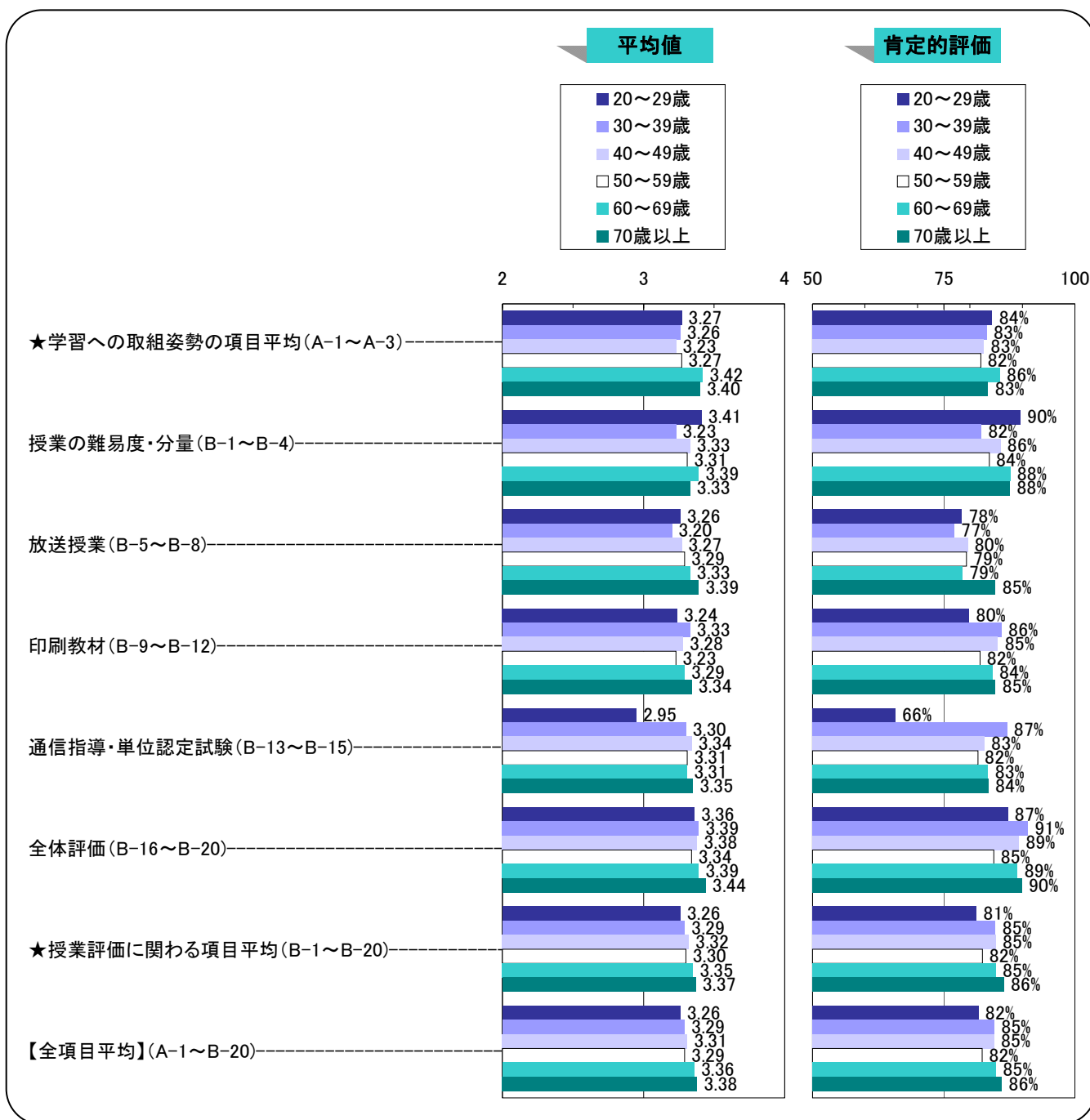
図2-50 【大学院】項目平均によるメディア別全体的傾向（開設年度比較）



回答者の年齢階層別に 2009 年度新規開設科目の項目平均を見ると（図 2-5 1）、『学習への取組姿勢の項目平均』は、60 歳代、70 歳以上の評価がやや高くなっているが、年齢階層間の差はあまり大きくない。

『授業評価に関わる項目平均』も年配層ほど評価が高いが、やはり年齢階層間の差は小さいと言えよう。なお『通信指導・単位認定試験』では 20 歳代の評価が低くなっているが、20 歳代は回答者数が少ないため、注意が必要である（誤差が大きい可能性もある）。

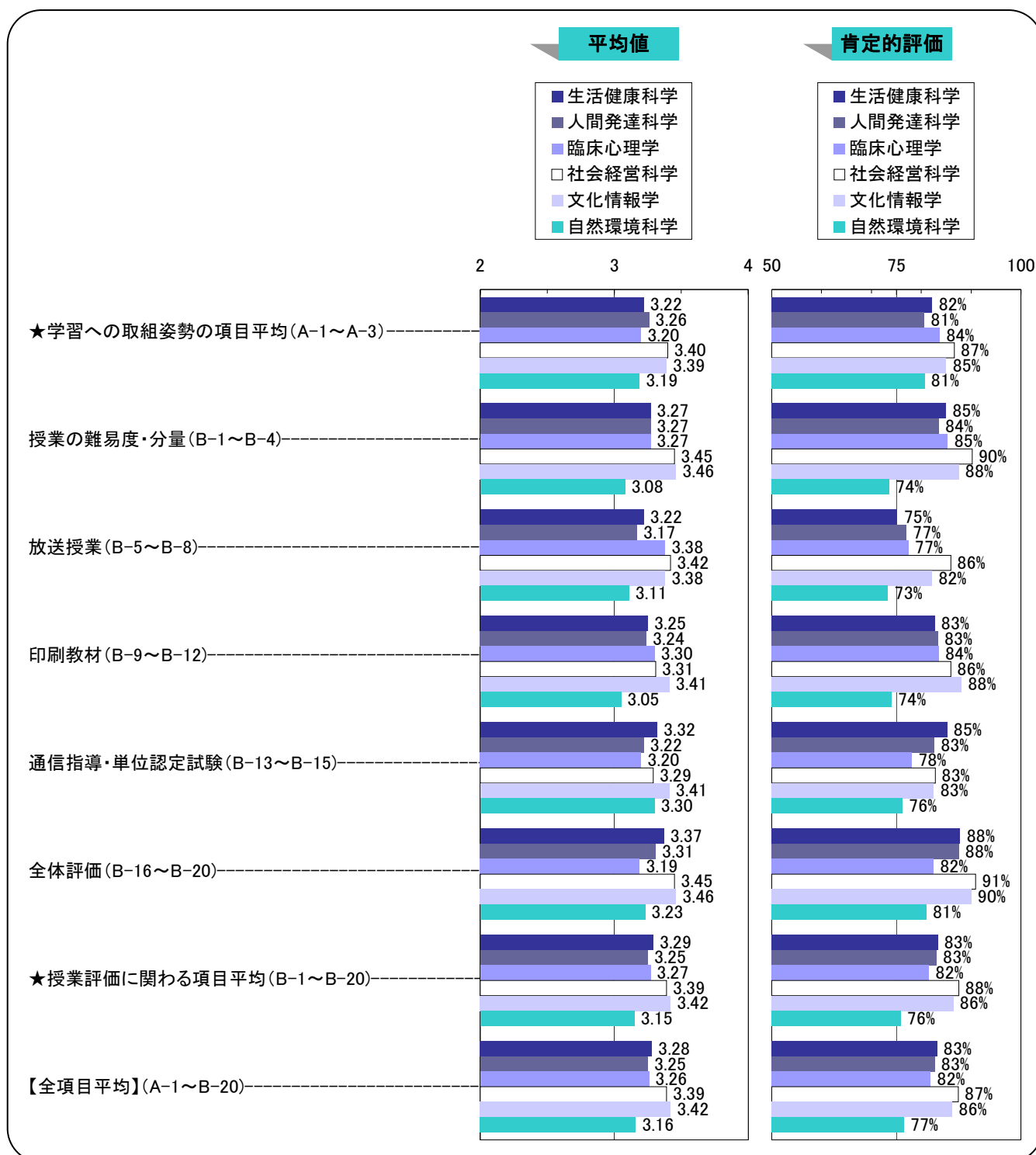
図 2-5 1 【大学院】項目平均による年齢階層別全体的傾向



科目の所属プログラム別に項目平均を見ると（図2-52）、『学習への取組姿勢の項目平均』は「社会経営科学」と「文化情報学」の値が高くなっている。

『授業評価に関わる項目平均』も「社会経営科学」と「文化情報学」の評価が高いが、他のプログラムに比べ「自然環境科学」の評価が低い。「自然環境科学」は、授業の難易度、放送授業、印刷教材のいずれも評価が低くなっており、改善が求められる。

図2-52 【大学院】項目平均による所属プログラム別全体的傾向



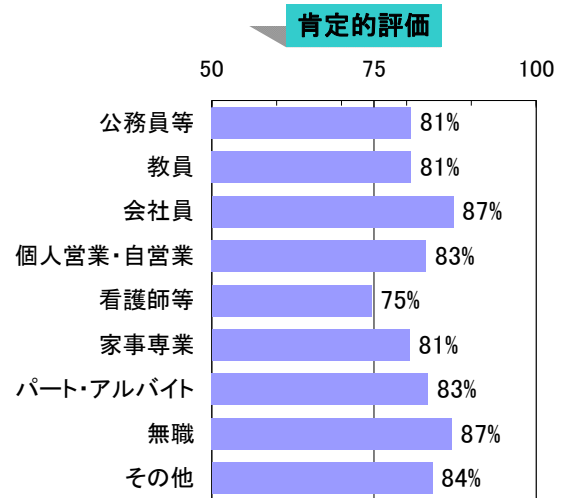
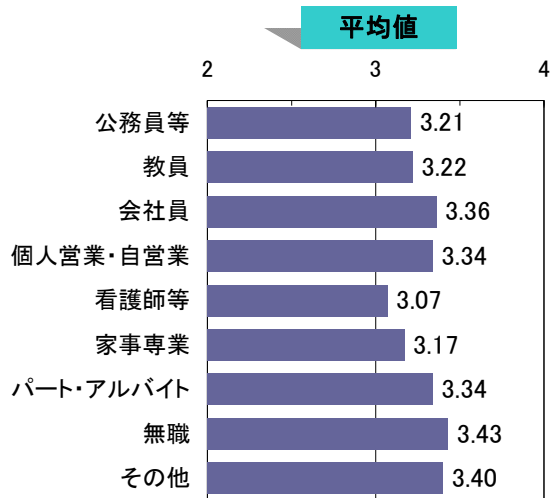


職業別に項目平均を見ると（次頁図 2 - 5 3）、『学習への取組姿勢の項目平均』は無職、会社員、個人営業・自営業、パート・アルバイトなどで高く、看護師等で低くなっている。

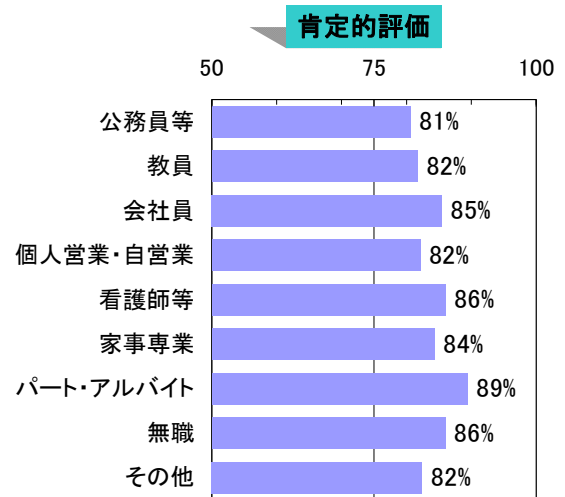
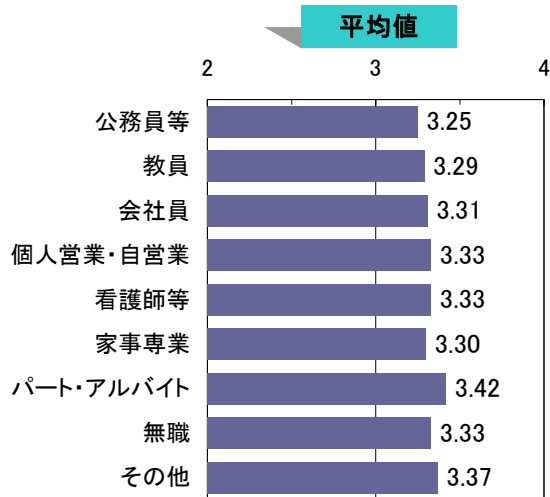
『授業評価に関わる項目平均』は、パート・アルバイトの評価がやや高いが、職業間の評価の差は比較的小さく、いずれの職業でも高い評価となっている。

図 2 - 5 3 【大学院】項目平均による職業別全体的傾向

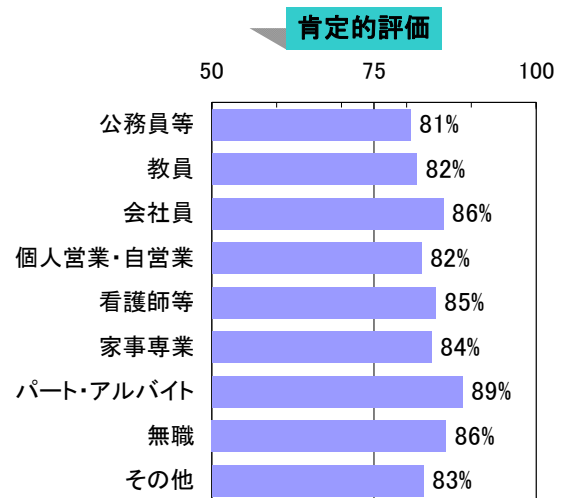
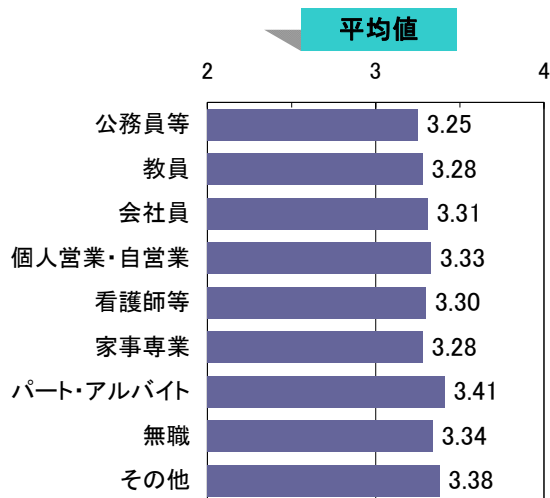
★学習への取組姿勢の項目平均(A-1～A-3)



★授業評価に関わる項目平均(B-1～B-20)



【全項目平均】(A-1～B-20)

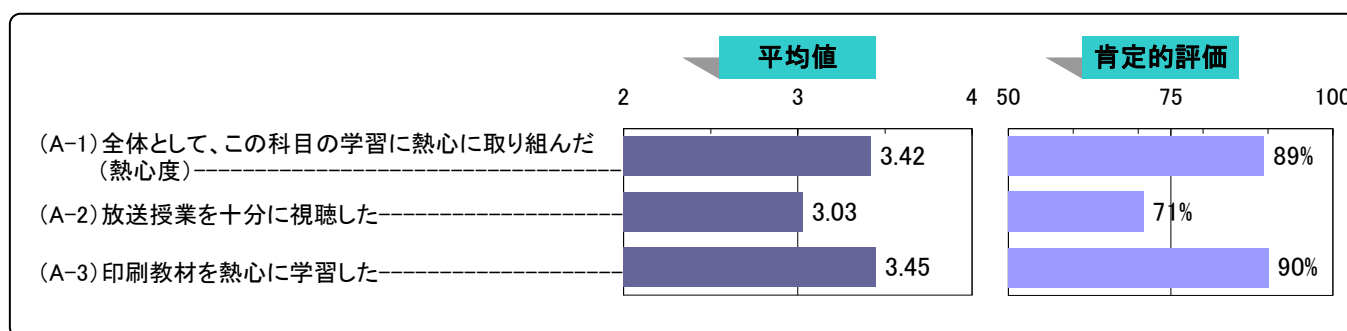


## Ⅱ－２－２．学習への取組姿勢

ここからはそれぞれ評価項目ごとに調査結果を見ていく。

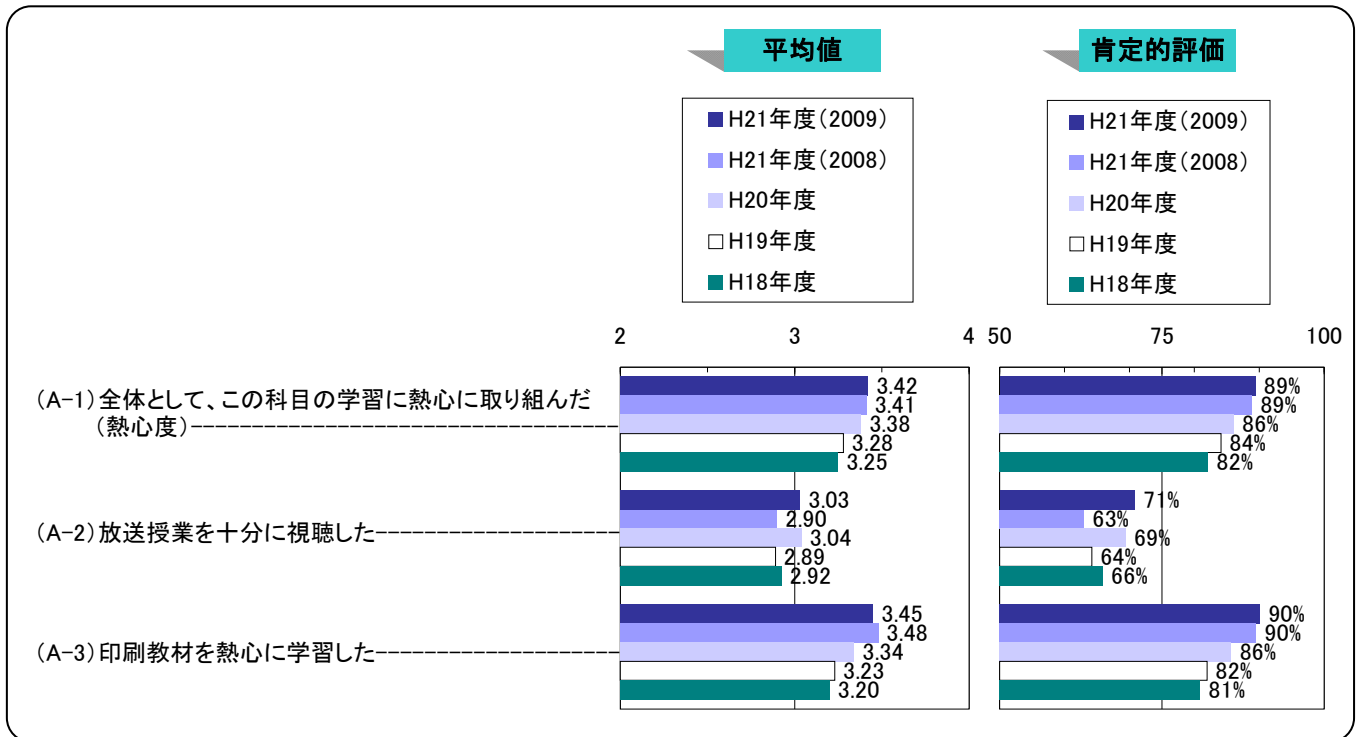
学習への取組姿勢（図 2－5 4）では、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」は、平均値 3.42、肯定的評価 89%で、熱心に学習されている。同様に (A-3)「印刷教材を熱心に学習した」も平均値 3.45、肯定的評価 90%と非常に高い。しかしこれらに比べると、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は、平均値 3.03、肯定的評価 71%と低くなっている。学部と同様、全体としては熱心に学習に取り組んでいるものの、学習は印刷教材が中心となっている。印刷教材に比べ放送授業の視聴度合いがよくないのは、時間的な制約などもあるだろうが、放送授業そのものの出来栄も関係していると考えられるので、今後もより改善努力を進めるべきであろう。

図 2－5 4 【大学院】回答者全体の取組姿勢



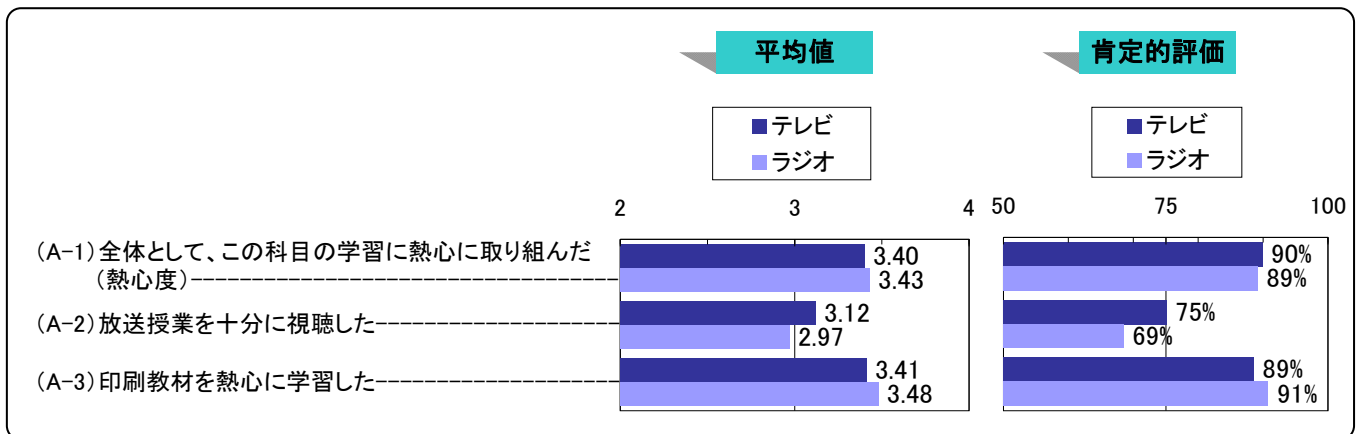
学習への取組姿勢を時系列で見ると（次頁図 2－5 5）、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」と (A-3)「印刷教材を熱心に学習した」は年々向上している。(A-2)「放送授業を十分に視聴した」も年によって変動はあるものの、今回調査（2009 年度新規開設科目）はますますの値となっている。取組姿勢は授業の出来栄によっても変化するが、調査年度によって上下動があるのは、大学院の調査対象の科目数が少ないため、特定の科目の影響が大きいことも影響していると考えられる。

図 2 - 5 5 【大学院】 回答者全体の取組姿勢（時系列）



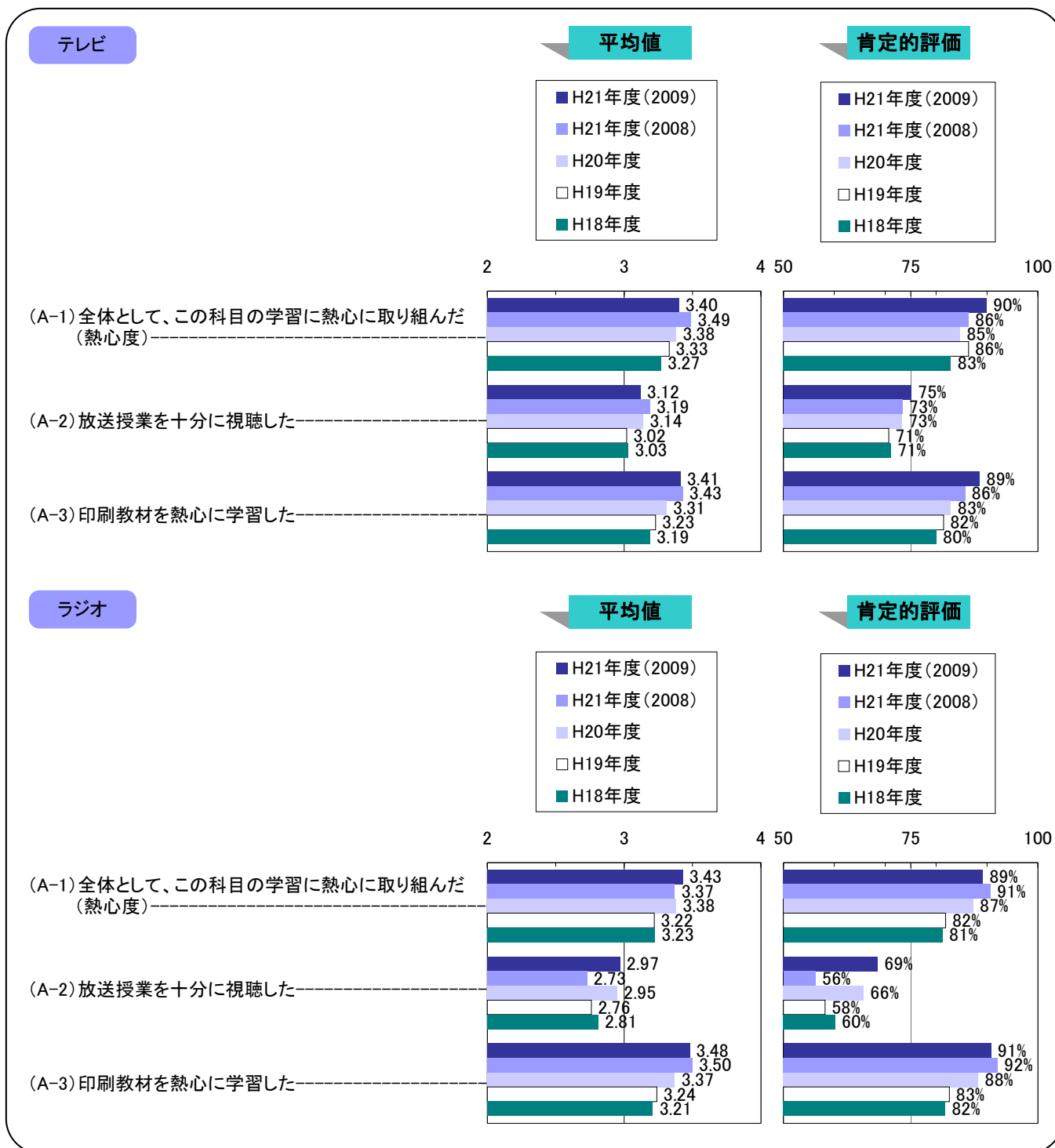
メディア別の取組姿勢を見ると（図 2 - 5 6）、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」は、テレビ科目とラジオ科目で大きな差はないが、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」ではラジオ科目がやや低くなっている。テレビ科目はまずまずの視聴度と言えるが、印刷教材の取組姿勢に比べるとよくない。今後もテレビ科目、ラジオ科目ともに授業の改善等によって、ラジオ科目の放送授業の視聴を上げていく必要があるだろう。

図 2 - 5 6 【大学院】 メディア別の取組姿勢



メディア別の取組姿勢を時系列で見ると（図2-57）、全体的にはテレビ科目、ラジオ科目とも年々取組姿勢が良くなる傾向にある。テレビ科目、ラジオ科目とも（A-1）「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」と（A-3）「印刷教材を熱心に学習した」は、非常に高いレベルまで改善されているが、（A-2）「放送授業を十分に視聴した」は、まだまだ不十分なレベルにあると言えよう。

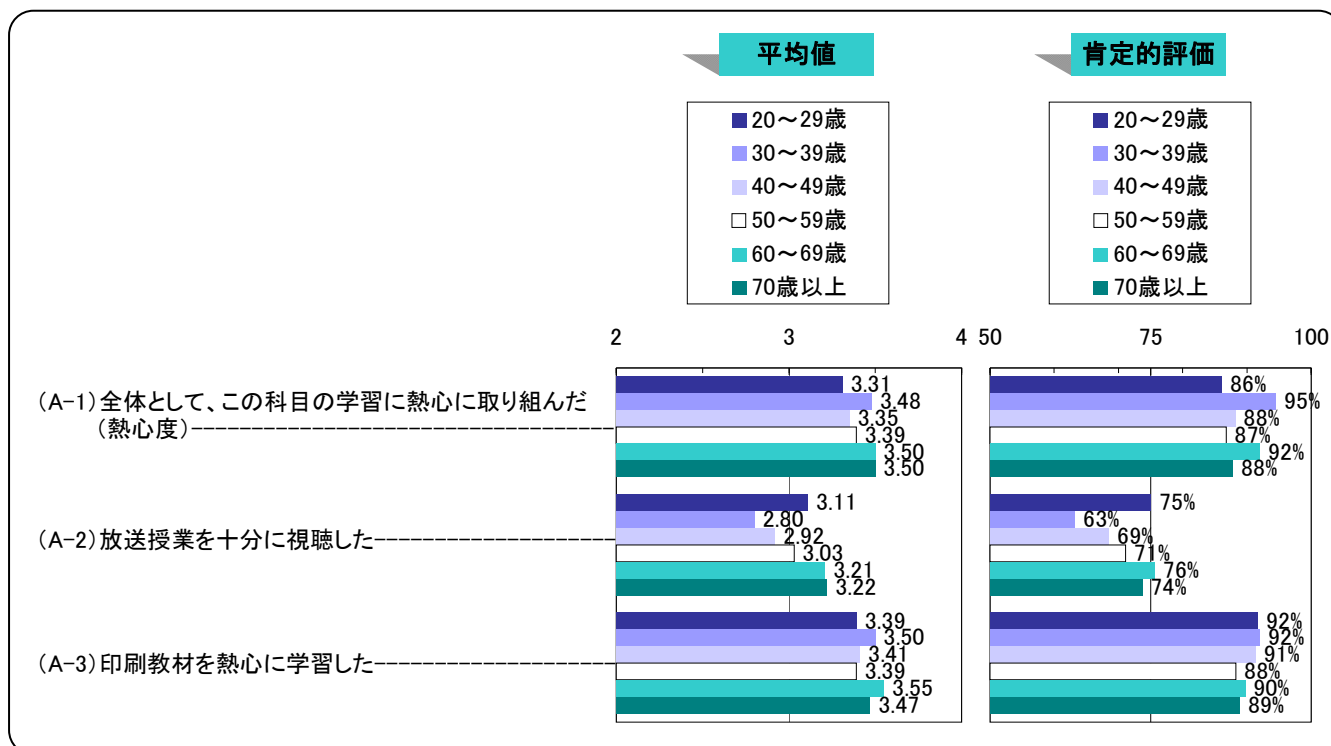
図2-57 【大学院】メディア別の取組姿勢（時系列）



年齢階層別に取り組姿勢を見ると（図2-58）、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は、20歳代と年配層で熱心に取り組んでいる人が多く、30歳代は少ない。

だが、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」と(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は、年齢階層に関係なく熱心に取り組んだ人がかなり多くなっている。

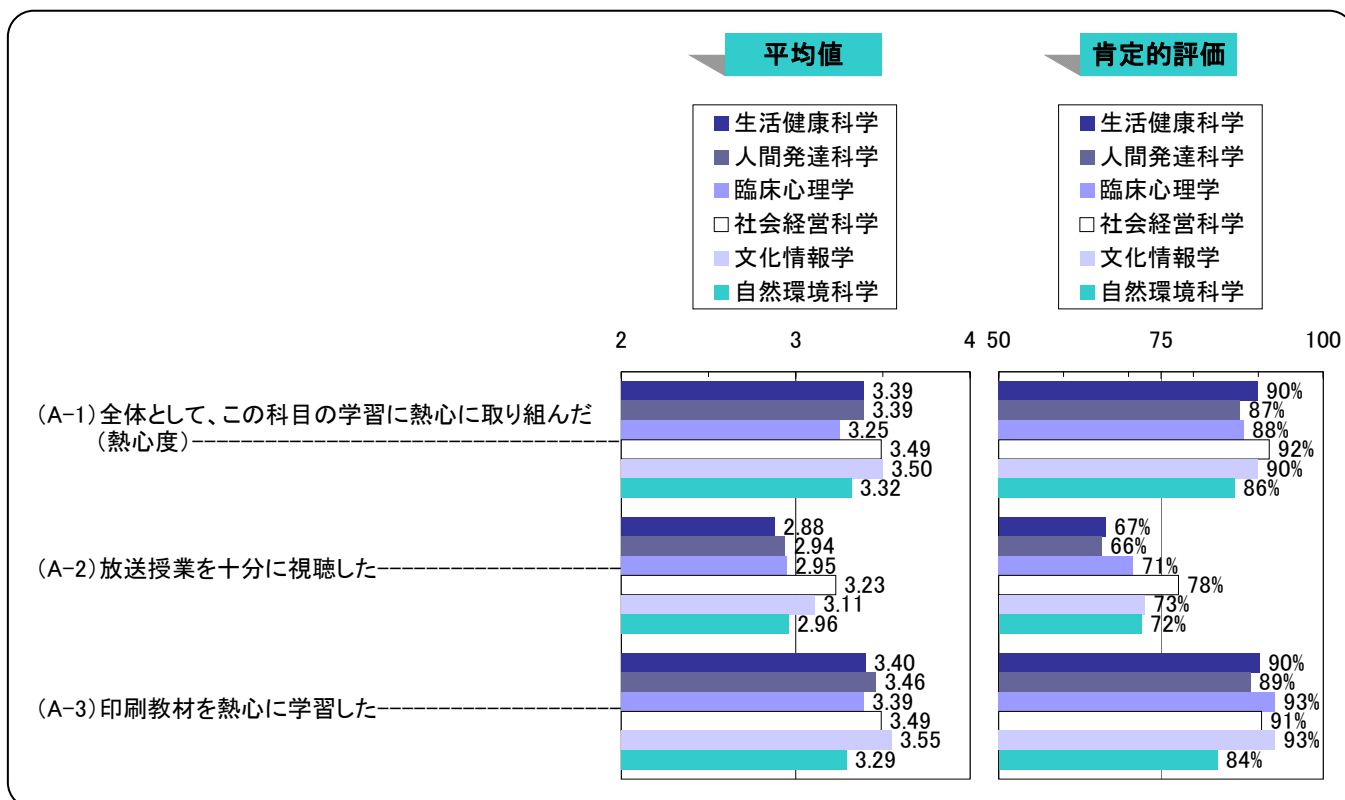
図2-58 【大学院】年齢階層別に取り組姿勢



所属プログラム別に取り組姿勢を見ると（図2-59）、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」と（A-3）「印刷教材を熱心に学習した」ではどのプログラムも高い値を示している。

（A-2）「放送授業を十分に視聴した」では、「社会経営科学」が比較的好く視聴されているが、「生活健康科学」と「人間発達科学」は特に視聴度合いがよくない。

図2-59 【大学院】所属プログラム別の取り組姿勢

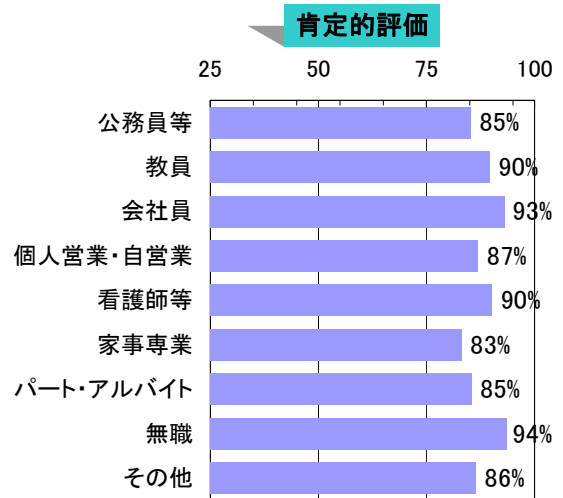
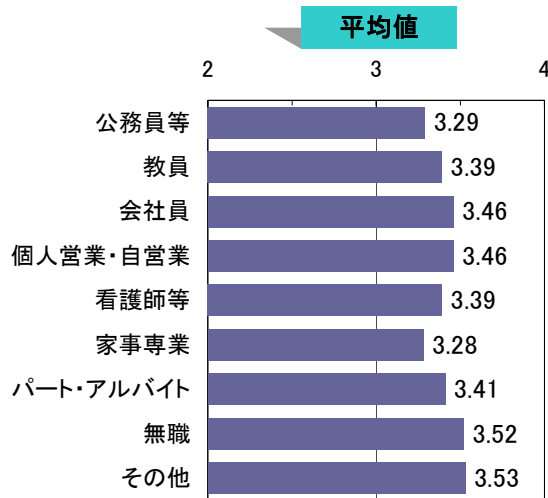


職業別に取り組姿勢を見ると（次頁図2-60）、こちらも（A-1）「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」と（A-3）「印刷教材を熱心に学習した」ではどの職業の人も取り組姿勢は高い値を示している。

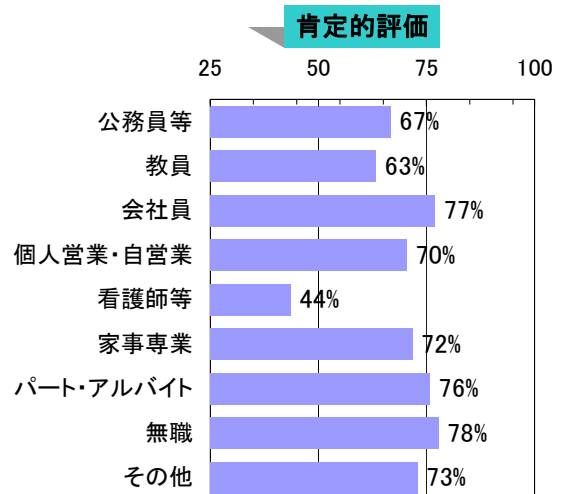
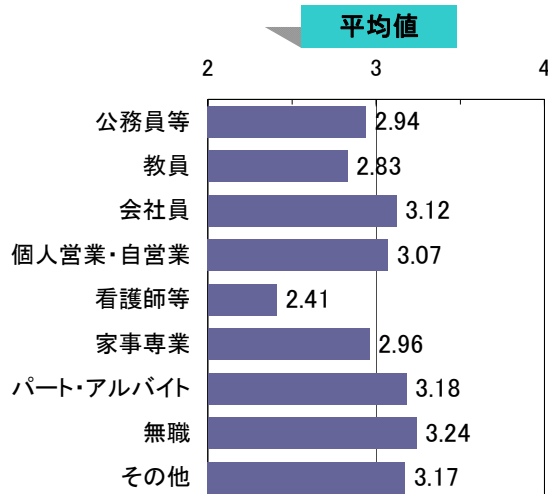
（A-2）「放送授業を十分に視聴した」では、会社員、個人営業・自営業、パート・アルバイト、無職の人が比較的好く視聴しているが、看護師等が非常に悪く、公務員等、教員もあまりよくない。

図 2 - 6 0 【大学院】職業別の取組姿勢

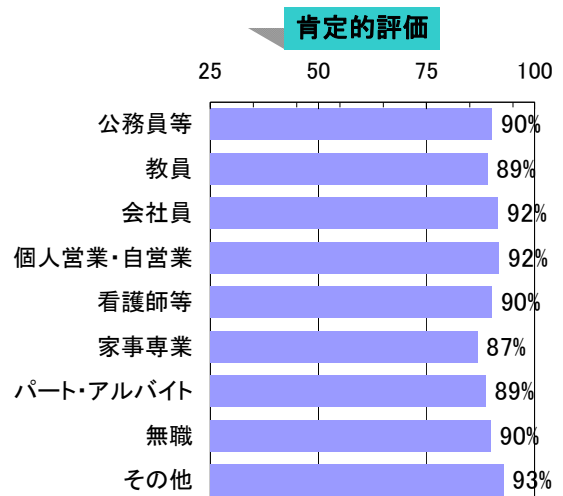
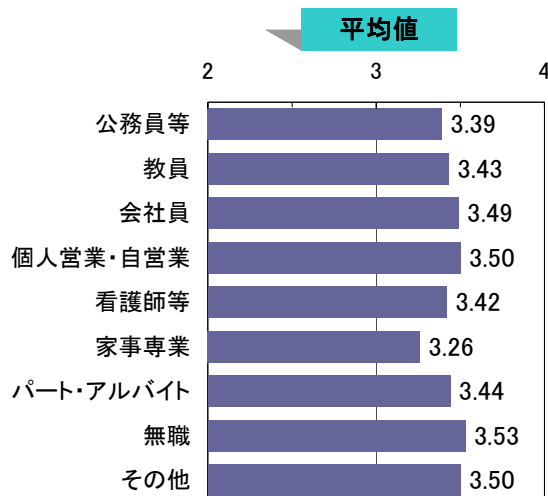
(A-1) 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)



(A-2) 放送授業を十分に視聴した



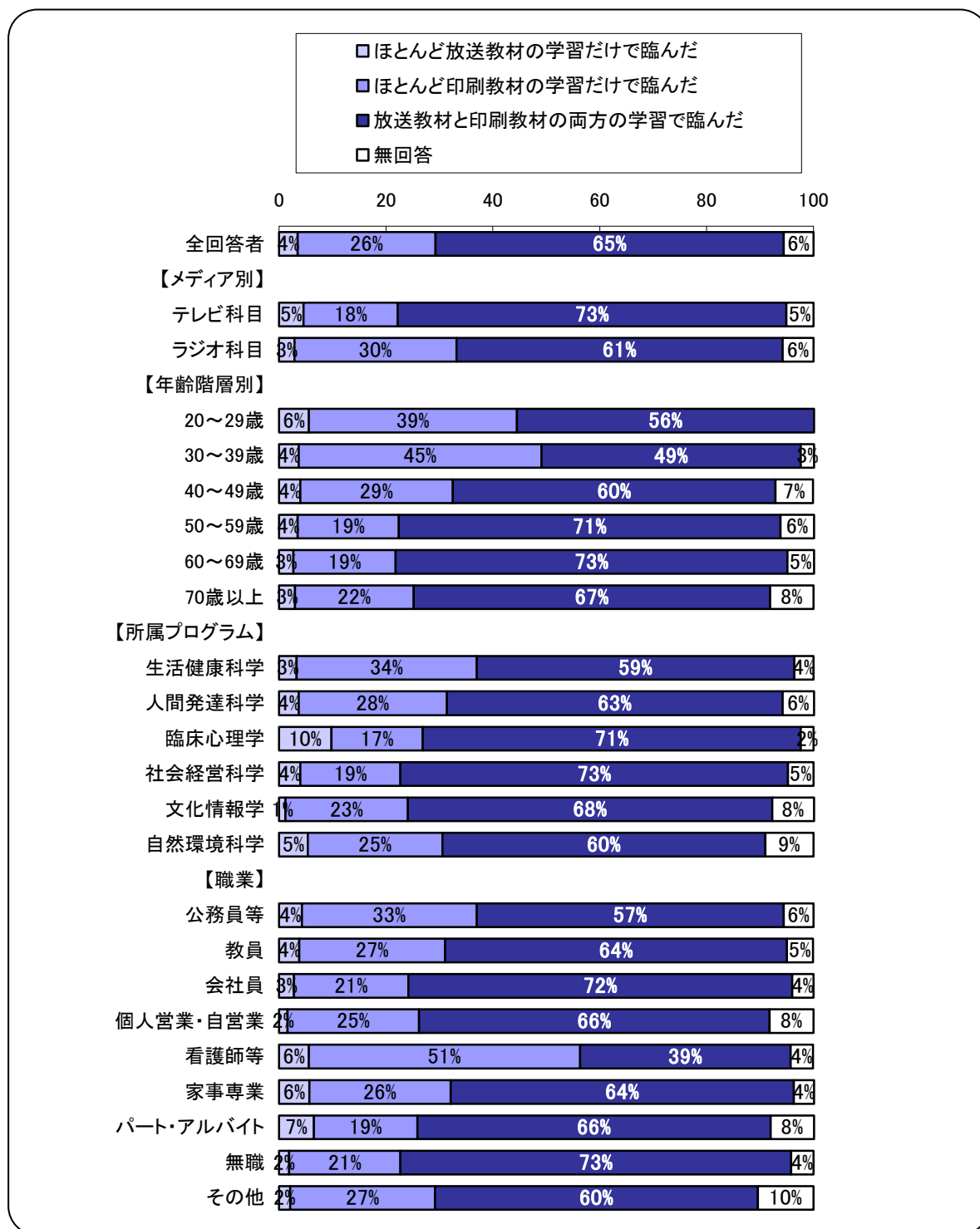
(A-3) 印刷教材を熱心に学習した





単位認定のための学習方法（図2-61）は、全体では「放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ」が65%と約2/3を占め、「ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ」が26%となっている。「放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ」が少ないのは、年齢階層別の20歳代、30歳代、それに職業別では看護師等である。

図2-61 【大学院】 単位認定のための学習方法



## Ⅱ－２－３．大学院の授業評価

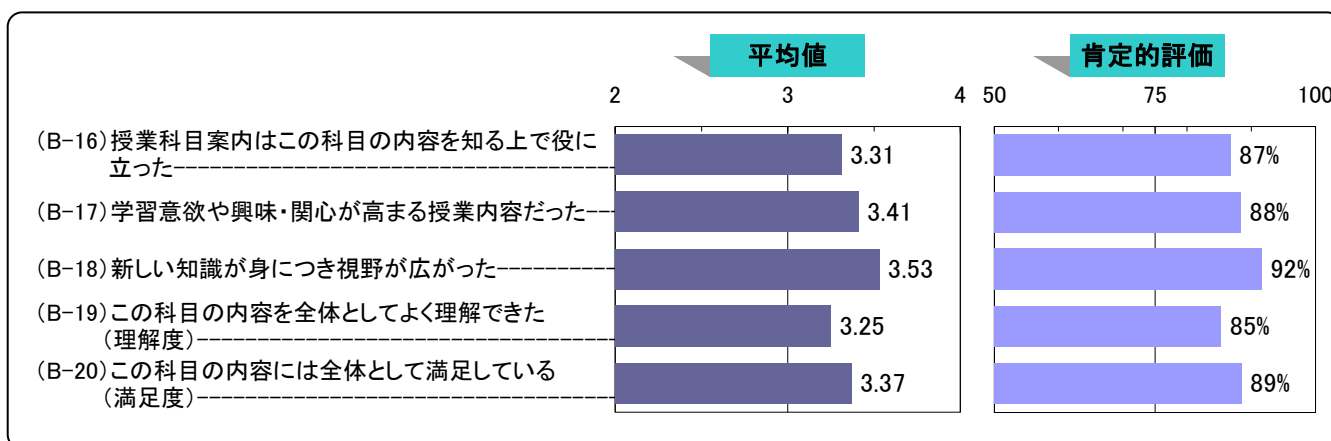
### (1) 全体評価

ここからは大学院の授業評価について、評価項目ごとに見ていくこととする。

まず全体評価を見ると（図２－６２）、いずれの項目も高い評価となっている。特に（B-18）「新しい知識が身につき視野が広がった」は、平均値 3.53、肯定的評価 92%と非常に高くなっている。

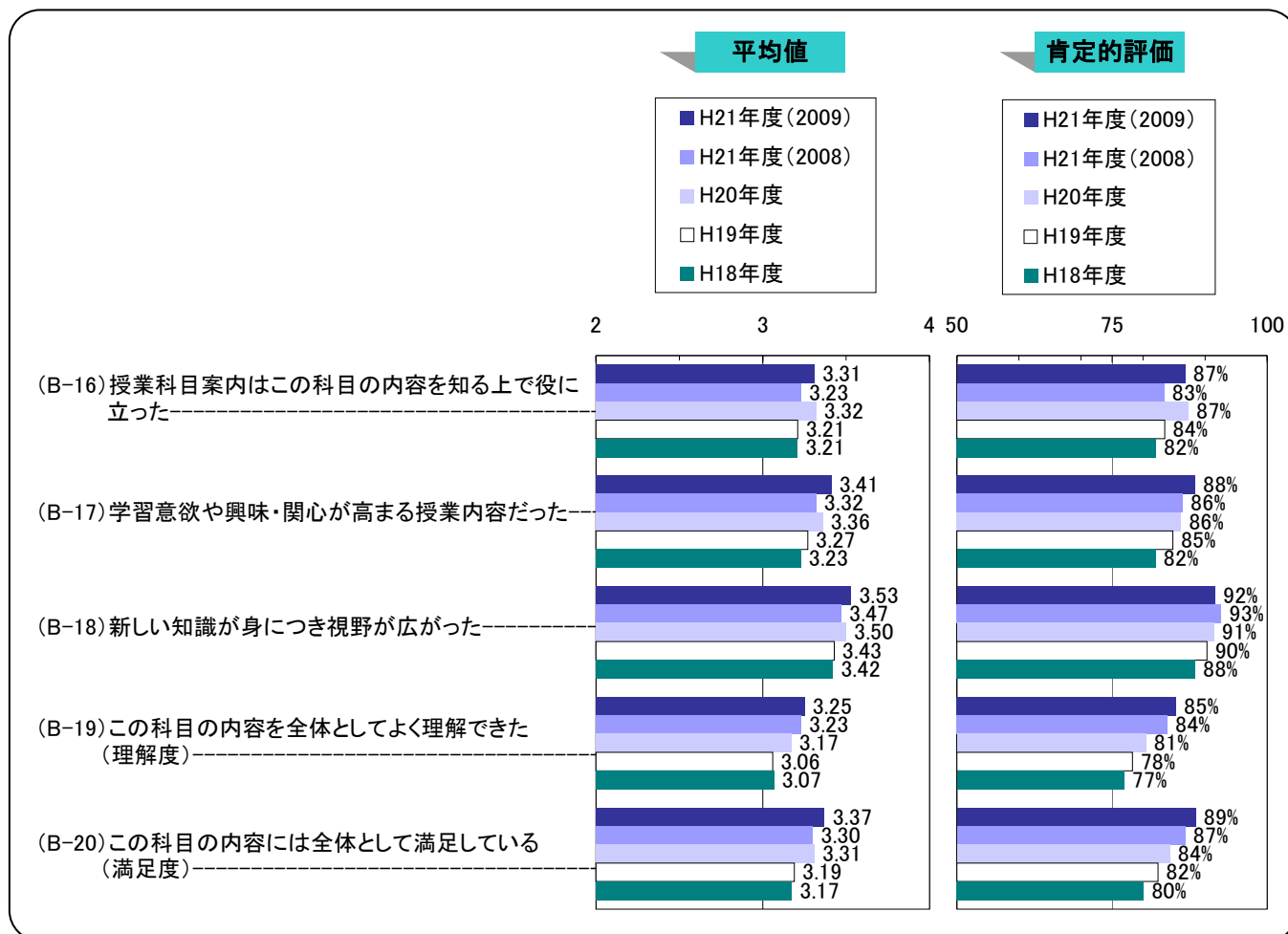
（B-20）「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」も平均値 3.37、肯定的評価 89%と高い満足度を示している。ただ（B-19）「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」は、平均値 3.25、肯定的評価 85%と、満足度に比べるとやや低い。

図 2 - 6 2 【大学院】回答者全体の全体評価



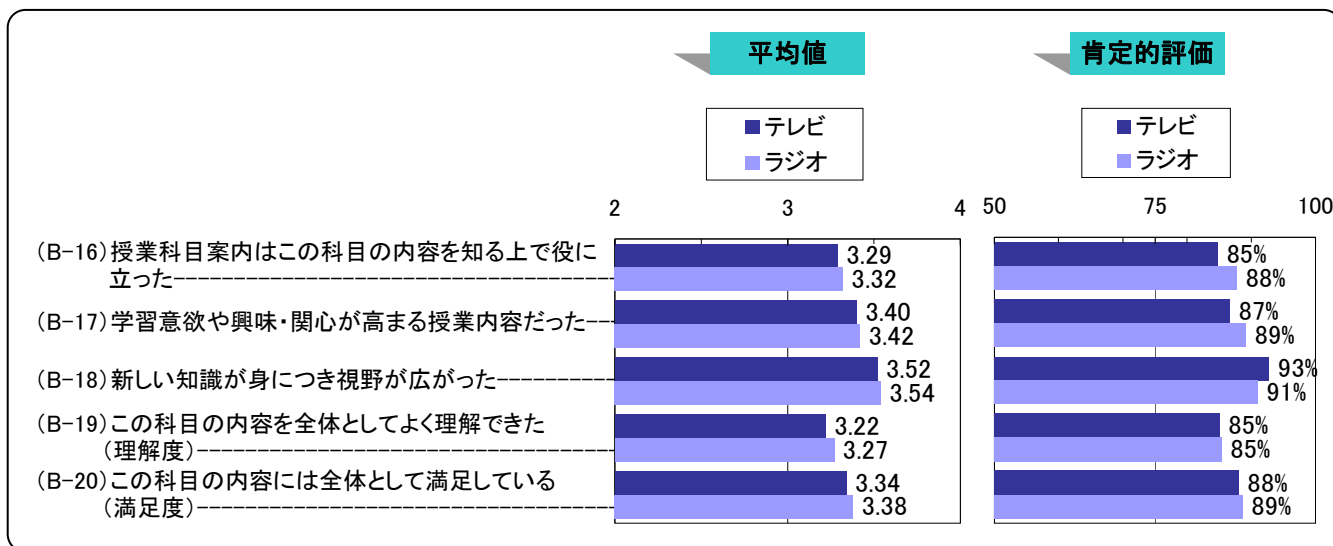
全体評価を時系列で見ると（図2-63）、いずれの項目も評価が上昇傾向にあると言える。特に（B-19）「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」と（B-20）「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」の上昇度合いが大きい。

図2-63 【大学院】回答者全体の全体評価（時系列）



メディア別に全体評価を見ると（図 2-64）、いずれの項目も、テレビ科目よりラジオ科目の方が若干評価が高いが、ほとんど差はないと言ってよい。

図 2-64 【大学院】メディア別の全体評価



メディア別の全体評価を時系列で見ると（次頁図 2-65）、テレビ科目は、いずれの項目も平成 20 年度調査（2007 年新規開設科目）以降、評価がほぼ横ばいで、やや伸び悩んでいる。

一方ラジオ科目は、(B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」、(B-20)「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」で、年々評価が上昇している。(B-18)「新しい知識が身につく視野が広がった」は、もともと評価が非常に高いため、やや横ばい傾向である。

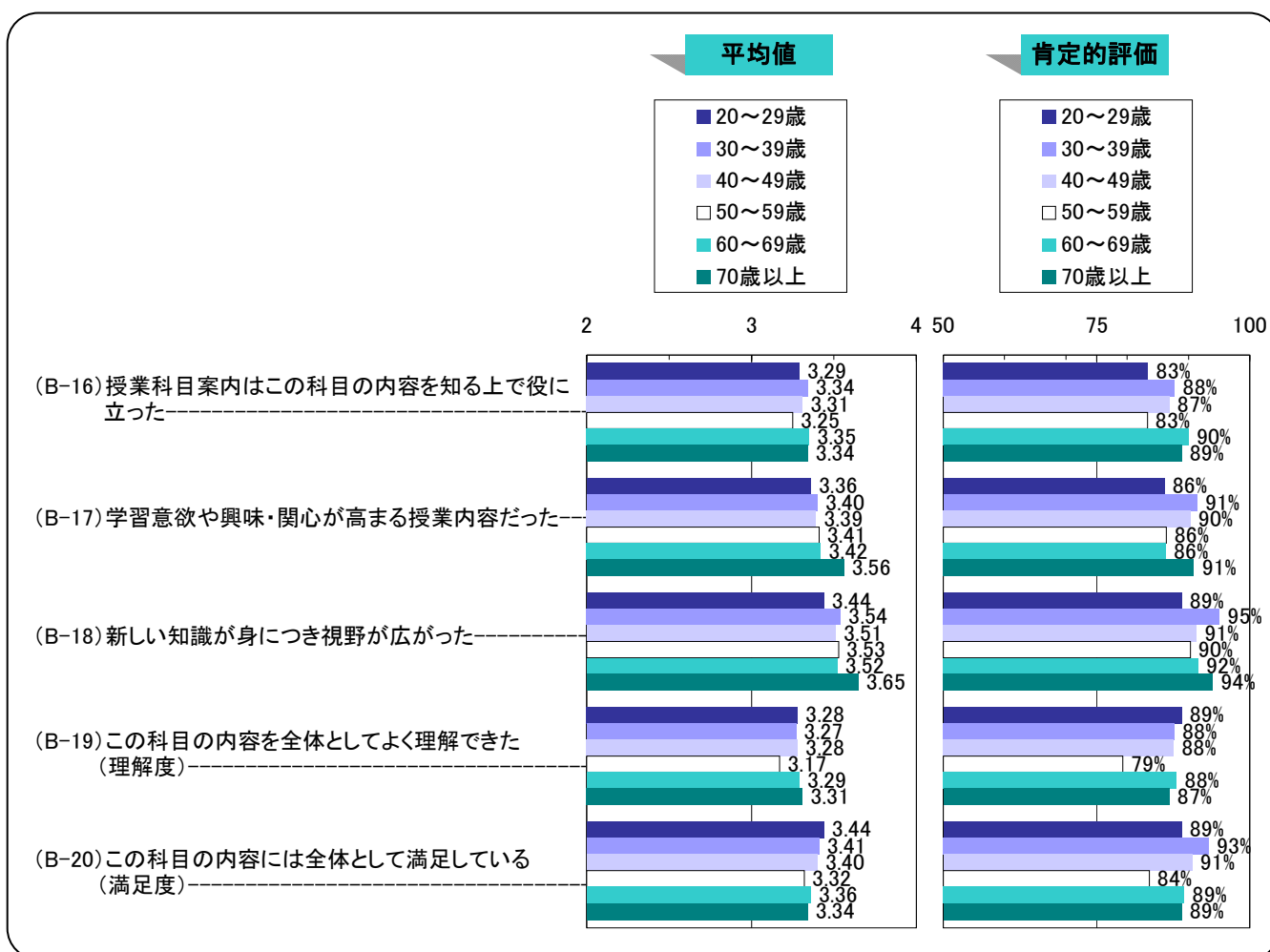
図 2 - 6 5 【大学院】メディア別の全体評価（時系列）



年齢階層別に全体評価を見ると（図2-66）、全体的には年齢階層間の差は比較的小さいと言える。

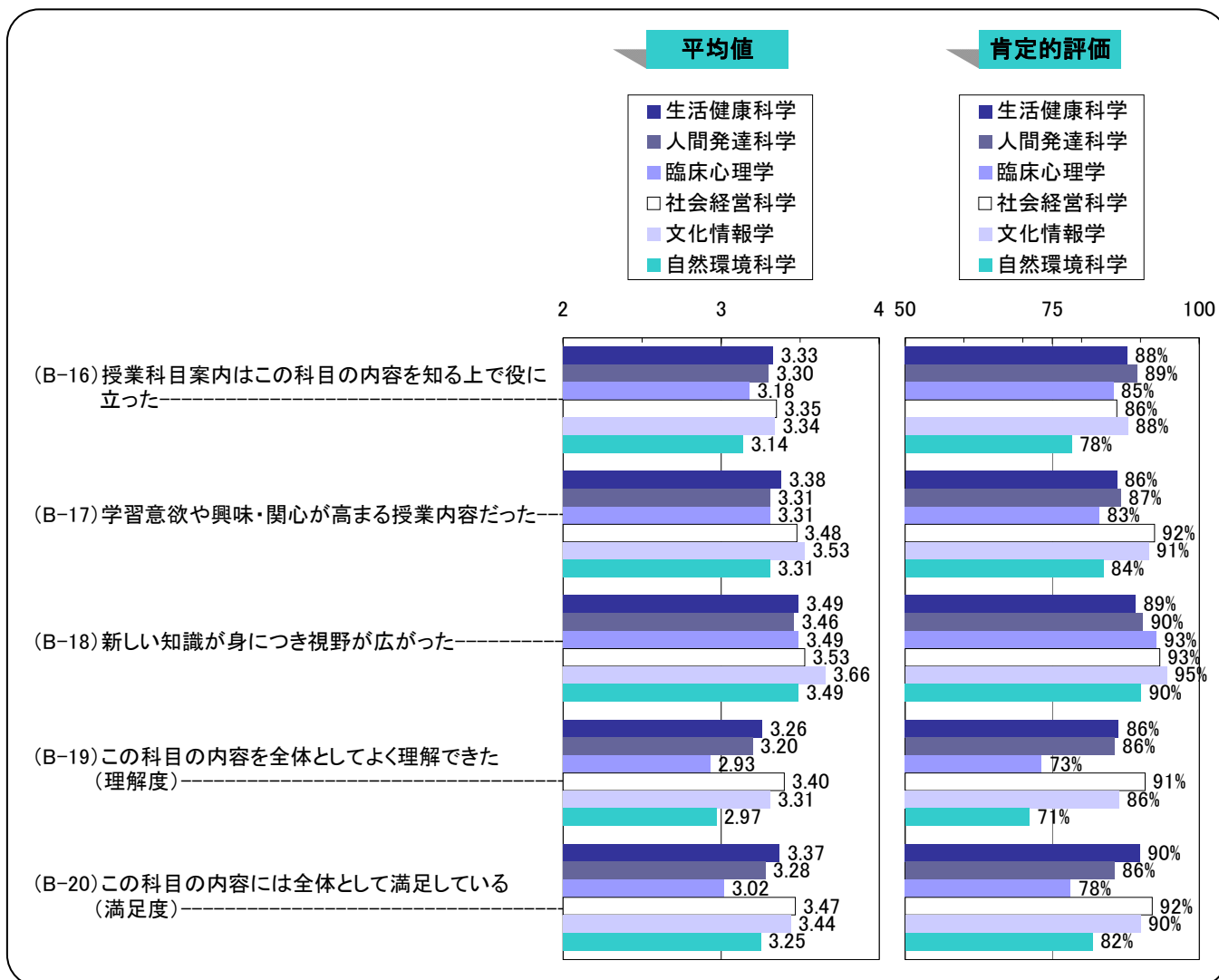
（B-17）「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」と（B-18）「新しい知識が身につく視野が広がった」では、30歳代と70歳以上の評価がやや高い。また（B-19）「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」と（B-20）「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」では50歳代が他の年齢階層よりやや評価が低いのが特徴である。

図2-66 【大学院】年齢階層別の全体評価



所属プログラム別に全体評価を見ると（図2-67）、(B-18)「新しい知識が身につく視野が広がった」は、どのプログラムでも評価が非常に高く、(B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」は、「社会経営科学」と「文化情報学」で非常に評価が高くなっている。(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」と(B-20)「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」は、「生活健康科学」「人間発達科学」「社会経営科学」「文化情報学」の評価が高く、「臨床心理学」と「自然環境科学」の評価が他のプログラムより低くなっている。

図2-67【大学院】所属プログラム別の全体評価

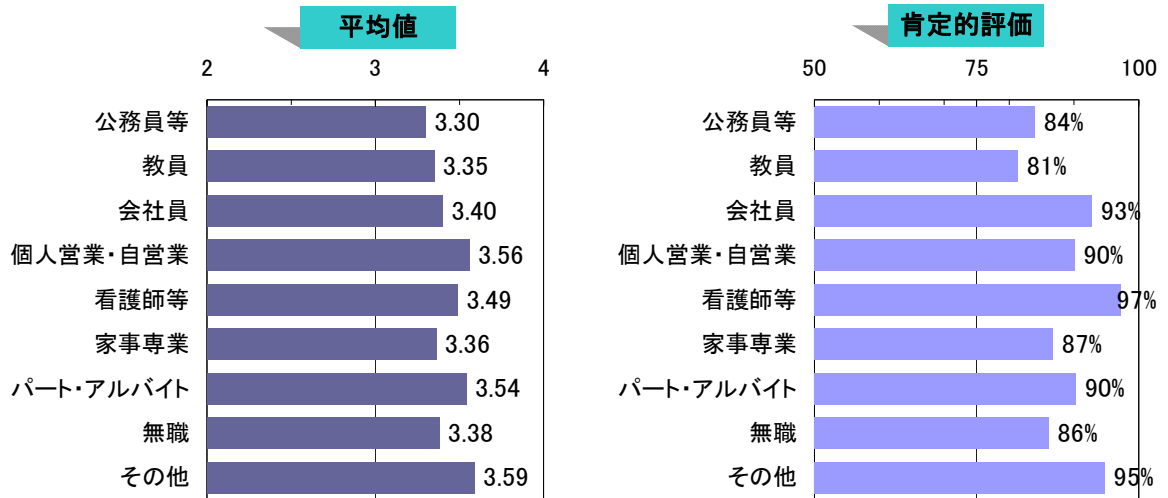


職業別に全体評価を見ると（次頁図2-68）、(B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」は、会社員、個人営業・自営業、看護師等、パート・アルバイトなどの評価が非常に高い。また(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」、(B-20)「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」とも評価が高いのは、会社員、看護師等、パート・アルバイトなどである。通常、評価の低い看護師等がここでは非常に評価が高くなっているが、これは印刷教材の評価が高いこと（後述）

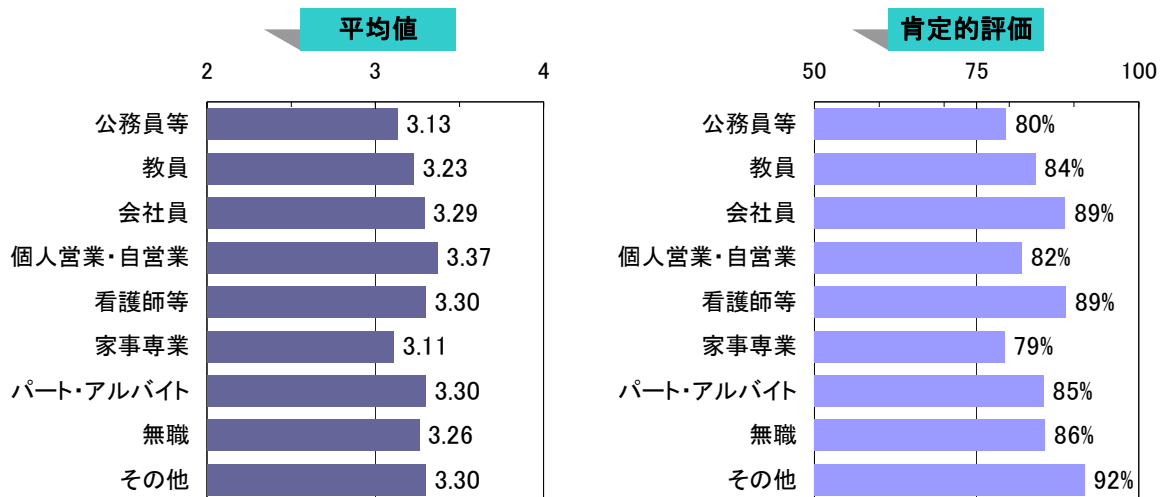
が影響しているものと思われる。

図 2 - 6 8 【大学院】職業別の全体評価

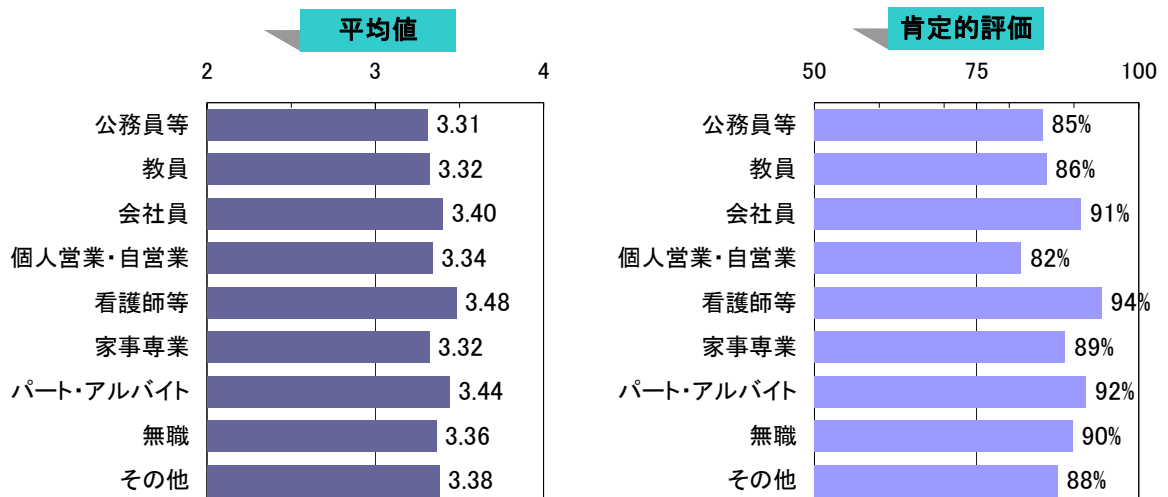
(B-17) 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった



(B-19) この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)



(B-20) この科目の内容には全体として満足している(満足度)



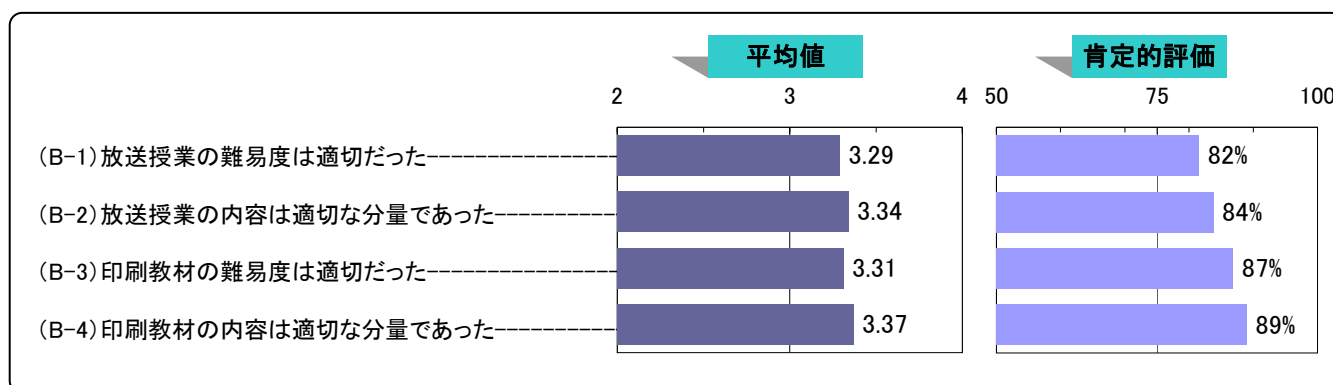


## (2) 授業の難易度・分量

次に授業の難易度・分量について、評価項目ごとに見ていく。

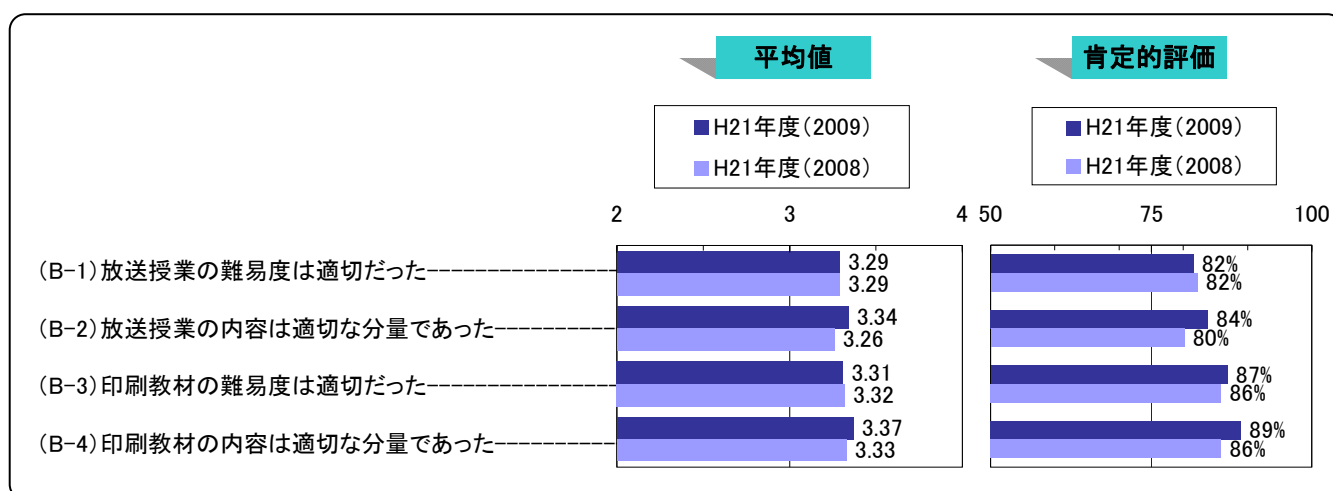
授業の難易度・分量の評価は(図2-69)、いずれも高い評価となっている。ただし、印刷教材に比べ、放送授業は肯定的評価において難易度・分量ともやや低く、改善が求められる。

図2-69 【大学院】回答者全体の授業難易度・分量の評価



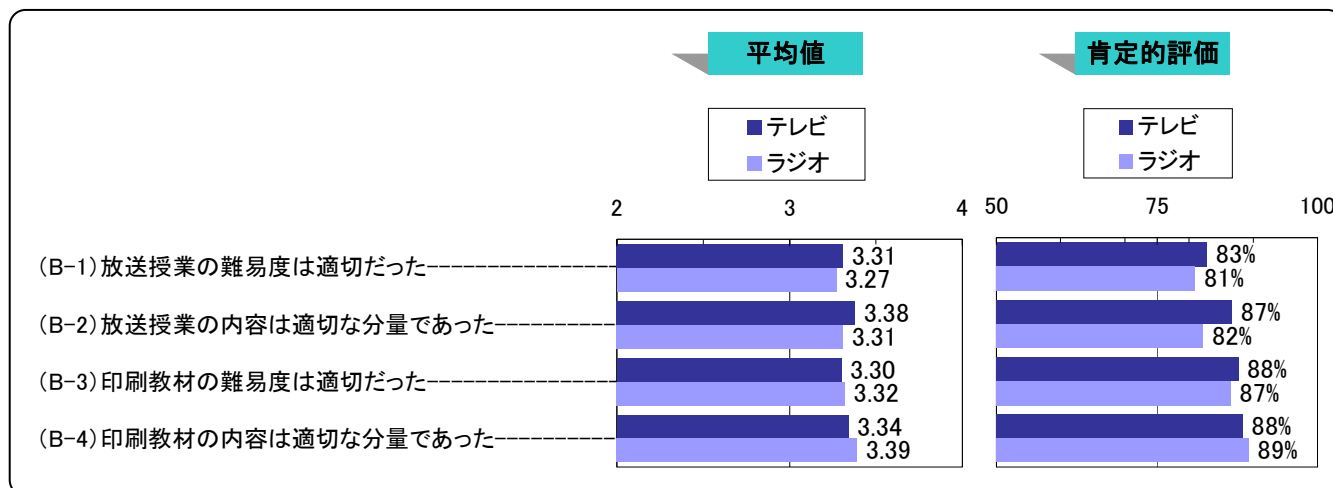
授業の難易度・分量の評価を開設年度で比較すると(図2-70)、放送授業、印刷教材とも分量に関しては評価がやや向上しているが、難易度はほぼ横ばいである。

図2-70 【大学院】回答者全体の授業難易度・分量の評価(開設年度比較)



メディア別に授業の難易度・分量を見ると（図2-71）、(B-2)「放送授業の内容は適切な分量であった」では、テレビ科目の方がやや評価が高くなっている。それ以外の難易度・分量においてはあまり大きな差は見られない。

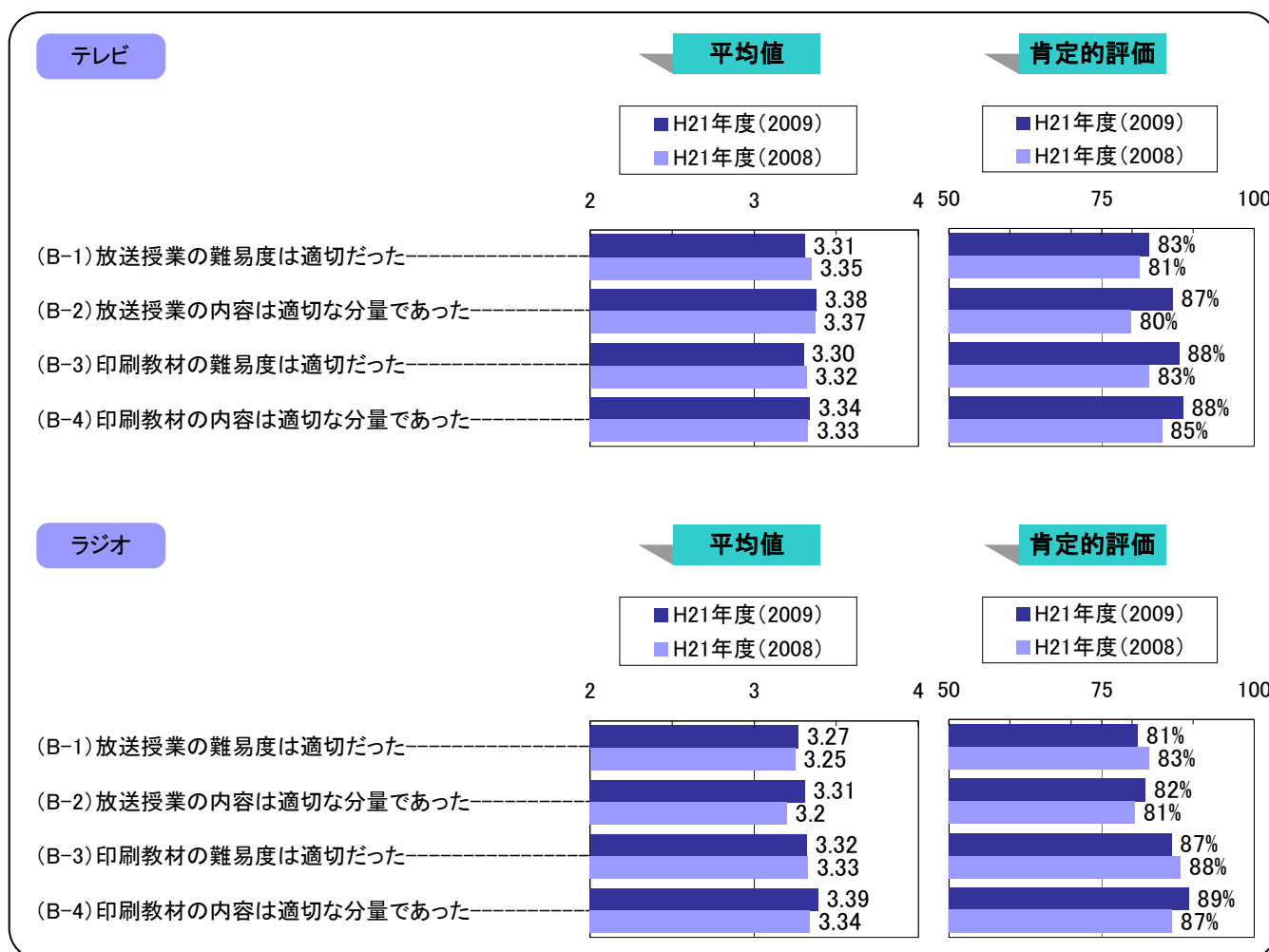
図2-71 【大学院】メディア別の授業難易度・分量の評価



メディア別の授業の難易度・分量を開設年度で比較すると（図2-72）、テレビ科目は平均値ではほとんど変化はないが、肯定的評価ではいずれも評価が向上している。

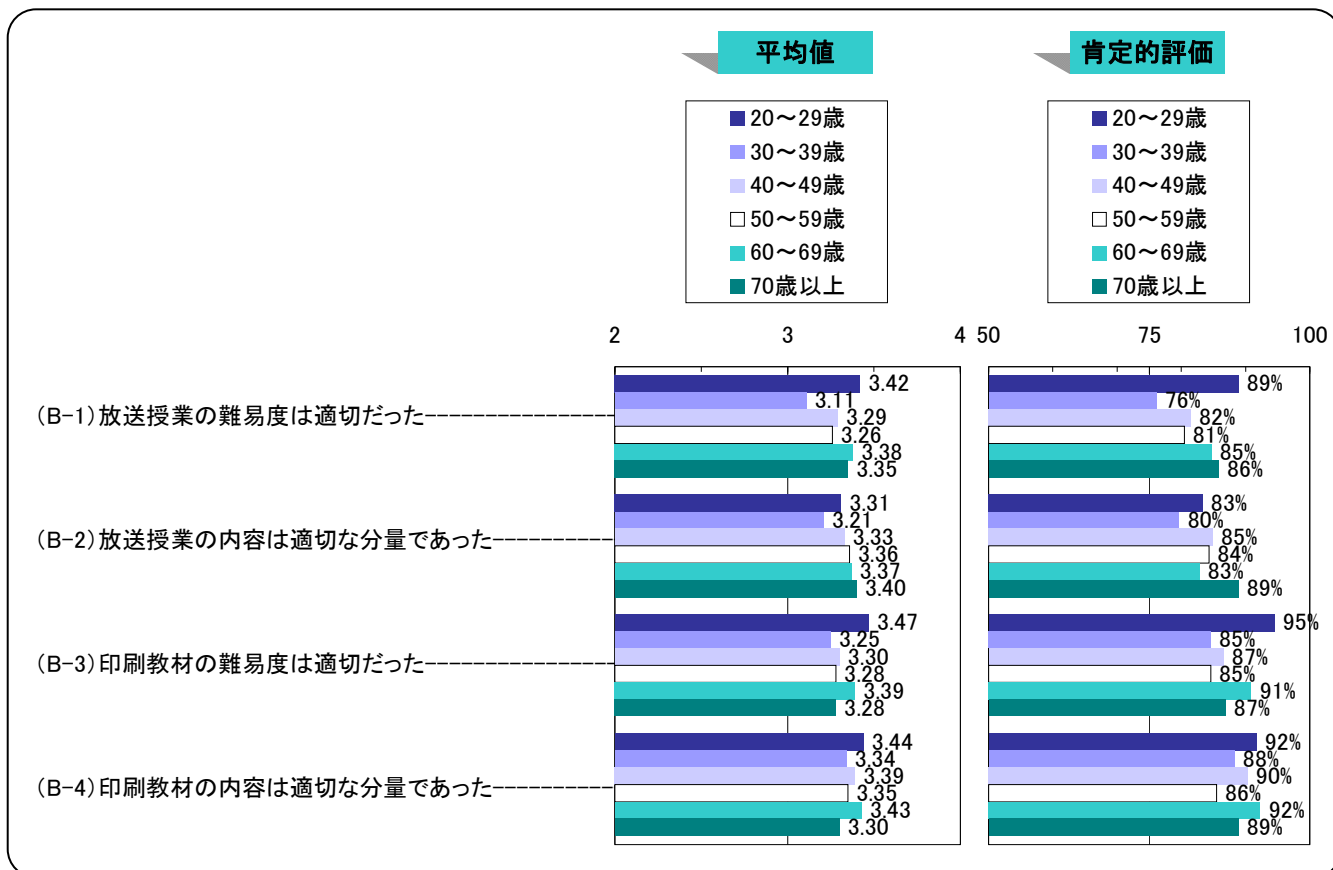
ラジオ科目は、放送授業、印刷教材とも分量は評価が若干上がっているが、難易度はほぼ横ばいである。

図2-72 【大学院】メディア別の授業難易度・分量の評価（開設年度比較）



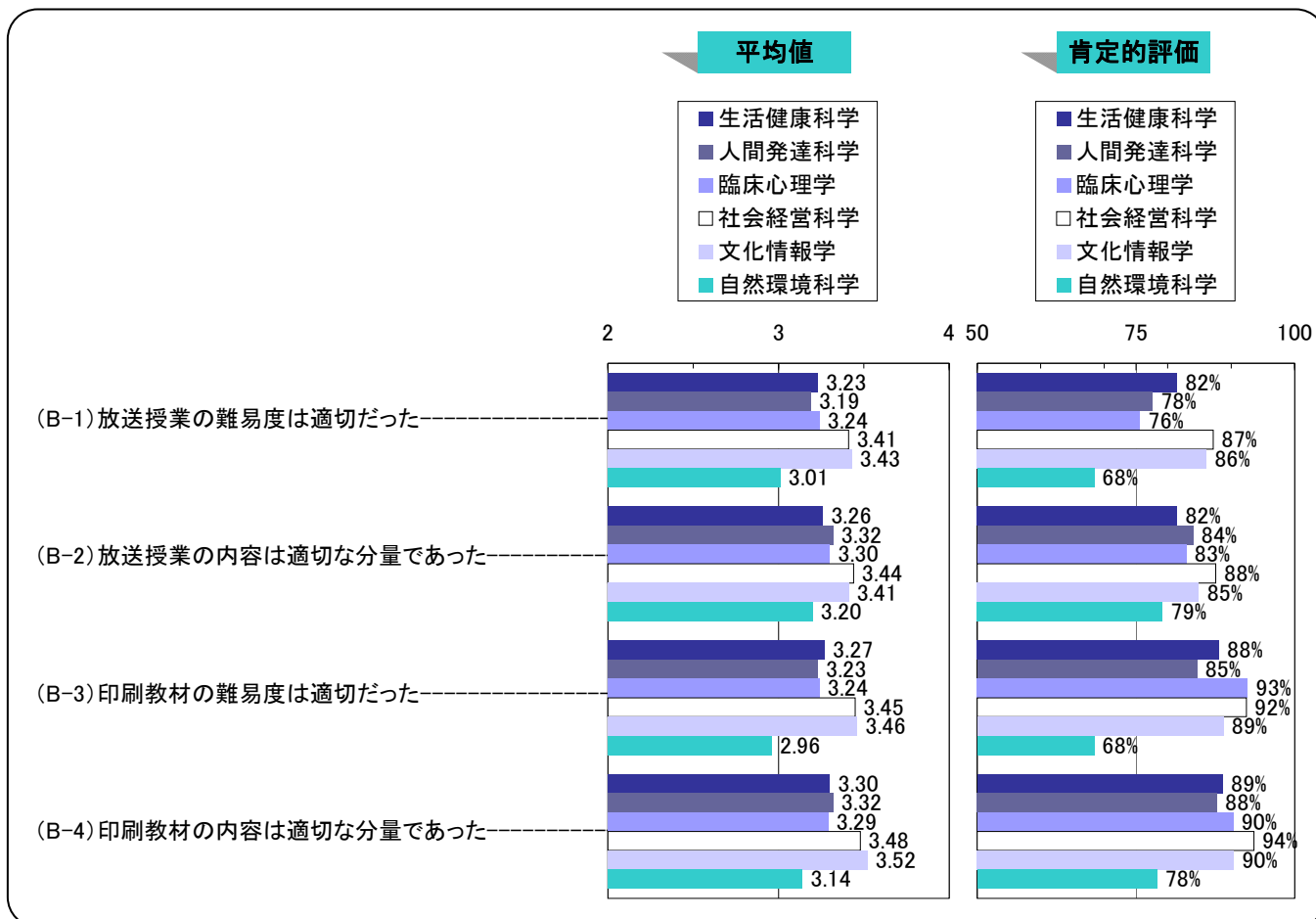
年齢階層別に授業の難易度・分量を見ると（図2-73）、放送授業の難易度と分量は20歳代と年配層の評価が高くなっている。また印刷教材の難易度と分量は、20歳代と60歳代の評価が非常に高い。

図2-73 【大学院】年齢階層別の授業難易度・分量の評価



所属プログラム別に授業の難易度・分量を見ると（図2-74）、いずれも、「社会経営科学」と「文化情報学」の評価が高く、「自然環境科学」の評価が低くなっている。「自然環境科学」は特に難易度の評価が低く、説明方法などの工夫が必要であろう。

図2-74 【大学院】所属プログラム別の授業難易度・分量の評価

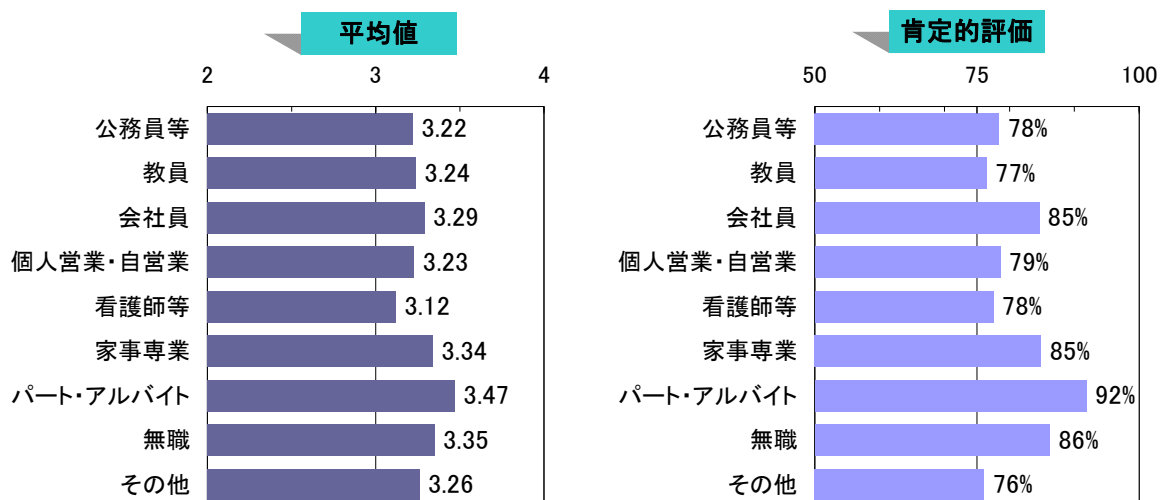


職業別に授業の難易度・分量を見ると（次頁図2-75）、放送授業の難易度は、パート・アルバイト、会社員、家事専業、無職など放送授業の視聴度の高い層で評価が高くなっている。

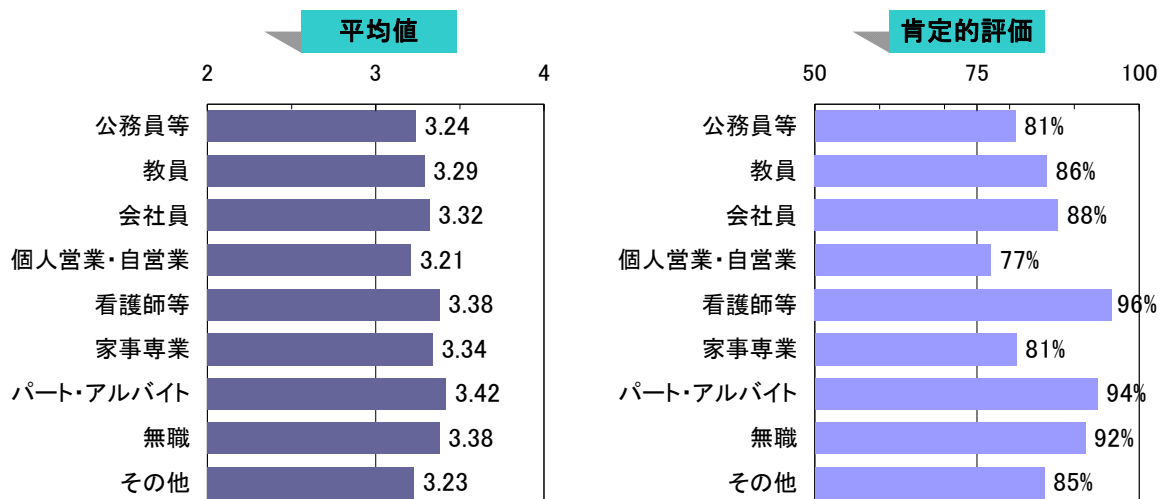
印刷教材の難易度は、看護師等、パート・アルバイト、無職の評価が非常に高くなっている。

図 2 - 7 5 【大学院】職業別の授業難易度・分量の評価

(B-1)放送授業の難易度は適切だった



(B-3)印刷教材の難易度は適切だった

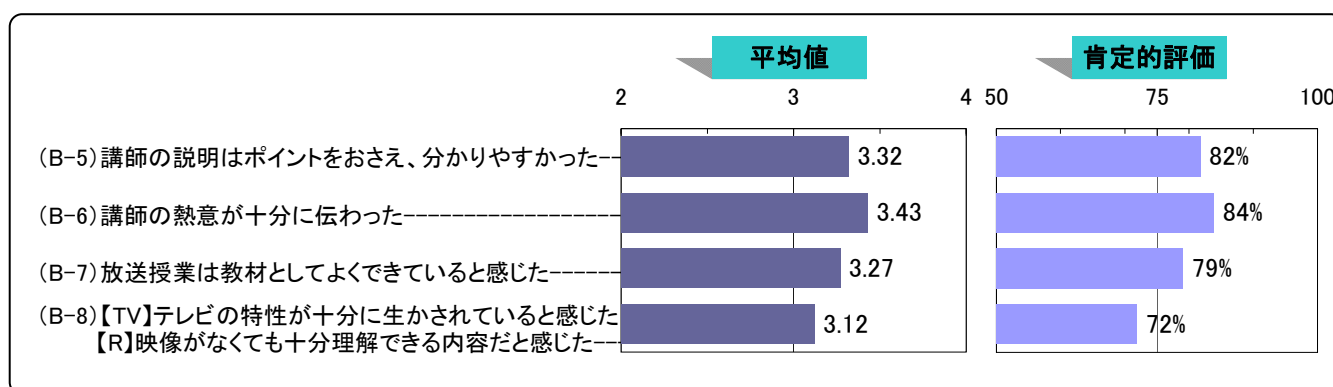


### (3) 放送授業

ここからは放送授業について、評価項目ごとに見ていく。

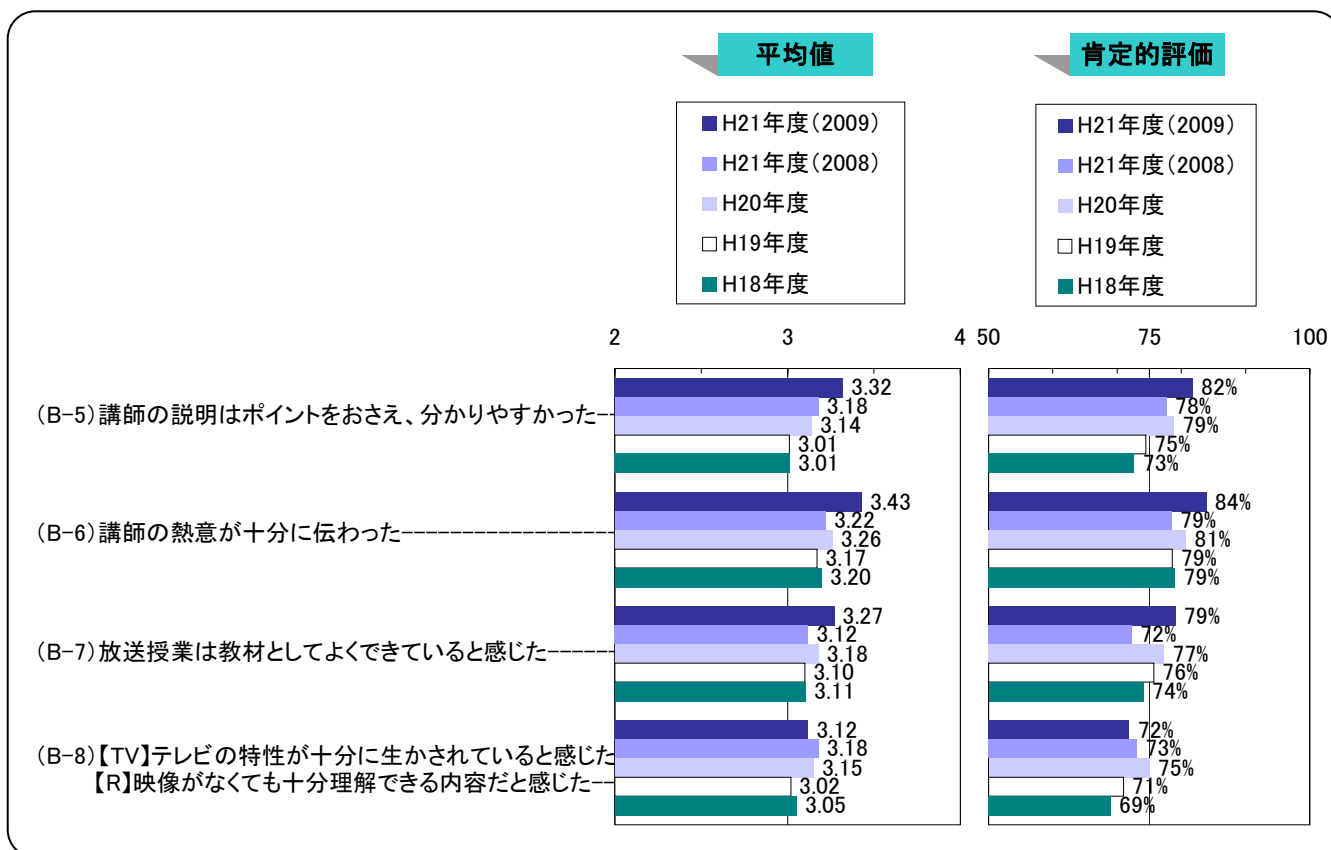
放送授業に関する評価項目を見ると(図2-76)、放送授業の総合評価でもある(B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」は、平均値 3.27、肯定的評価 79%と比較的高くなっている。また(B-6)「講師の熱意が十分に伝わった」が最も評価が高く、平均値 3.43、肯定的評価 84%となっており、(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」も平均値 3.32、肯定的評価 82%と高くなっている。一方、(B-8)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」は、平均値 3.12、肯定的評価 72%にとどまっている。

図2-76 【大学院】回答者全体の放送授業の評価



放送授業の評価を時系列で見ると（図2-77）、(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」と(B-6)「講師の熱意が十分に伝わった」は、本調査（2009年新規開設科目）において、評価が上がり、それに伴い、(B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」も評価が上がっている。しかし、(B-8)「【TV】テレビの特性が十分に活かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」は、評価があまり向上しておらず、さらなる工夫が必要である。

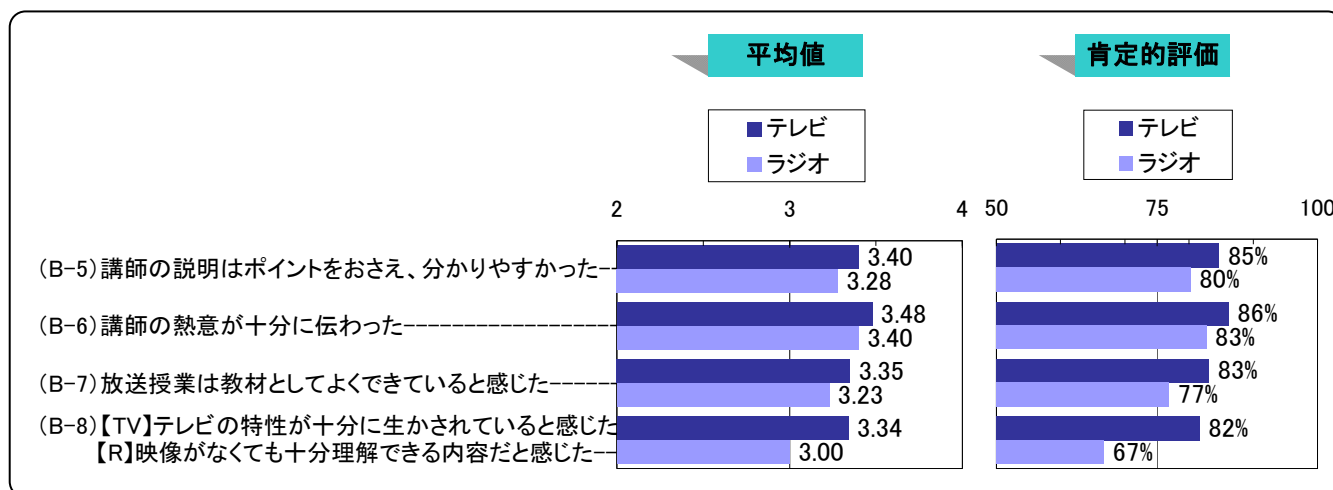
図2-77 【大学院】回答者全体の放送授業の評価（時系列）





メディア別に放送授業の評価を見ると（図2-78）、テレビ科目はいずれの項目も高い評価を得ているものの、ラジオ科目はテレビ科目に比べ評価が低くなっている。特に（B-8）「【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」の評価が低く、ラジオ科目の最大の改善ポイントと言える。

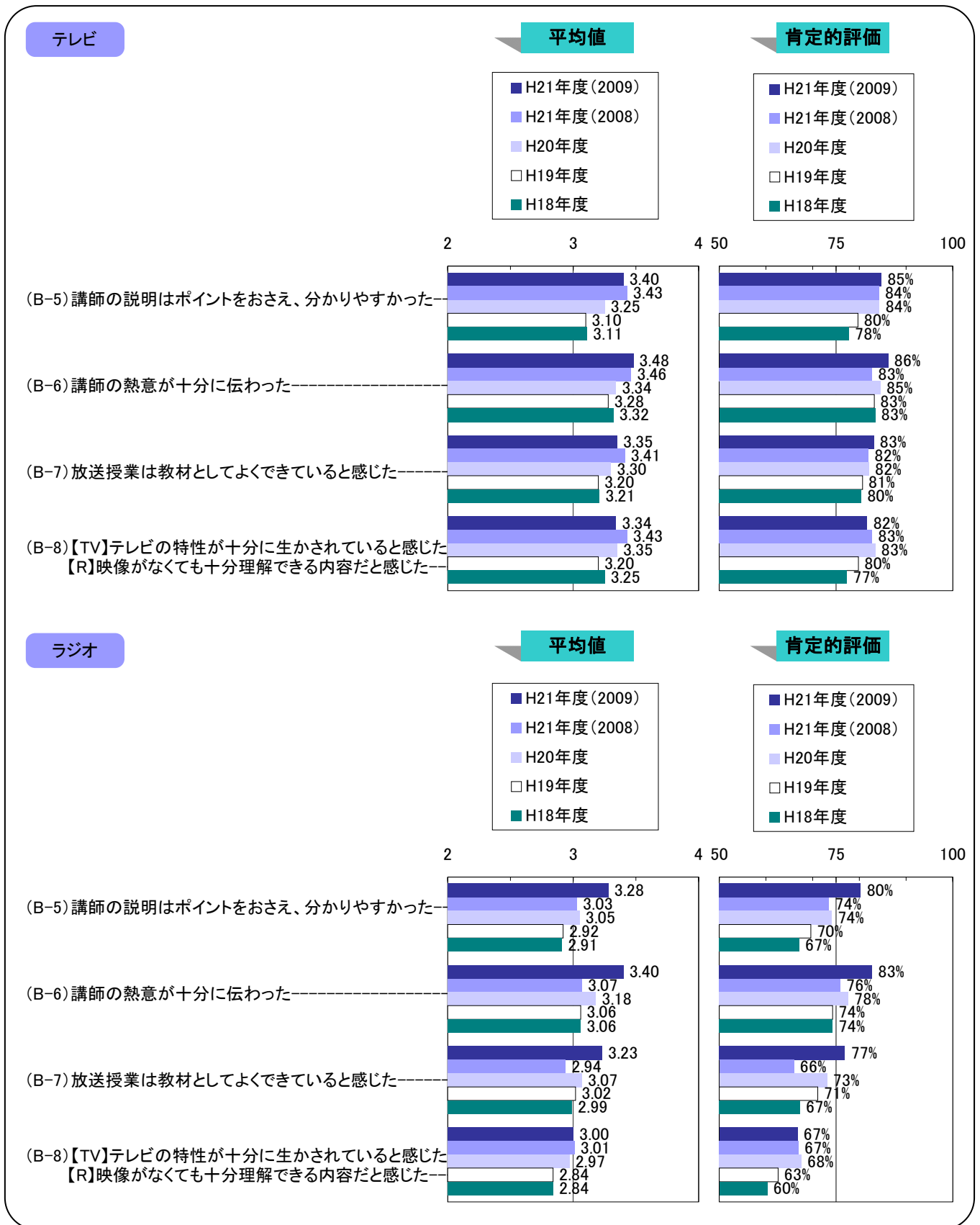
図2-78 【大学院】メディア別の放送授業の評価



メディア別の放送授業の評価を時系列で見ると（次頁図2-79）、テレビ科目は、平均値では僅かずつではあるが評価が上昇傾向にあるが、肯定的評価では平成20年度調査（2007年新規開設科目）以降、やや伸び悩んでいる。

ラジオ科目は、（B-5）「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、（B-6）「講師の熱意が十分に伝わった」、（B-7）「放送授業は教材としてよくできていると感じた」は、本調査（2009年度新規開設科目）で大きく評価が上昇している。しかし（B-8）「【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」は、平成20年度調査（2007年新規開設科目）以降、評価が低いまま、ほぼ横ばい状態である。内容が高度であればあるほど音声だけの説明では限度があると言えるが、改善の努力を止めるべきではなからう。

図 2 - 7 9 【大学院】メディア別の放送授業の評価（時系列）

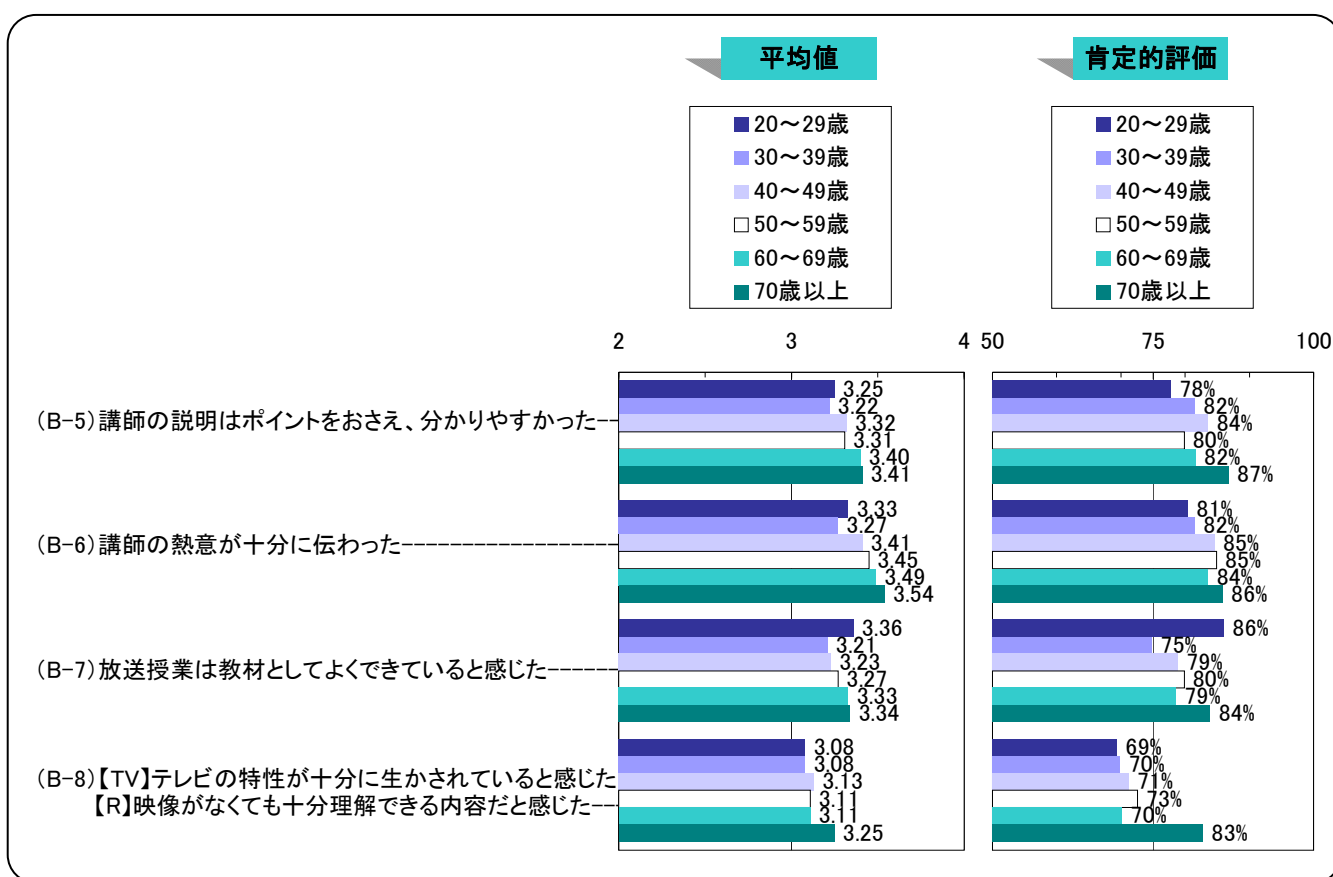


年齢階層別に放送授業の評価を見ると（図2-80）、(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」と(B-6)「講師の熱意が十分に伝わった」は、年配層ほど評価が高くなっている。

総合評価である(B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」は、20歳代および年配層で評価が高い。

(B-8)「【TV】テレビの特性が十分に活かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」は、70歳以上だけ評価が高くなっているが、それ以外の年齢階層はほとんど差が見られない。

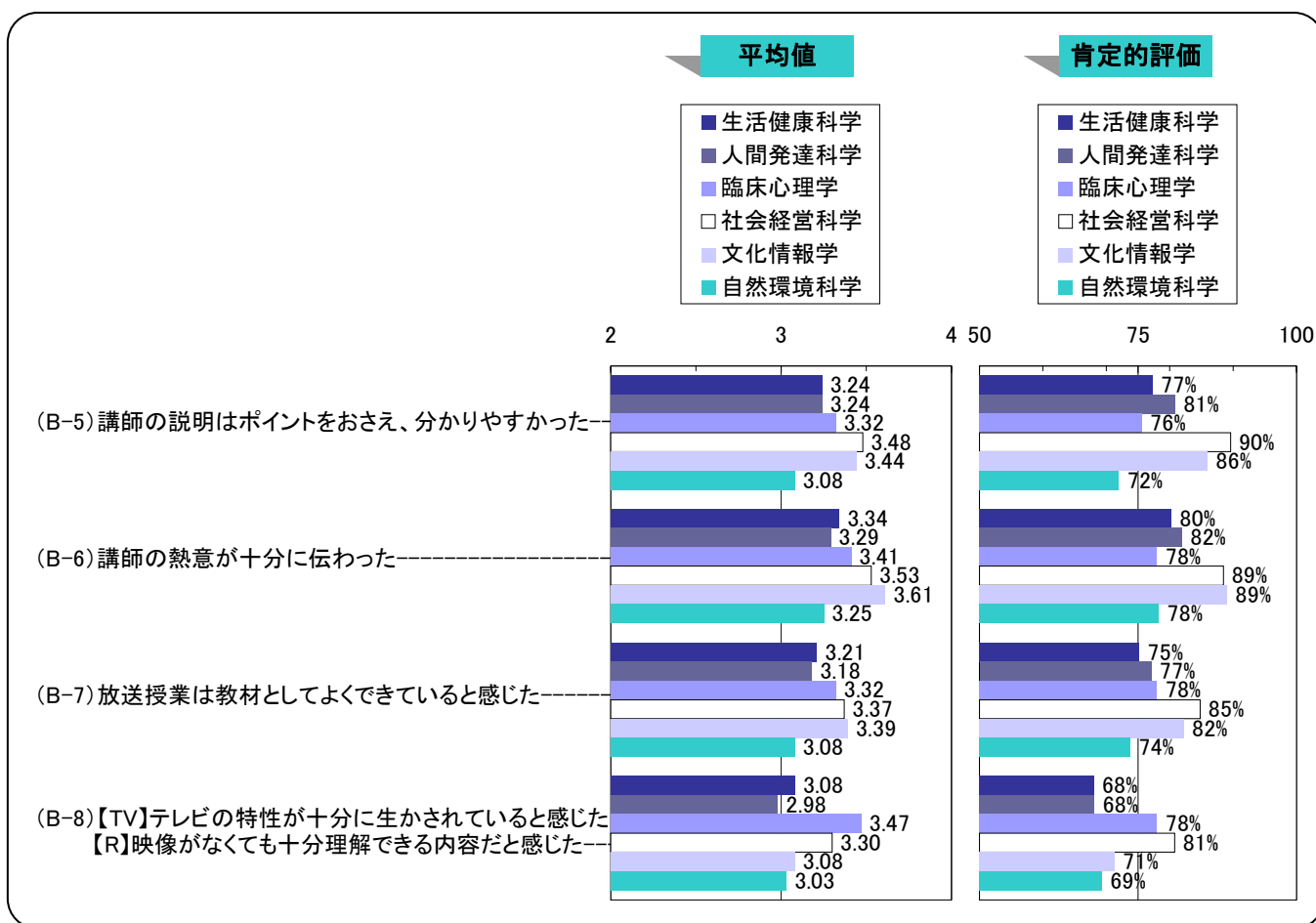
図2-80【大学院】年齢階層別の放送授業の評価



所属プログラム別に放送授業の評価を見ると（図2-81）、総合評価の（B-7）「放送授業は教材としてよくできていると感じた」は、「社会経営科学」と「文化情報学」の評価が高く、「自然環境科学」の評価が低い。（B-5）「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」と（B-6）「講師の熱意が十分に伝わった」も同様の結果となっている。

（B-8）「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」は、「臨床心理学」と「社会経営科学」の評価が高く、その他のプログラムはいずれも評価が低い。

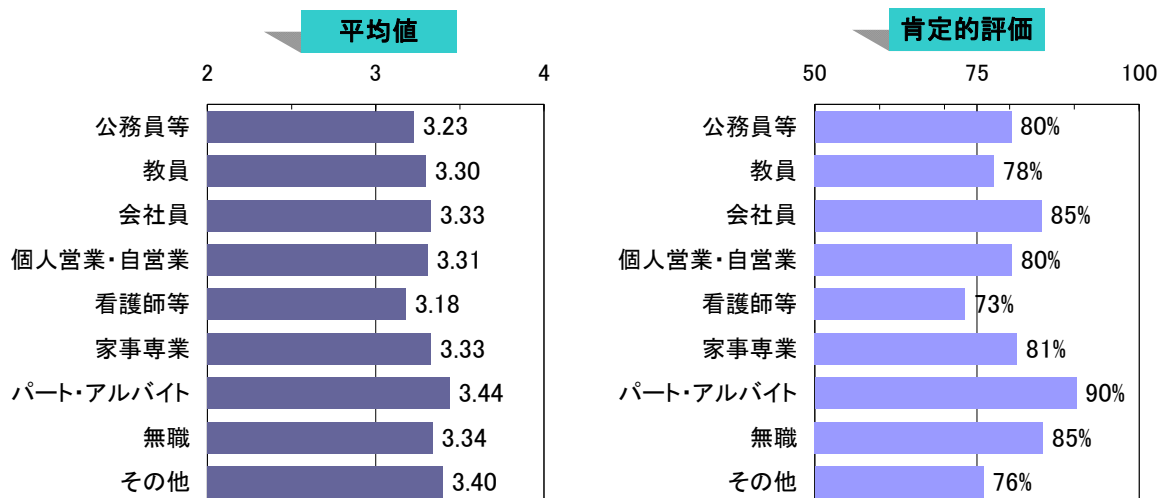
図2-81 【大学院】所属プログラム別の放送授業の評価



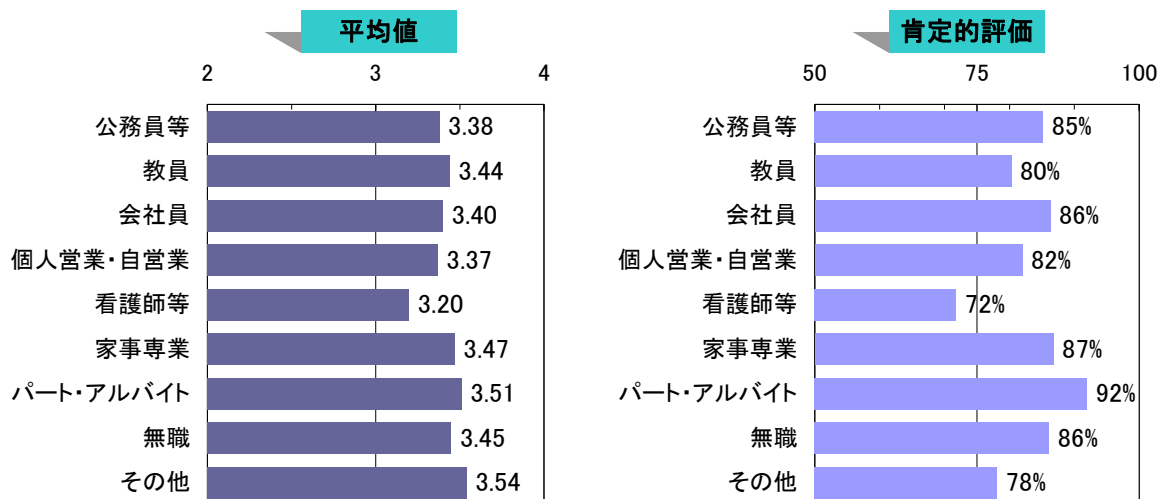
職業別に放送授業の評価を見ると（図2-82）、総合評価の（B-7）「放送授業は教材としてよくできていると感じた」は、平均値では差は少ないものの、肯定的評価では家事専業、無職、パート・アルバイト、公務員等、個人営業・自営業の評価がやや高い。なお、全体評価の高い看護師等だが、放送授業の各項目の評価は低くなっている。

図 2 - 8 2 【大学院】職業別の放送授業の評価

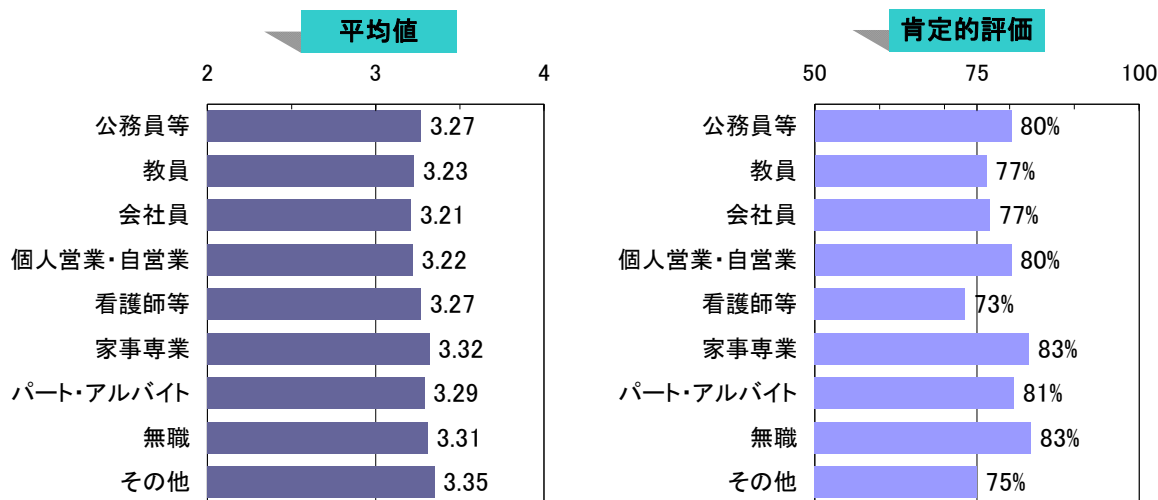
(B-5) 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった



(B-6) 講師の熱意が十分に伝わった



(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた



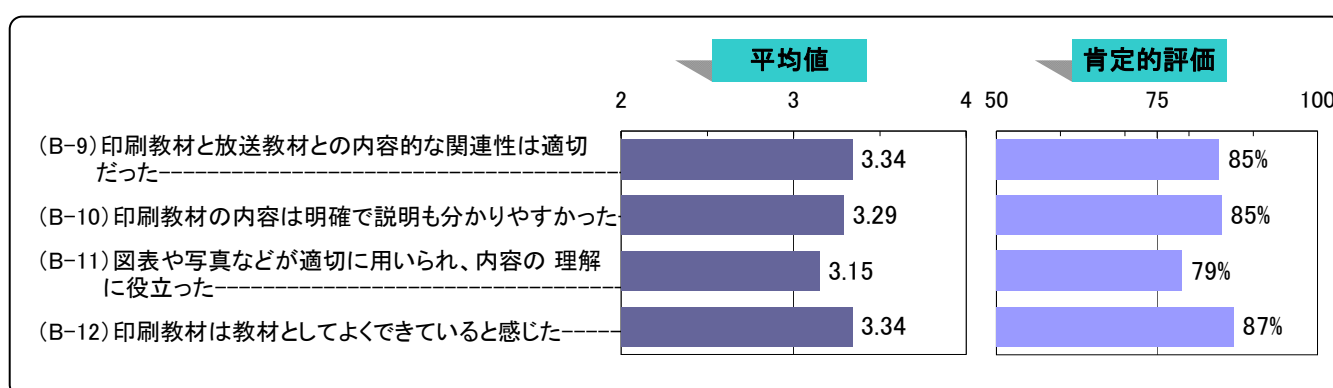
#### (4) 印刷教材

ここからは印刷教材について、評価項目ごとに見ていく。

印刷教材の評価項目では(図2-83)、いずれも高い評価を得ている。総合評価としての(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」は平均値 3.34、肯定的評価 87%と高くなっている。

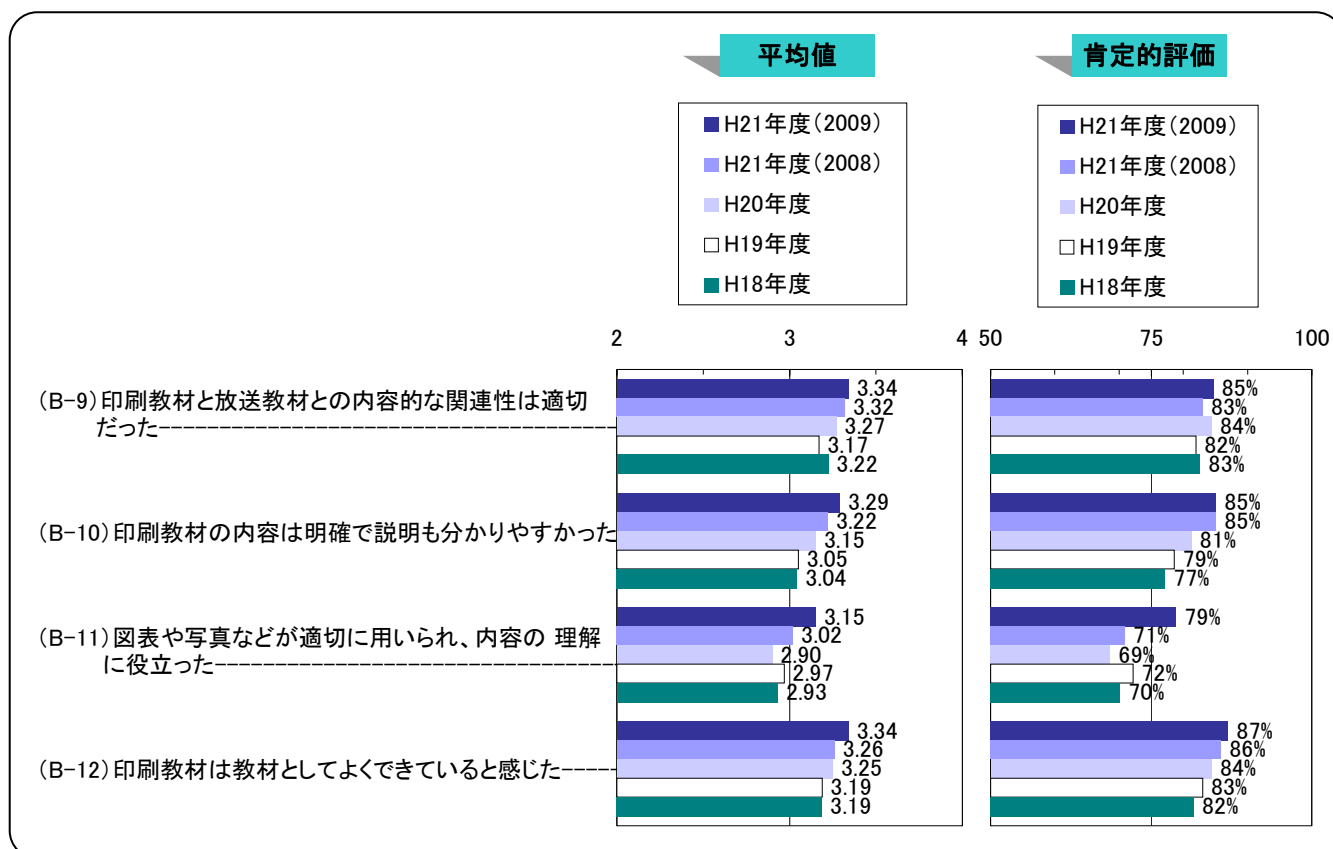
評価項目の中では、(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」の評価が他の項目より低く、さらに図表・写真の有効活用が必要であろう。

図2-83 【大学院】回答者全体の印刷教材の評価



印刷教材の評価を時系列で見ると（図2-84）、いずれの項目も評価が上昇傾向にある。（B-11）「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」も本調査（2009年新規開設科目）では、比較的评价が高くなってきている。

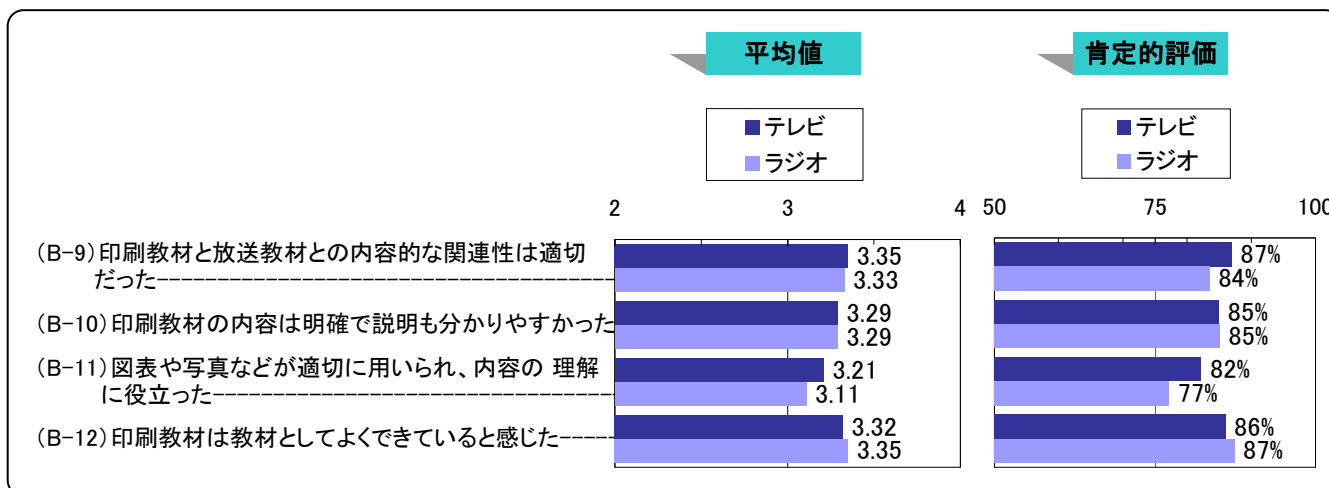
図2-84 【大学院】回答者全体の印刷教材の評価（時系列）



印刷教材の評価をメディア別に見ると（図2-85）、総合評価の（B-12）「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」では、テレビ科目とラジオ科目の評価差はあまりない。

（B-11）「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」はテレビ科目に比べ、ラジオ科目の評価が低くなっている。映像のないラジオの放送授業を補完するために、テレビ科目以上に図表や写真などを活用することが必要であろう。

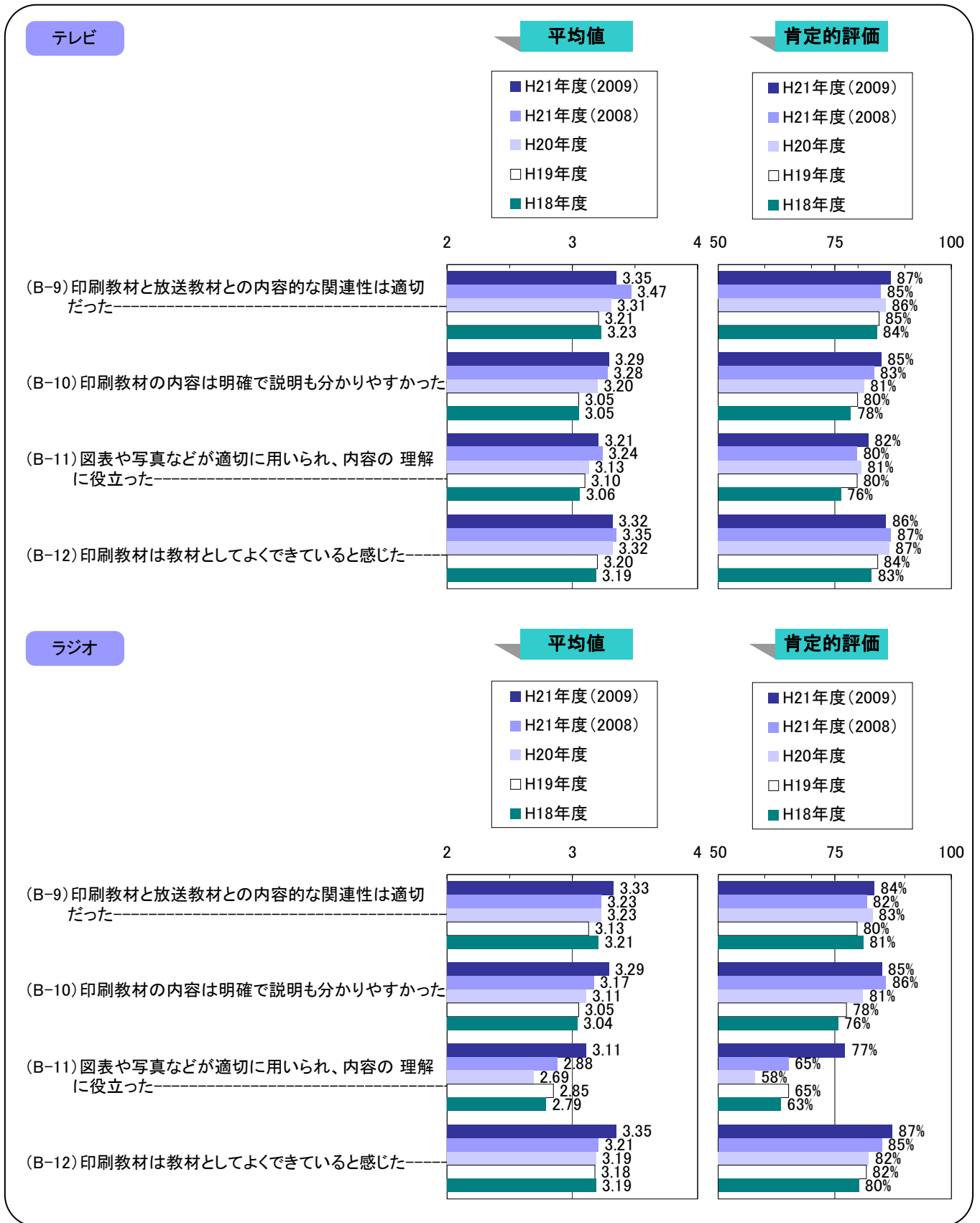
図2-85 【大学院】メディア別の印刷教材の評価



メディア別の印刷教材の評価を時系列で見ると（次頁図2-86）、テレビ科目、ラジオ科目とも、評価は年々上昇傾向にある。特に評価が低かったラジオ科目の（B-11）「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」は、今年度調査（2009年新規開設科目）において大きく評価が上がっている。



図 2 - 8 6 【大学院】メディア別の印刷教材の評価（時系列）

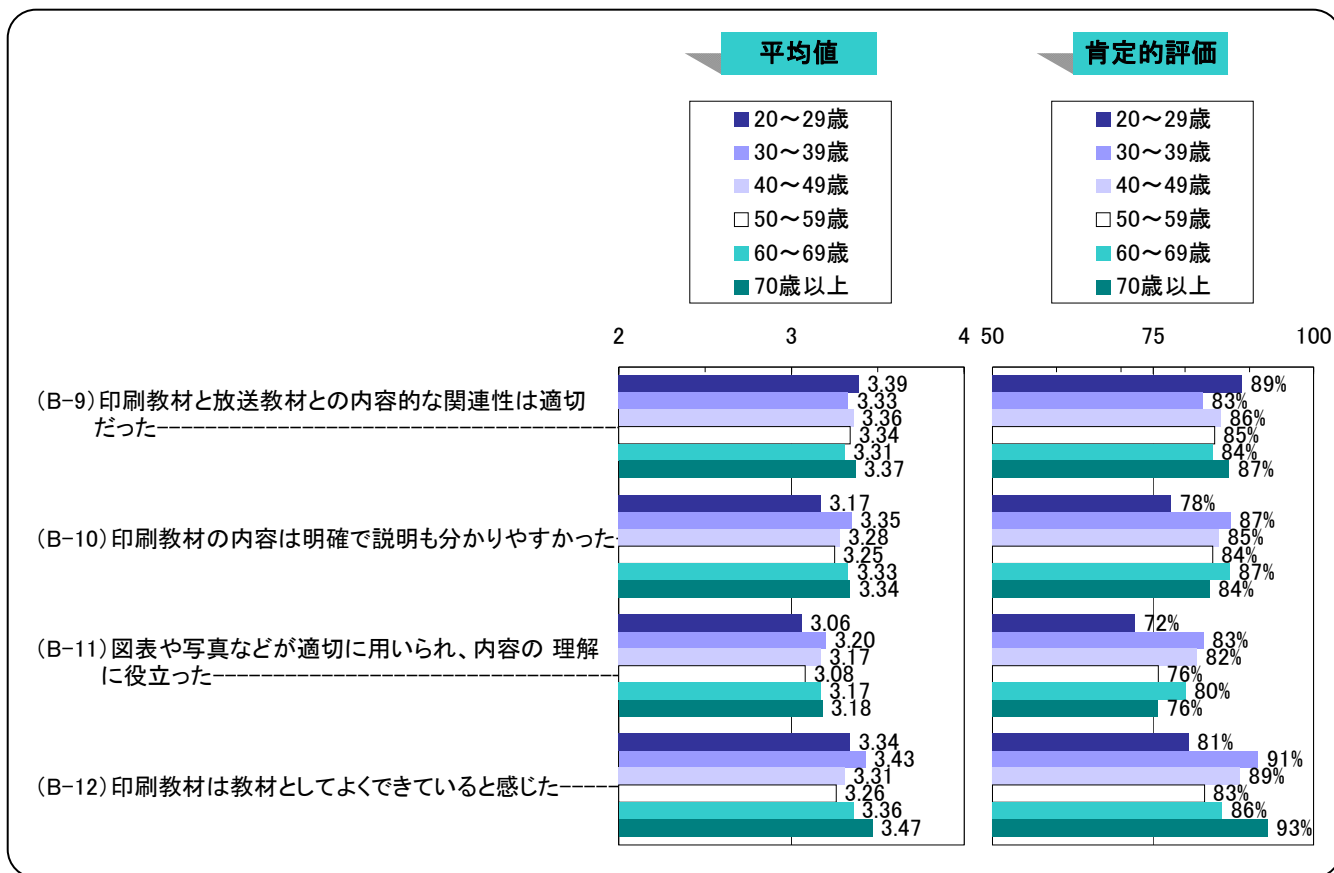


年齢階層別に印刷教材の評価を見ると（図2-87）、総合評価の（B-12）「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」は、30歳代と70歳以上の評価が非常に高くなっている。

（B-10）「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」と（B-11）「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」は、20歳代の評価が低いのが特徴である。

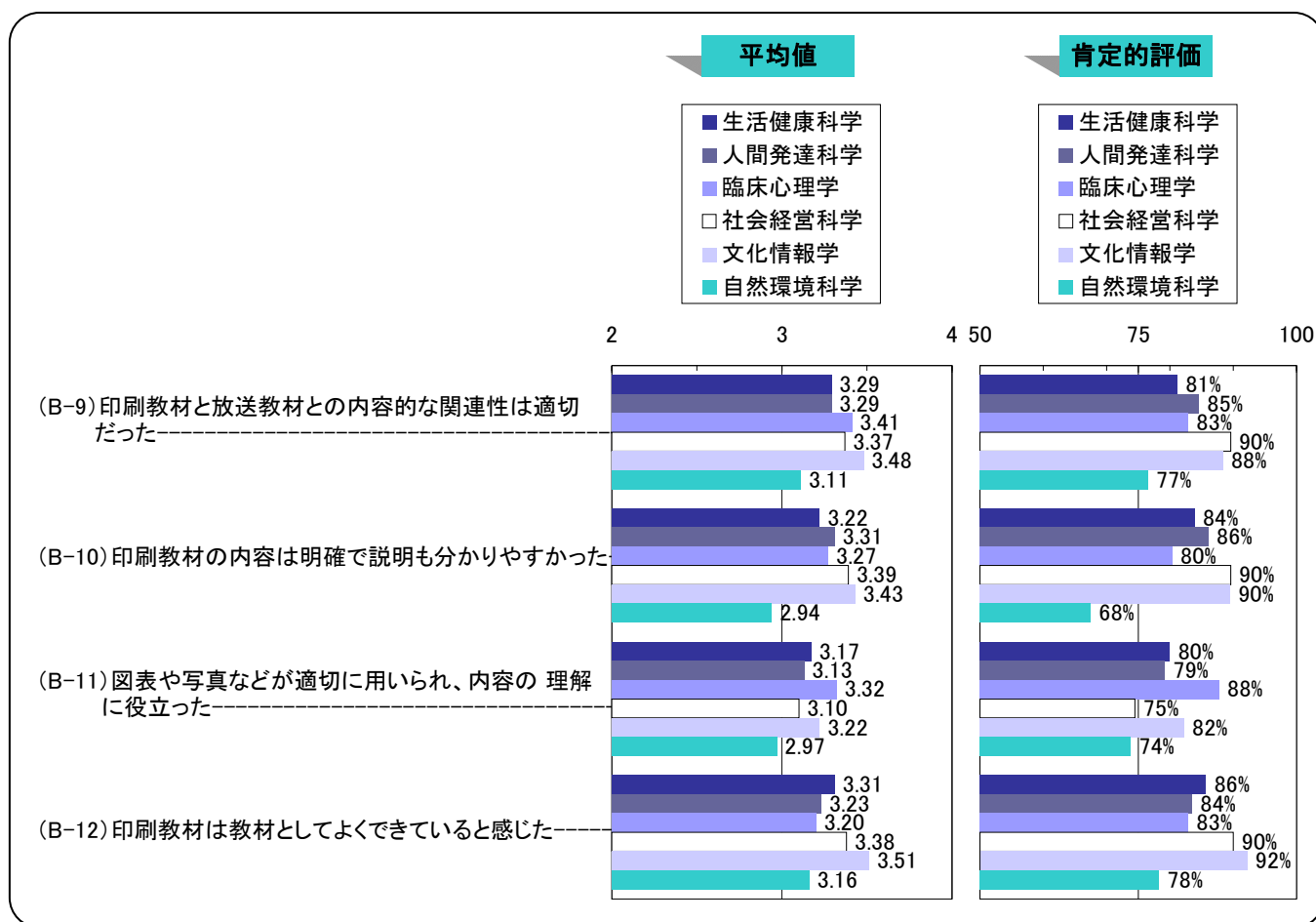
（B-9）「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」は、年齢階層間の評価差が比較的少ない。

図2-87【大学院】年齢階層別の印刷教材の評価



所属プログラム別に印刷教材の評価を見ると（図2-88）、総合評価の（B-12）「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」は、「社会経営科学」と「文化情報学」の評価が非常に高く、「自然環境科学」の評価が他のプログラムに比べ低くなっている。「社会経営科学」と「文化情報学」は、特に（B-9）「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」と（B-10）「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」の評価が高く、「自然環境科学」は、（B-10）「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」の評価が低いのが、その要因と考えられる。

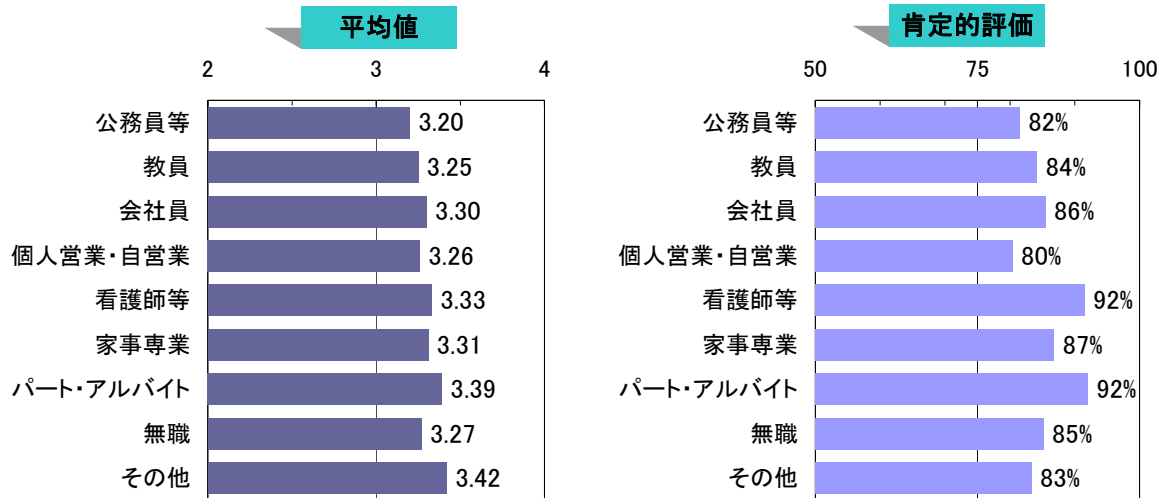
図2-88 【大学院】所属プログラム別の印刷教材の評価



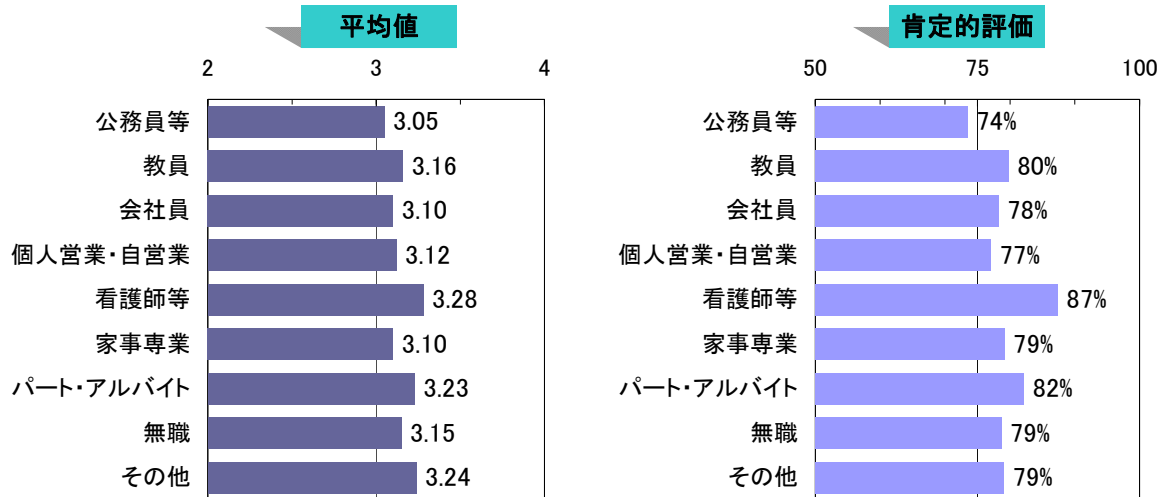
職業別に印刷教材の評価を見ると（次頁図2-89）、総合評価の（B-12）「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」は、看護師等、家事専業、パート・アルバイト、無職などの評価が非常に高くなっている。総合評価が特に高い看護師等とパート・アルバイトは、（B-10）「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」、及び（B-11）「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」の評価が高い。

図 2 - 8 9 【大学院】職業別の印刷教材の評価

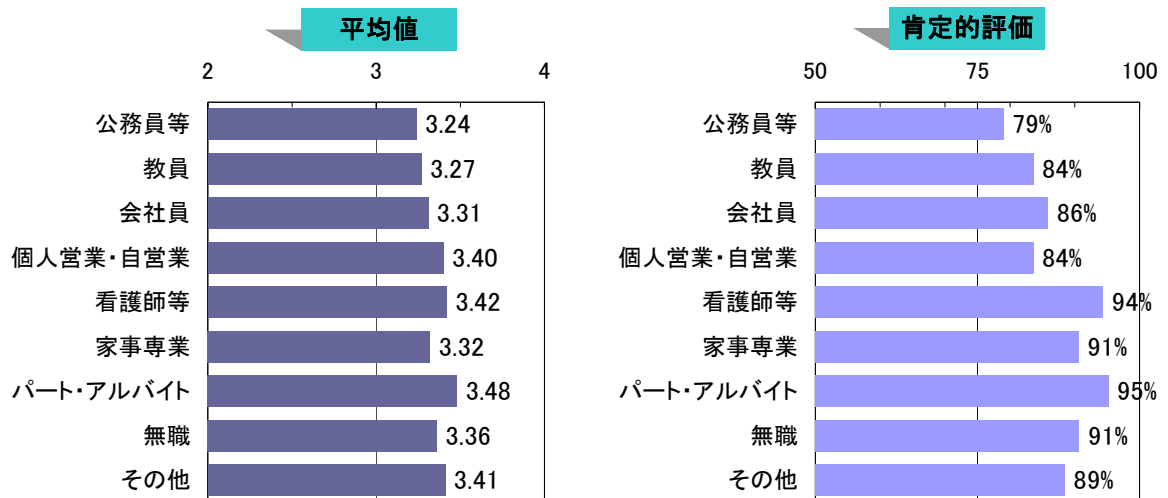
(B-10)印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった



(B-11)図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った



(B-12)印刷教材は教材としてよくできていると感じた



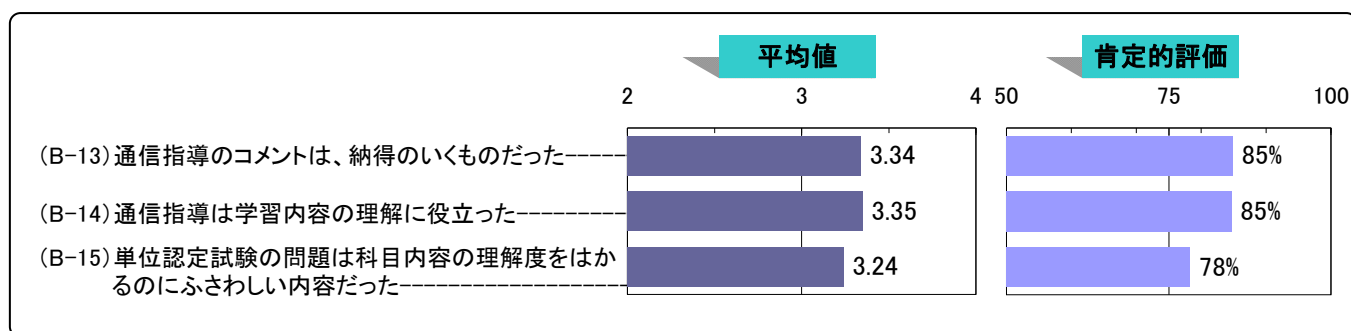
## (5) 通信指導・単位認定試験

最後に通信指導・単位認定試験の評価について、項目ごとに見ていく。

通信指導については(図2-90)、(B-13)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」が平均値 3.34、肯定的評価 85%、(B-14)「通信指導は学習内容の理解に役立った」が平均値 3.35、肯定的評価 85%と、いずれも高い評価を得ている。

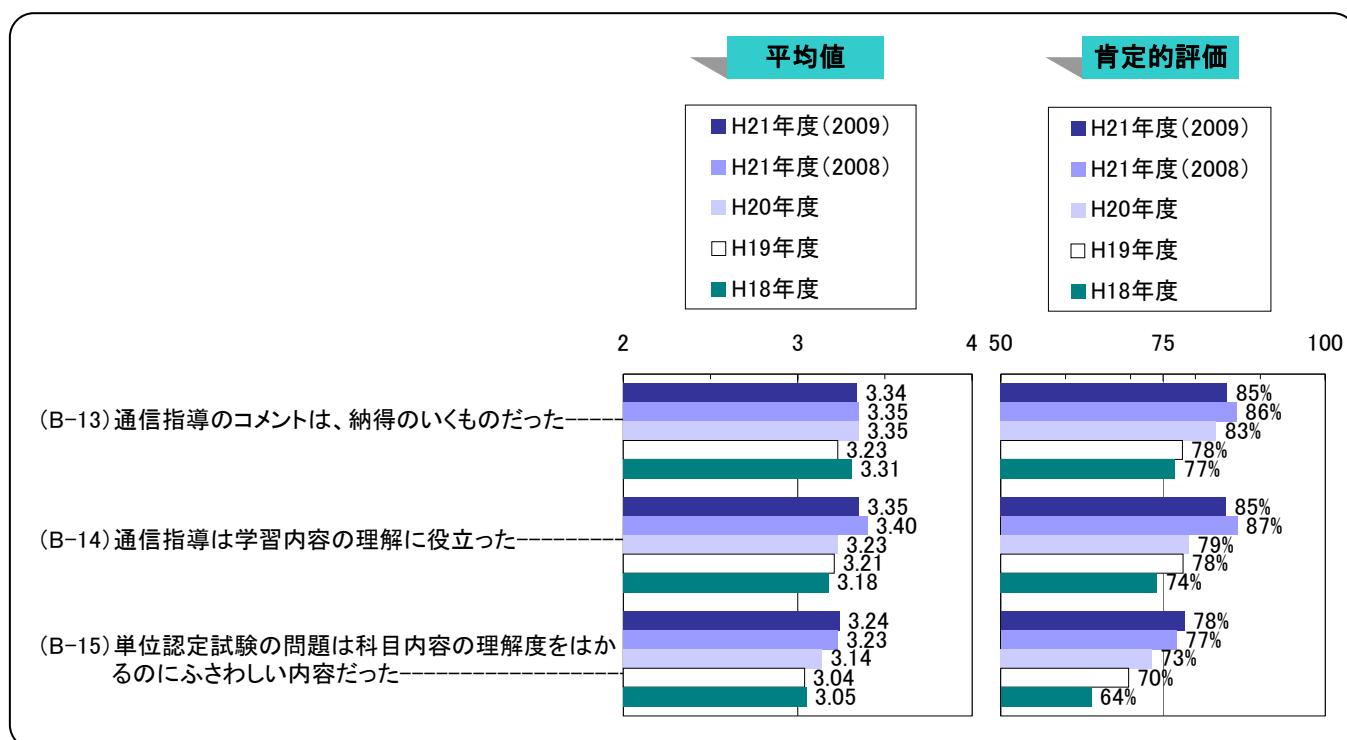
単位認定試験についても(B-15)「単位認定試験の問題は科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった」が平均値 3.24、肯定的評価 78%と比較的评价が高くなっている。

図2-90【大学院】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価



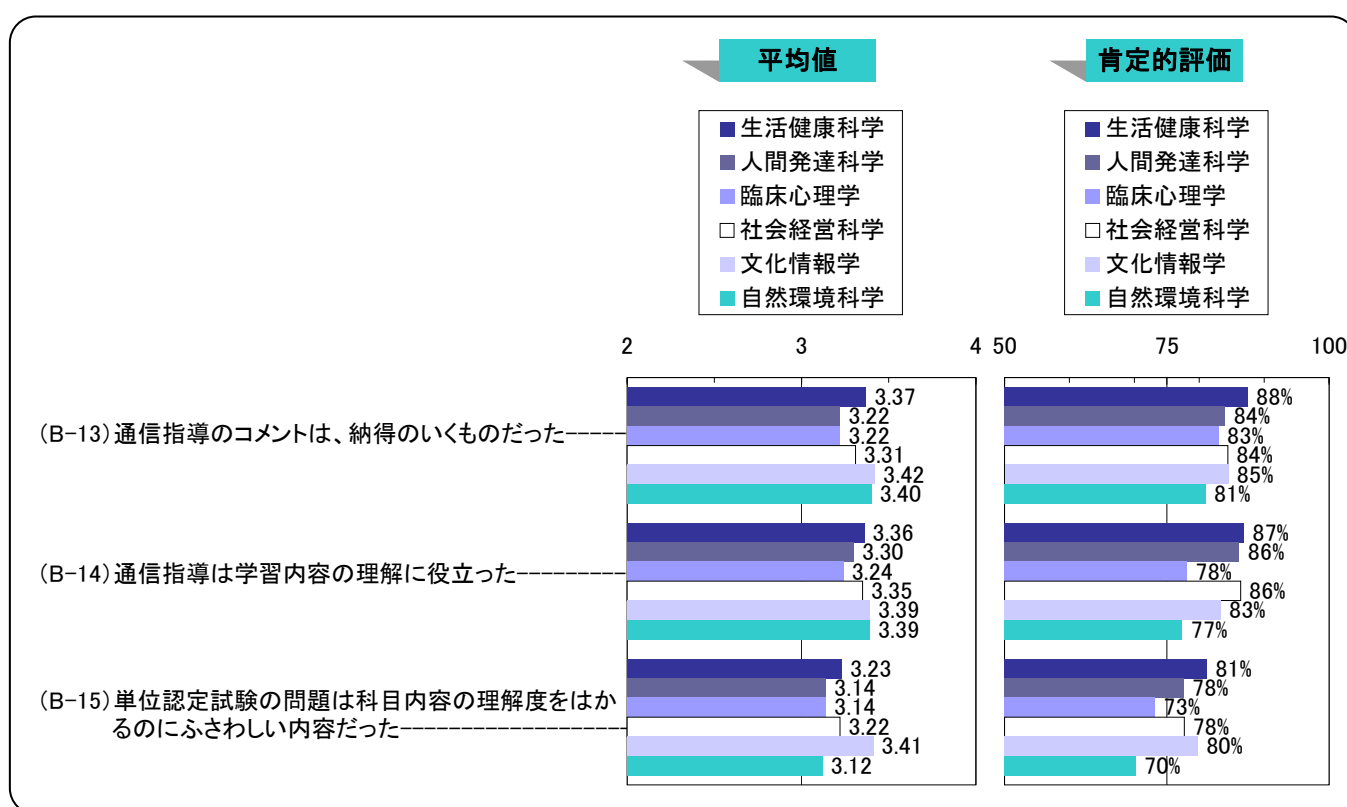
通信指導・単位認定試験の評価を時系列で見ると(次頁図2-91)、(B-13)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」は、平均値ではあまり大きな変化ないものの、肯定的評価では徐々に評価が上がっている。(B-14)「通信指導は学習内容の理解に役立った」と(B-15)「単位認定試験の問題は科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった」は、年々評価が向上しており、改善の効果が現れていると言えよう。

図 2 - 9 1 【大学院】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価（時系列）



所属プログラム別に通信指導・単位認定試験の評価を見ると（図 2 - 9 2）、通信指導は、平均値では評価差は小さいが、肯定的評価ではやや差が大きくなっている。単位認定試験は、「生活健康科学」と「文化情報学」の評価がやや高く、「自然環境科学」の評価が低い。

図 2 - 9 2 【大学院】所属プログラム別の通信指導・単位認定試験の評価



## Ⅱ－２－４．参考

ここでは、学部の場合と同様に、総合評価と各個別評価との関係を、相関係数を用いてみていく（相関係数の意味と見方については、65頁を参照されたい）。

表２－５は、放送授業の各評価項目と（A-2）「放送授業を十分に視聴した」（放送授業への取組姿勢）及び（B-7）「放送授業は教材としてよくできていると感じた」（放送授業の総合評価）の相関係数である。

表 2－5 【大学院】放送授業と各項目との単相関係数

	(A2)放送授業を十分に視聴した	(B7)放送授業は教材としてよくできていると感じた
(A2)放送授業を十分に視聴した	1.000	0.370
(B1)放送授業の難易度は適切だった	0.420	0.575
(B2)放送授業の内容は適切な分量であった	0.433	0.592
(B5)講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0.425	0.745
(B6)講師の熱意が十分に伝わった	0.449	0.702
(B7)放送授業は教材としてよくできていると感じた	0.370	1.000
(B8)【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.329	0.612

これを見ると、（A-2）「放送授業を十分に視聴した」（放送授業への取組姿勢）と（B-7）「放送授業は教材としてよくできていると感じた」（放送授業の総合評価）の相関係数は0.370と、緩やかな相関が見られる。つまり放送授業の視聴度合いと放送授業の評価は、決して強くはないが、やや関連性があると言ってよい。

また（A-2）「放送授業を十分に視聴した」（放送授業への取組姿勢）と放送授業の各評価項目の間では、（B-8）「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」を除いて、いずれも相関係数0.400以上と相関が見られる。放送授業の取組姿勢のよい人は放送授業の評価がよく、逆に放送授業の評価がよいと取組姿勢もよくなることが推測される。

一方、（B-7）「放送授業は教材としてよくできていると感じた」（放送授業の総合評価）と放送授業の各評価項目との間では、いずれも強い相関が見られ、特に（B-5）「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」が相関係数0.745、（B-6）「講師の熱意が十分に伝わった」が相関係数0.702と、相関が強くなっている。したがって、総合評価を高める上では、学部と同様、いずれの評価項目もよく改善することが重要であるが、特に講師の説明の分かりやすさや講師の熱意が大切だと言える。

次に、印刷教材の各評価項目と、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」(印刷教材への取組姿勢)及び(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」(印刷教材の総合評価)の相関係数を見たのが表2-6である。

表2-6 【大学院】印刷教材と各項目との単相関係数

	(A3)印刷教材を熱心に学習した	(B12)印刷教材は教材としてよくできていると感じた
(A3)印刷教材を熱心に学習した	1.000	0.310
(B3)印刷教材の難易度は適切だった	0.360	0.576
(B4)印刷教材の内容は適切な分量であった	0.326	0.571
(B9)印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	0.286	0.554
(B10)印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0.337	0.728
(B11)図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0.268	0.698
(B12)印刷教材は教材としてよくできていると感じた	0.310	1.000

まず(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」(印刷教材への取組姿勢)と、(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」(印刷教材の総合評価)および印刷教材の各評価項目との間には、あまり相関は見られない。

一方、(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」(印刷教材の総合評価)と印刷教材の各評価項目とでは相関が強く、特に(B-10)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」は相関係数0.728、(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」が0.698と相関が強くなっている。そのため印刷教材の総合評価を高めるためには、いずれの評価項目もよく改善すると同時に、特に説明の分かりやすさと図表や写真を有効利用に注力することが重要と言える。

最後に(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」、(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」及び(B-20)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」と各評価項目の相関係数を見たのが次頁表2-7である。



表 2-7 【大学院】 取組姿勢・全体評価と各項目との単相関係数

		(A1)全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	(B19)この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	(B20)この科目の内容には全体として満足している(満足度)
取組姿勢	(A1)全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	1.000	0.430	0.388
	(A2)放送授業を十分に視聴した	0.520	0.252	0.212
	(A3)印刷教材を熱心に学習した	0.705	0.388	0.335
授業の難易度・分量	(B1)放送授業の難易度は適切だった	0.339	0.513	0.520
	(B2)放送授業の内容は適切な分量であった	0.297	0.426	0.493
	(B3)印刷教材の難易度は適切だった	0.349	0.564	0.582
	(B4)印刷教材の内容は適切な分量であった	0.303	0.517	0.569
放送授業	(B5)講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0.318	0.511	0.556
	(B6)講師の熱意が十分に伝わった	0.296	0.416	0.492
	(B7)放送授業は教材としてよくできていると感じた	0.274	0.461	0.556
	(B8)【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.244	0.399	0.441
印刷教材	(B9)印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	0.297	0.426	0.481
	(B10)印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0.304	0.579	0.614
	(B11)図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0.277	0.470	0.508
	(B12)印刷教材は教材としてよくできていると感じた	0.298	0.535	0.658
通信指導・単 位認定試験	(B13)通信指導のコメントは、納得のいくものだった	0.208	0.366	0.462
	(B14)通信指導は学習内容の理解に役立った	0.272	0.440	0.515
	(B15)単位認定試験の問題は科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった	0.299	0.463	0.544
全体評価	(B16)授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った	0.320	0.515	0.575
	(B17)学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	0.392	0.595	0.718
	(B18)新しい知識が身につく視野が広がった	0.395	0.527	0.647
	(B19)この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	0.430	1.000	0.722
	(B20)この科目の内容には全体として満足している(満足度)	0.388	0.722	1.000

まず、全体的な熱心度（取組姿勢）と科目の理解度、満足度との関係を見ると、熱心度は理解度と 0.430、満足度と 0.388 の相関係数であり、熱心度と理解度・満足度との間には緩やかな相関が見て取れる。また理解度と満足度の相関係数は 0.722 と強い相関が見られ、理解度が高いと満足度も高いと言える。

(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」と各評価項目の相関を見ると、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」が相関係数 0.705 と強い相関が見られ

が、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は相関係数 0.520 となっており、印刷教材中心の学習実態が反映されている。さらに全体評価の各評価項目とも緩やかな相関が見られる。

(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」は、取組姿勢以外の各評価項目と相関が見られる。理解度は、放送授業や印刷教材の難易度・分かりやすさ、授業内容が興味や関心の高まるものであったかどうか、新しい知識が身につく視野が広がるものであったかどうかなど、さまざまな項目が要因となっている状況が窺える。

さらに、(B-20)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」も取組姿勢以外の各評価項目と相関が見られ、満足度を高める上でいずれの評価項目も影響していることが分かる。なかでも特に相関が強いのは、(B-10)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」、(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」、(B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、(B-18)「新しい知識が身につく視野が広がった」である。科目の満足度を高める上で、印刷教材の分かりやすさ、興味・関心のもてる授業内容、視野が広がるような知識の習得などが特に重要なポイントと言える。